

令和4年度

植物防疫事業年報

令和5年(2023年)3月

滋賀県病害虫防除所

目次

第1	病害虫防除所事務分掌表	1
第2	病害虫発生予察事業	
1	事業の目的	3
2	事業の実施概要	3
3	気象概況	6
4	普通作物病害虫発生予察事業	
(1)	イネ	7
(2)	ムギ	3 3
(3)	ばれいしょ	3 6
(4)	ダイズ	3 7
5	野菜（露地）病害虫発生予察事業	4 0
6	果樹等作物病害虫発生予察事業	
(1)	果樹	5 5
(2)	チャ	6 2
(3)	花き（キク）	7 1
7	病害虫防除推進員	7 2
8	滋賀県病害虫防除所ホームページ	8 1
9	本年度新たに発生が確認された病害虫	8 2
10	病害虫の診断および生態調査	8 3
第3	重要病害虫の特別防除等推進事業	
1	チチュウカイミバエの侵入警戒調査	9 3
2	その他病害虫の侵入警戒調査	9 3
第4	農薬安全使用等総合推進事業	
1	農薬安全使用対策	9 4
2	農薬販売者の届出状況	9 4
3	農薬取扱者への巡回点検・指導の結果	9 4
第5	病害虫発生予察情報発表内容	
1	予報	9 6
2	注意報および警報	1 0 7
3	特殊報	1 1 3
4	防除情報	1 1 5
5	その他情報・発表・広報・研修会等	1 2 3
第6	試験成績	1 2 4

注：本文中の「平年値」とは、特に記載のない限り平成24年から令和3年の平均値を指す。
表中の「-」は、データの欠測または該当なしを示す。

第 1 病虫害防除所事務分掌表

(令和 4 年 4 月 1 日)

所 次 長 蓮 川 博 之
長 小久保 信 義

分 掌 事 務	主 任	副 主 任
1. CO ₂ ネットゼロに向けた事務事業の推進に関する事	全職員	
1. 所事務の総括に関する事 2. 関係機関および団体との連絡調整に関する事 ----- 3. 植物防疫事業に関する事 4. 予察情報作成会議に関する事	小久保 次 長	金子 主 幹 宇野 副主幹 ----- 近 藤 副主幹
1. 公印の管理に関する事 2. その他庶務に関する事	松 村 主 事	沢 田 主任主事
1. 予算の執行および決算に関する事 2. 諸給与・その他経理に関する事 3. 文書の收受編さんに関する事	沢 田 主任主事 植 田 主 事	宇野 副主幹 松 村 主 事
1. 農薬取締法に関する事 2. 作物の発生予察に関する事	金 子 主 幹	近 藤 副主幹 長谷部 副主幹
1. 病害の診断に関する事 2. 薬剤耐性菌検定に関する事 3. 予察灯およびトラップ調査等に関する事	長谷部 副主幹	金子 主 幹 小 幡 主任技師
1. 病虫害防除推進員に関する事 2. 薬剤抵抗性害虫検定および虫害の診断に関する事 3. 総合的病虫害管理(IPM)の推進に関する事	近 藤 副主幹	金子 主 幹 増 田 主任技師 北 野 技 師
1. ホームページ等による情報提供に関する事 2. 病虫害発生量の調査報告に関する事	増 田 主任技師	北 野 技 師 小 幡 主任技師
1. 病虫害発生予察の計画および情報作成に関する事 2. いもち病発生予察システムに関する事	小 幡 主任技師	長谷部 副主幹 近 藤 副主幹 増 田 主任技師
1. 気候変動に伴う病虫害の発生予察・防除対策の開発に関する事	北 野 技 師	金子 主 幹 増 田 主任技師 長谷部 副主幹
1. 果樹の発生予察事業および防除に関する事	橋 本 副主幹	増 田 主任技師
1. 茶の発生予察事業および防除に関する事	松 本 主任技師	近 藤 副主幹
1. 県南部地域における発生予察事業に関する事	増 田 主任技師	北 野 技 師
1. 大津・南部地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 ----- 2. 甲賀地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事	柴 田 主任技師 ----- 杉 浦 技 師	増 田 主任技師 北 野 技 師
1. 県中部地域における発生予察事業に関する事	金 子 主 幹	近 藤 副主幹
1. 東近江地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事 ----- 2. 湖東地域の病虫害発生情報収集および防除指導に関する事	椎 木 技 師 ----- 宇 野 副主幹	金子 主 幹 近 藤 副主幹

1. 県北部地域における発生予察事業に関する事	小 幡 主任技師	長谷部 副主幹
1. 湖北地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関する事	近 藤 主 査	小 幡 主任技師
2 高島地域の病害虫発生情報収集および防除指導に関する事	小 嶋 副主幹	長谷部 副主幹

第2 病害虫発生予察事業

1 事業の目的

農作物の生産安定と品質の向上を図ると同時に環境に優しい病害虫防除を推進するためには、病害虫の防除を適時かつ効率的に行う必要がある。

このため、発生予察事業は広域に発生し、急激にまん延して農作物に重大な被害を与える病害虫について、その発生動向等を調査し、防除を要する病害虫や防除対策に関する情報を農業者等に提供することにより、病害虫の防除を効果的かつ効率的に適期に行い、その被害を防止して農業生産の安定と助長を図ることを目的とする。

2 事業の実施概要

1) 事業対象作物および病害虫（指定有害動植物は交付金の対象）

耕種	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
普通作物	イネ	指定	いもち病、紋枯病、稲こうじ病、もみ枯細菌病（苗腐敗病）、ばか苗病、縞葉枯病	イネミズゾウムシ、ニカメイガ、ヒメトビウンカ、セジロウンカ、トビイロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ、コバネヒョウタンナガカメムシ）、コブノメイガ、フタオビコヤガ
		指定外	白葉枯病、黄萎病、ごま葉枯病	イネドロオイムシ、イチモンジセセリ、コバネイナゴ、イネクロカメムシ
	ムギ	指定	うどんこ病、赤かび病	-
		指定外	さび病類、黒節病、縞萎縮病	-
	ダイズ	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、吸実性カメムシ類（ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ）、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※
		指定外	べと病、葉焼病	フタスジヒメハムシ、ハダニ類
野菜	トマト	指定	灰色かび病、疫病、葉かび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）、オオタバコガ※
		指定外	-	タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ナス	指定	うどんこ病、灰色かび病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ）、オオタバコガ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類、タバコガ類（オオタバコガを除く）
	ばれいしょ	指定	疫病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、ハスモンヨトウ※
		指定外	-	ニジュウヤホシテントウ類
	キュウリ	指定	うどんこ病、灰色かび病、べと病、褐斑病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）
		指定外	-	ハダニ類

耕種	対象作物	指定	有害動植物名	
		指定外	病害	虫害
野菜	キャベツ	指定	黒腐病、菌核病	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、オオタバコガ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、カブラヤガ（ネキリムシ類）、モンシロチョウ、ハイマダラノメイガ
	はくさい	指定	-	-
		指定外	軟腐病	タバコガ類（オオタバコガを除く）、モンシロチョウ
	だいこん	指定	-	アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ）
		指定外	-	ハイマダラノメイガ
	ブロッコリー	指定	-	ハスモンヨトウ※、ヨトウガ※、コナガ※
		指定外	黒腐病	-
	ねぎ	指定	さび病、黒斑病、べと病	アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ハスモンヨトウ※、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、シロイチモジヨトウ※
		指定外	-	-
たまねぎ	指定	べと病、白色疫病	アザミウマ類（ネギアザミウマ）	
	指定外	-	-	
サトイモ	指定	-	ハスモンヨトウ※	
	指定外	-	ハダニ類	
花き	キク	指定	白さび病	アブラムシ類（ワタアブラムシ、キクヒメヒゲナガアブラムシ）、アザミウマ類（ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマ）
		指定外	-	-
果樹	ナシ	指定	黒星病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ）、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アブラムシ類（ナシアブラムシ、ナシミドリアブラムシ）
		指定外	うどんこ病	ニセナシサビダニ
	ブドウ	指定	べと病、灰色かび病、晩腐病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
		指定外	うどんこ病	カイガラムシ類（クワコナカイガラムシ）、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）
	カキ	指定	炭疽病	果樹カメムシ類※（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、アザミウマ類（カキクダアザミウマ、チャノキイロアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）
		指定外	円星落葉病、角斑落葉病、うどんこ病	-
茶樹	チャ	指定	炭疽病	ハマキムシ類（チャノコカクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ）、チャノホソガ
		指定外	もち病、新梢枯死症、輪斑病	チャノミドリヒメヨコバイ、アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ）、カメムシ類（ツマグロアオカスミカメ）、クワシロカイガラムシ、チャトゲコナジラミ

※ 作物共通の指定有害動植物については、本県での対象作物ごとに示した。

(2) 調査ほ場の設置状況

耕種	対象作物	調査地点数		設置場所
		区分	地点数	
普通作物	イネ	定点	1	近江八幡市
		巡回	35	大津市(2)、草津市、守山市、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市(3)、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市(6)、彦根市、愛荘町、甲良町、多賀町、米原市(3)、長浜市(5)、高島市(4)
	ムギ	定点	1	近江八幡市
		巡回	38	大津市、草津市、守山市(2)、栗東市、野洲市(3)、湖南市、甲賀市(2)、近江八幡市(3)、日野町、竜王町(2)、東近江市(6)、彦根市(2)、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町、米原市、長浜市(6)、高島市(2)
	ダイズ	定点	1	近江八幡市
		巡回	22	大津市、草津市、守山市(2)、栗東市、野洲市、湖南市、甲賀市、近江八幡市、日野町、竜王町、東近江市(2)、彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、米原市、長浜市(3)、高島市
野菜類	-	定点	0	-
		巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
花き	キク	定点	0	-
		巡回	8	草津市、野洲市、湖南市、近江八幡市、彦根市、甲良町、米原市、高島市
果樹	ナシ	定点	1	栗東市
		巡回	2	東近江市、彦根市
	ブドウ	定点	1	栗東市
		巡回	2	東近江市、長浜市
カキ	定点	1	栗東市	
	巡回	2	東近江市、米原市	
茶樹	チャ	定点	1	甲賀市水口町
		巡回	7	甲賀市土山町(3)、信楽町(3)、日野町

(3) 予察灯およびフェロモントラップの設置

設置場所	種類	対象害虫名
大津市 里	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
守山市 矢島町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
栗東市 荒張	乾式日別予察灯 (高圧水銀灯)	果樹カメムシ類、ガ類
	フェロモントラップ	果樹カメムシ類、ナシヒメシクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ
甲賀市 水口町 水口	予察灯(水盤)	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
	フェロモントラップ	チャノコカクモンハマキ、チャハマキ、チャノホソガ
近江八幡市 安土町大中	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、コナガ、カブラヤガ、タバコガ、オオタバコガ、ヨトウガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ
	黄色水盤	アブラムシ類
長浜市 難波町	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ
高島市 今津町日置前	乾式日別予察灯	ガ類、ウンカ・ヨコバイ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ
	フェロモントラップ	ニカメイガ、ハスモンヨトウ

3 気象概況

(1) 年間の概況〔彦根アメダス観測値〕

- ・平均気温：15.7℃（平年値15.1℃*、R4年15.7℃）
 - ・降水量：平年比90%
 - ・日照時間：平年比106%
 - ・年平均気温は全般に平年より高かった。6月の気温は平年より高く推移し、特に6月の後半は記録的な暑さとなった。また、降水量は全般に平年並または少なかったが、9月は台風の影響を受け記録的短時間大雨情報が出された日もあった。
- *平年値は1991年～2020年の平均

(2) 稲作期間(4月～10月)の概況〔彦根アメダス観測値〕 (図1)

- ・平均気温：22.0℃（平年値21.0℃*、R4年21.5℃）
 - ・降水量：平年比90%
 - ・日照時間：平年比94%
 - ・水稻の生育に影響を及ぼした特筆すべき気象としては、6月から9月までの平均気温が平年より0.8～1.6℃高く推移し、7月の降水量が平年より129 mm多かったことが挙げられる。
 - ・梅雨入り：6月14日ごろ（平年値6月6日）、梅雨明け：7月23日ごろ（平年値7月19日）
- *平年値は1991年～2020年の平均

2022年気象表(彦根アメダス)

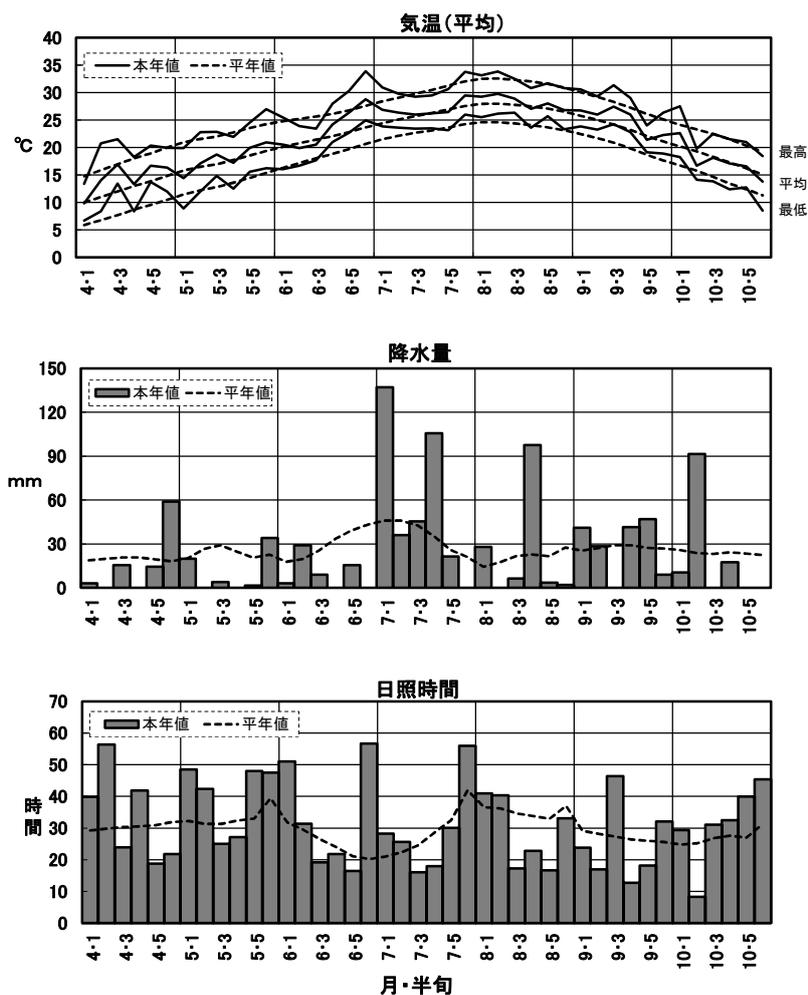


図1 2022年4～10月における彦根市の気温、降水量および日照時間

4 普通作物病害虫発生予察事業

イネ、ムギおよびダイズを対象として、主要病害虫を重点的に調査した。その結果に基づき病害虫発生予察情報として、発生予報9回、注意報3回（ムギ類赤かび病、イネいもち病、斑点米カメムシ類）、防除情報9回（ムギ赤かび病3回、斑点米カメムシ類1回、葉いもち1回、タバコガ類1回、トビイロウンカ1回、スクミリンゴガイ1回、イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）1回）を発表した。

（1）イネ

ア 生育概況

・農林水産省公表の作況指数

2022年12月9日現在での滋賀県の作況指数は「101」となった。

生育の概況として、登熟は、出穂期以降の8月中旬～下旬が日照不足で経過したものの、7月下旬～8月上旬が高温・多照であったこと、9月以降の気温が平年を上回って経過したこと等から「平年並」となった。全もみ数は、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並」となった。一部で斑点米カメムシ類の吸汁害がみられたものの、作況は最終的に「平年並」となった。

・農業技術振興センターにおける作況調査の結果

【生育】

5月中下旬の気温は平年並で多照により、生育初期の「みずかがみ」の茎数は平年並、「コシヒカリ」は平年より多くなった。6月中旬～7月上旬の気温は平年より高く、6月第6半旬～7月上旬の日照時間は平年より多く、出穂期は「みずかがみ」で平年より2日早く、「コシヒカリ」で1日早まった。

8月中旬以降、気温は平年並からやや高く推移したものの寡照であったことから、登熟期間は両品種とも平年より1～2日長くなった。

成熟期の稈長は平年に比べ、「みずかがみ」で3.5cm、「コシヒカリ」で6.3cm長くなり、特に「コシヒカリ」は第4、第5の下位節間が伸び、成熟期には全面倒伏した。

【収量】

「みずかがみ」の精玄米重（網目1.9mm）は589kg/10a（平年比98%）、「コシヒカリ」の精玄米重は516kg/10a（平年比92%）となった。

「みずかがみ」は、穂数、一穂粒数は平年より多くなったが、登熟歩合は81.9%（平年比92%）と低くなった。「コシヒカリ」は、一穂粒数は平年並であったものの穂数が450本/m²と多く、m²当たり粒数は多くなったが、登熟歩合が68%（平年比89%）と低くなり、大きく減収した。

【品質】

「みずかがみ」では白未熟粒が少なく、外観品質はやや良となった。「コシヒカリ」では、乳白などの白未熟粒がやや多く、外観品質は平年並となった。

※）今回用いた農業技術振興センターの作況調査データでは、過去7年の値の平均を基準としており、本生育概況では、それらを平年値とした。

イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
葉いもち	やや遅	多	ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は、やや遅かった。また、7月上旬の調査では、発生ほ場率18.3%と発生は、やや多かった。7月中旬の調査では発生ほ場率48.3%となり、過去10年間で最も高く、上位葉への進展も認められた。	前年度の穂いもちの発生量は、やや多く、伝染源は多かったと考えられる。葉いもちの感染好適日は6月3半旬、7月1半旬および7月4半旬に県内全域で確認された。特に7月は降水量が多く（年平均160%）、感染が拡大したと考えられる。	移植時の育苗箱施薬が普及している。6月下旬の発生量が、やや多く、6月中旬以降感染好適日が出現していたことから、7月6日に防除情報を発表した。さらに、7月中旬の発生圃場率が高く、その後の天候による感染拡大が見込まれたため、7月19日に穂いもちを対象に注意報を発表した。葉いもちが発生したほ場では追加防除が実施された。
穂いもち	平年並	やや多	ほ場での初発確認は7月27日で、発生時期は平年並であった。発生ほ場率は81.7%と高かったが、発病率率は、やや高い程度となった。	水稲早生品種の出穂時期は平年並で、穂いもちの初発時期は平年並であった。伝染源となる葉いもちの発生量が多く、穂いもちの発生は県内全域で認められた。一方で、県内の主要な早生品種の出穂期前後である7月下旬～8月上旬の降水量は、やや少なく、気温は高かったため、多発生以上のほ場は多くなかった。	出穂期前後に、地域一斉防除や無人ヘリなどによる防除の実施。ドリフト対策として、粒剤による防除が普及している。注意報（7月19日）発表後、いもち病発生ほ場では追加防除が実施された。
紋枯病	遅	平年並	ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は遅かった。7月上～中旬の発生量は、やや少なかったが、成熟期には全体的に発生が認められ（発生ほ場率87.2%）、平年並の発生量となった。	5月上旬の低温から初期の分けつが、やや遅れ、紋枯病の初発が遅くなった。また、初発後も茎数は、やや少なく推移し、7月中旬までの発生量（水平伸展）は、やや少なかった。一方で、7月以降、気温は高く、降水量は多く、垂直伸展が急激に進行したため、収穫直前の発生量は平年並となった。	移植時の箱粒剤による防除及び本田防除が常発地を中心に導入されている。
白葉枯病	遅	やや少	ほ場での初発確認は8月31日で、発生時期は遅かった。発生は常発地に限られていたため、発生量は、やや少なかった。	主要な早生品種では、影響を受ける台風の影響がなかったことと、前年の発生量が少なく、残存する細菌密度も低かったことから、発生量は、やや少なかった。	本病に効果のある育苗箱施薬剤が一部地域で導入。
ばか苗病	-	-	ほ場での初発確認は5月30日であった。一部の常発地を中心に発生が認められた。	温湯消毒を中心に生物農薬、化学農薬による種子消毒が普及しているため、発生は一部常発地にとどまった。	種子消毒による防除の実施。
もみ枯細菌病	-	-	ほ場での初発確認は8月17日であった。発生地は限られた。	前年の発病が少なかったことから、罹病率が少なく、主要な早生品種では影響を受ける台風の影響もなかったことから、発病が少なかった。	種子消毒と移植時の箱粒剤による防除の実施。
ごま葉枯病	早	多	ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は早かった。発生ほ場率は17.8%と過去10年で2番目に高く、平年（6.1%）の約3倍であった。一部ほ場で穂枯れに至るほ場が確認された。	7月上中旬の降水量が多く、発生時期は平年より2週間以上早まった。また、早生品種の出穂期ごろから発生が認められたため、穂枯れにもつながった。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
縞葉枯病	早	平年並	ほ場での初発確認は6月13日で、発生時期は早く、発生量は、やや少なかった。なお、刈株再生芽での発生は全域で見られ、10月の調査の発生量は、やや多かった。	ヒメトビウンカの越冬世代の発生量は多く、イネ縞葉枯病ウイルス（RSV）保毒虫率も、やや高い傾向にあった。そのことから8月上旬以降、立毛中の本病の発生量は、やや多い傾向となり、10月の刈株再生芽での発生は、やや多かった。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除、秋季の耕起の徹底により、媒介虫のヒメトビウンカの発生が抑制されている。
黄萎病	-	少	立毛中および刈株再生芽での発生は認められなかった。	媒介虫であるツマグロヨコバイの発生量は、やや少なく、箱粒剤の施用や共同防除が実施されている。このため近年、本病の発生はほとんど見られない。	移植時の箱粒剤および出穂期以降の防除で、媒介虫のツマグロヨコバイの発生が抑制されている。
稲こうじ病	早	多	ほ場での初発確認は8月8日で、発生時期は早かった。発生ほ場率は6.1%と過去10年で最も高く、中発生以上のほ場も確認された。	前年の発生量は平年並であったが、7月上中旬の降水量は多く、日照時間は少なかったため、出穂前で感染適期のタイミングと重なったほ場では、感染が助長された。	穂いもちの防除時に同時防除の実施。
ニカメイガ第1世代	平年並	やや少	越冬世代成虫の温量による推定値である発最盛期は、やや早かったが、予察灯での誘殺時期は平年並であった。ほ場での発生時期は平年並で、発生量は、やや少なかった。	前年の第2世代幼虫の発生は、やや少なかった。越冬世代成虫の予察灯への初飛来は4月第5半旬で平年並であったが、発最盛期は、やや早い傾向にあった。育苗箱施薬剤の使用の有無により、ほ場での発生量には差が見られるが、全体での発生量は、やや少であった。	移植時の育苗箱施薬が普及している。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ニカメイガ 第2世代	平年並	少	ほ場での初発確認は7月25日 で、発生時期は平年並で、発生 量は少なかった。	第1世代幼虫の発生時期は、やや早く、 第1世代成虫の発ガ最盛期も7月第4半句と、 やや早かった。第1世代成虫の発生量が、 やや少なかったことから、第2世代幼虫の 発生も少なくなった。	第1世代幼虫が多発したほ場 では、主に粒剤を用いた防除 がされている。近年、被害ほ 場は減少しており、防除面積 も減少している。
トビロ ウンカ	早	平年並	予察灯での初発確認は7月18 日で平年より早く、県内4地 点それぞれで1~2頭ずつ確認 された。7月下旬~9月にかけ 複数回、本田すくい取り・払い 落とし調査を実施したが、 本種は捕獲されなかった。また 本種による坪枯れ症状の発生 も確認されなかった。	予察灯への飛来時期が早く、また、例年 とは異なる府県で飛来が確認されていた ことから、本県でも警戒していたが、本 県へは多数の飛来は無く、ほ場内増殖も 起こらなかったと判断された。	出穂期の防除により、斑点米 カメムシ類と併せて防除され ることが多い。今年は平年よ り早く飛来が確認されたた め、防除情報を1回発表し、 啓発に努めた。
セジロ ウンカ	やや遅	やや少	予察灯への初飛来は6月29日 で、平年より、やや遅かつ た。ほ場での7月上旬の発生 量は平年並、8月中下旬で は、やや少なかった。	予察灯への飛来状況から、大陸からの飛 来が断続的であったが、飛来量が少な かったと思われる。	育苗箱施薬剤の利用により発 生が抑制。また、出穂期の防 除により、斑点米カメムシ類 と併せて防除されることが多 い。
ヒメトビ ウンカ	平年並	平年並	予察灯への初飛来は4月5日 で、やや早かった。越冬世代 の発生量は、やや多く、ほ場 での7月上旬の発生量は、 やや多く、8月中下旬では平 年並であった。	越冬量は、やや多く、予察灯への初飛来 時期は、やや早かった。8月4半句の多雨 により、ほ場内での増殖は抑制されたた め、発生は、平年並になったと思われ る。	育苗箱施薬剤の利用により発 生が抑制。また、出穂期の防 除により、斑点米カメムシ類 と併せて防除されることが多 い。
ツマグロ ヨコバイ	平年並	平年並	予察灯への初飛来は4月6日 で、平年並であった。越冬世 代の発生量は平年並、ほ場 での7月上旬の発生量は平年 並、8月中下旬では平年並 であった。	昨年の発生量は、やや少なく、越冬量 は、平年並であった。地域・ほ場間差 は、育苗箱施薬剤の使用および出穂期防 除の有無によるところが大きい。	育苗箱施薬剤の利用により発 生が抑制される。また、出穂 期の防除により、斑点米カ メムシ類と併せて防除され ることが多い。
イチモンジ セセリ	やや遅	やや少	ほ場での初発確認は6月16日 で、発生時期は、やや遅く、 発生量は、やや少なかった。	前年の発生が、やや少なく、ニカメイガ に効果の高い育苗箱施薬剤の導入が進ん だため、同時に防除され、発生量が抑制 されている。	ニカメイガに効果の高い育苗 箱施薬剤が使用されているほ 場では、同時防除されてい る。
フタオビコ ヤガ	遅	少	ほ場での初発確認は7月6日 で、発生時期は遅く、発生量 は少なかった。	昨年の発生量は平年並であったが、ニカ メイガに効果の高い育苗箱施薬剤が導入 されているほ場では、同時に防除され、 発生量が抑制されている。	ニカメイガに効果の高い育苗 箱施薬剤が使用されているほ 場では、同時防除されてい る。
コブノ メイガ	遅	やや少	ほ場での初発確認は8月10日 で、発生時期は遅く、発生は 一部地域に限られた。	海外からの初飛来が極めて遅く、飛来量 も少なかったと考えられる。	多発した年のみ、本田での防 除が実施されている。
イネミズ ゾウムシ	遅	やや少	本田への飛び込み時期は遅 かった。5月下旬の食害程度 は、やや少なかったが、ほ場 間差が大きかった。	田植と同時に本田に侵入する。育苗箱施薬 剤の施用有無により、被害のほ場間差が顕著 であった。多発ほ場では、効果のある育 苗箱施薬剤が使用されていない。	育苗箱施薬剤による防除が実 施されている。
イネドロオ イムシ	遅	やや多	ほ場での初発確認は6月14日 で、発生時期は遅かった。6 月下旬の食害程度は、やや多 く、中山間地域など、一部で 多発ほ場も見られた。	前年の発生量は、やや多かった。5月中旬 に、本種の増殖に好適な曇りや雨の日が 多かったことから、中山間地等を中心に 食害が目立つほ場が見られた。	育苗箱施薬剤による防除が実 施されている。発生が多いほ 場では本田施用の粒剤による 防除が実施されている。
斑点米 カメムシ類	平年並	やや多	越冬世代の発生時期は平年並 であった。6月下旬の畦畔の すくい取り調査では、発生量 は多く、7月に入り、一部地 域ではクモヘリカメムシなど 大型カメムシが多くなった。 7月下旬から8月上旬にかけて 出穂期防除が実施されたが、 本田での発生量は、大型のホ ソハリカメムシ、クモヘリカ メムシおよびトゲシラホシカ メムシに加え、小型のカスミ カメムシ類の発生量も多くな り、全体の発生量は、やや多 くなった。	5月から6月下旬までの気温が高かったた め、発生量は、やや多くなり、その影響 から年間を通して発生量は、やや多くな った。7月に畦畔イネ科雑草での生息数 が多くなり、出穂期以降に本田への飛び 込みが増大した。出穂期の薬剤防除は実 施されたが、その後に飛来する大型カメ ムシも多かったと思われる。	畦畔のイネ科雑草が出穂しな いよう、多くのほ場で適正に 除草作業が実施され、本田へ の侵入抑制が図られている。 また、出穂後に一斉防除がさ れている。使用薬剤は液剤や 粉剤が主であるが、ドリフト 対策として粒剤が使用されて いる地域もある。6月下旬の 畦畔でいずれの種も発生量が 多く、7月6日に防除情報を発 表した。また本田では、早生 水稻出穂期前の7月上旬 に、上記カメムシに加えイネ カメムシも多くみられたこと から、7月21日に注意報を発 表した。
コバネ イナゴ	平年並	平年並	ほ場での初発確認は5月17日 で、発生時期は平年並であ った。ほ場での発生量は平年並 であった。	前年の発生量は平年並であった。出穂期 のカメムシ類対象の薬剤散布で、同時防 除されたと考えられる。	斑点米カメムシ類と併せて防 除されることが多い。

ウ 定点における調査
(ア) いもち病発生予察システム

a 判定結果(JPP-NET版BLASTAMの判定結果)

令和4年(2022年) BLASTAM 結果										
		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月1日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	火	-	●	-	○4	-	○4	-	-	○4
6月8日	水	○4	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	木	-	-	-	-	-	-	?	-	-
6月10日	金	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	土	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	日	-	-	○1	○1	●	●	●	○1	○1
6月13日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	水	●	-	-	●	●	●	-	-	-
6月16日	木	-	-	-	-	-	○4	●	-	-
6月17日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	水	-	●	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	木	-	-	-	-	-	-	-	●	-
6月24日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	日	-	-	●	-	-	-	-	●	●
6月27日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	土	?	?	-	?	-	?	-	?	?
7月3日	日	?	-	-	?	-	-	-	?	?
7月4日	月	?	○2	○2	○3	○3	○2	○2	●	○2
7月5日	火	-	○2	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	水	○2	-	-	-	-	-	-	●	○2
7月7日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月10日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	○2
7月11日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	火	-	-	○2	-	-	-	-	-	-
7月13日	水	○2	○2	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	金	-	-	-	-	-	-	○2	●	-
7月16日	土	-	○2	●	-	-	-	-	●	●
7月17日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	月	-	-	-	○2	-	-	-	-	-
7月19日	火	●	-	-	-	-	-	-	●	-
7月20日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[判定結果の指標]

●=感染好適条件

湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めた前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。

○=準好適条件

- 1：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満。
- 2：湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上。
- 3：湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外。
- 4：湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い。

-：好適条件なし。

?：判定不能。

b 情報提供

病害虫防除所のホームページ上にて、感染好適条件の出現状況（上記）を随時公開した。

(イ) 予察灯による調査

ニカメイガ発生型一覧

事項		大津市里			守山市矢島町			近江八幡市安土町大中		
		本年	平年	差	本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	5/18	5/12	+6	4/23	5/6	-13	4/24	4/30	-6
	最盛日 (月日)	5/16	5/20	-4	4/22	5/28	-36	5/23	5/22	+1
	50%誘殺日 (月日)	5/18	5/22	-4	4/24	5/28	-34	5/22	5/22	±0
	終息日 (月日)	5/18	6/13	-26	7/1	6/26	+5	7/4	6/23	+11
	誘殺日数 (日)	1	5	-4	4	29	-25	26	21	+5
	誘殺数 (頭)	1	5	-4	6	172	-166	68	57	+11
	性比 (♂/♀, %)	0	129	-129	100	96	+4	48	73	-25
第1世代	初飛来日 (月日)	7/12	7/21	-9	7/8	7/14	-6	7/14	7/13	+1
	最盛日 (月日)	8/20	8/3	+17	7/30	7/25	+5	8/2	7/27	+6
	50%誘殺日 (月日)	8/11	8/4	+7	7/31	7/29	+2	8/4	7/31	+4
	終息日 (月日)	9/8	8/21	+18	9/14	9/10	+4	9/5	9/6	-1
	誘殺日数 (日)	5	5	±0	46	32	+14	24	26	-2
	誘殺数 (頭)	6	7	-1	403	170	+233	40	71	-31
	性比 (♂/♀, %)	20	64	-44	38	121	-83	111	94	+17
総誘殺日数 (日)	6	10	-4	50	61	-11	50	47	+3	
総誘殺数 (頭)	7	13	-6	409	343	+66	108	128	-20	
性比 (♂/♀, %)	17	72	-55	39	106	-67	66	83	-17	
第1世代/越冬世代 (%)	600	190	+410	6717	121	+6596	59	162	-103	

事項		長浜市難波町			高島市今津町日置前		
		本年	平年	差	本年	平年	差
越冬世代	初飛来日 (月日)	5/4	5/10	-6	5/11	5/8	+3
	最盛日 (月日)	5/27	5/28	-1	5/25	5/24	+1
	50%誘殺日 (月日)	5/28	5/28	±0	5/25	5/24	+1
	終息日 (月日)	6/25	6/14	+11	6/19	6/24	-5
	誘殺日数 (日)	25	14	+11	23	23	±0
	誘殺数 (頭)	79	44	+35	80	130	-50
	性比 (♂/♀, %)	46	82	-36	135	140	-5
第1世代	初飛来日 (月日)	7/17	7/17	±0	7/19	7/15	+4
	最盛日 (月日)	8/2	7/28	+5	7/31	7/31	±0
	50%誘殺日 (月日)	8/1	7/30	+2	7/31	7/31	±0
	終息日 (月日)	9/11	8/16	+26	9/3	9/12	-9
	誘殺日数 (日)	31	12	+19	22	27	-5
	誘殺数 (頭)	107	32	+75	67	145	-78
	性比 (♂/♀, %)	47	109	-62	81	80	+1
総誘殺日数 (日)	56	27	+29	45	50	-5	
総誘殺数 (頭)	186	76	+110	147	275	-128	
性比 (♂/♀, %)	46	81	-35	107	92	+15	
第1世代/越冬世代 (%)	135	106	+29	84	181	-97	

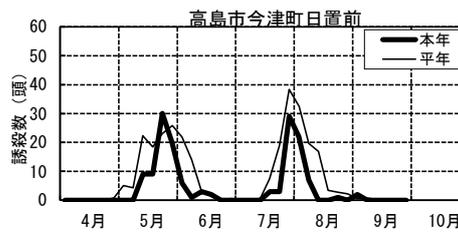
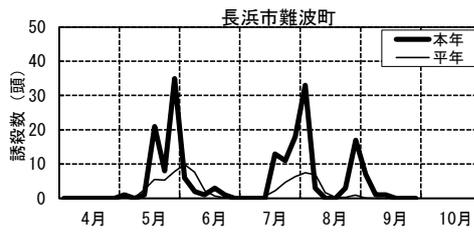
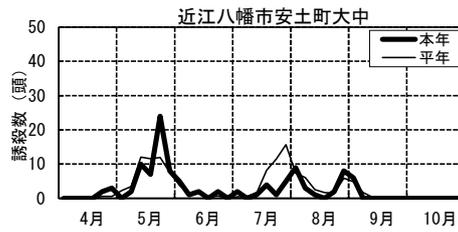
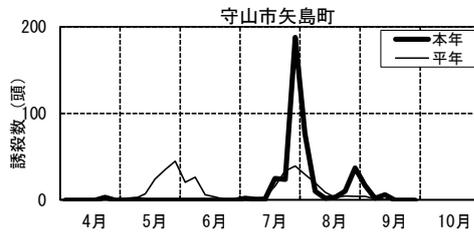
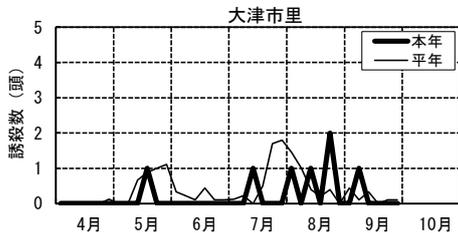
ニカメイガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	0	0	0	0	3	3	0	0	2	2	0.6	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	0	0	0.1	0.1	0	3	0.4	0.4	3	5	0.6	1.2	0	0	0	0	0	0	0.8	0.8
5 1	0	0	0	0.1	0	3	1.5	1.9	0	5	2.2	3.4	1	1	0.7	0.9	0	0	5.0	5.8
5 2	0	0	0	0.1	1	4	1.5	3.4	2	7	3.5	6.9	0	1	0.2	1.1	0	0	4.3	10.0
5 3	0	0	0.7	0.8	0	4	7.1	10.5	10	17	12.1	19.0	1	2	2.6	3.7	9	9	22.3	32.3
5 4	1	1	0.9	1.7	0	4	24.0	34.5	7	24	11.6	30.6	21	23	5.5	9.2	9	18	18.4	50.8
5 5	0	1	1.0	2.7	0	4	35.3	69.8	24	48	12.0	42.6	8	31	5.4	14.6	30	48	23.1	73.9
5 6	0	1	1.1	3.8	0	4	44.7	114.5	8	56	7.6	50.2	35	66	7.8	22.4	20	68	25.8	99.7
6 1	0	1	0.3	4.1	0	4	20.6	135.1	5	61	3.8	54.0	6	72	9.9	32.3	6	74	21.9	121.6
6 2	0	1	0.2	4.3	0	4	26.4	161.5	1	62	1.5	55.5	2	74	7.7	40.0	1	75	14.0	135.6
6 3	0	1	0.1	4.5	0	4	5.9	167.4	2	64	1.4	56.9	1	75	2.3	42.3	3	78	3.3	138.9
6 4	0	1	0.4	4.9	0	4	3.6	171.0	0	64	0.5	57.4	3	78	0.7	43.0	2	80	1.3	140.2
6 5	0	1	0.1	5.0	0	4	0.6	171.6	2	66	0.7	58.1	1	79	0.2	43.2	0	80	0.4	140.6
6 6	0	1	0.1	5.1	0	4	0.6	172.2	0	66	0	58.1	0	79	0.1	43.3	0	80	0.6	141.2
7 1	0	1	0.1	5.3	2	6	0.2	172.4	2	68	0.5	58.6	0	79	0.0	43.3	0	80	0.3	141.5
7 2	0	0	0.2	0.2	1	1	0.6	0.6	0	0	0.6	0.6	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0.1
7 3	1	1	0	0.2	1	2	3.2	3.8	1	1	1.8	2.4	0	0	0.7	0.8	0	0	0.3	0.4
7 4	0	1	0.5	0.7	25	27	16.5	20.3	4	5	8.2	10.6	13	13	2.3	3.1	3	3	7.4	7.8
7 5	0	1	1.7	2.4	24	51	33.5	53.8	1	6	11.5	22.1	11	24	4.7	7.8	3	6	19.0	26.8
7 6	0	1	1.8	4.2	188	239	39.2	93.0	5	11	15.7	37.8	18	42	6.3	14.1	29	35	38.3	65.1
8 1	1	2	1.4	5.7	77	316	29.6	122.6	9	20	7.4	45.2	33	75	7.5	21.6	22	57	32.4	97.5
8 2	0	2	1.0	6.7	10	326	20.1	142.7	3	23	6.1	51.3	3	78	6.9	28.5	7	64	19.6	117.1
8 3	1	3	0.4	7.1	2	328	9.1	151.8	1	24	2.6	53.9	0	78	1.7	30.2	0	64	16.9	134.0
8 4	0	3	0.2	7.3	3	331	3.0	154.8	0	24	1.7	55.6	0	78	0.3	30.5	0	64	3.4	137.4
8 5	2	5	0.4	7.7	10	341	4.5	159.3	2	26	1.5	57.1	3	81	0.3	30.8	1	65	2.8	140.2
8 6	0	5	0	7.7	37	378	4.3	163.6	8	34	5.9	63.0	17	98	1.0	31.8	0	65	2.2	142.4
9 1	0	5	0.4	8.1	17	395	4.4	168.0	6	40	4.9	67.9	7	105	0.1	31.9	2	67	0.6	143.0
9 2	1	6	0.1	8.2	2	397	1.3	169.3	0	40	1.7	69.6	1	106	0	31.9	0	67	0.8	143.8
9 3	0	6	0.3	8.6	6	403	0.8	170.1	0	40	0.3	69.9	1	107	0	31.9	0	67	0.2	144.0
9 4	0	6	0	8.6	0	403	0.1	170.2	0	40	0	69.9	0	107	0	31.9	0	67	0.1	144.1
9 5	0	6	0.1	8.7	0	403	0	170.2	0	40	0.1	70.0	0	107	0	31.9	0	67	0	144.1
9 6	0	6	0.1	8.8	0	403	0.1	170.3	0	40	0	70.0	0	107	0	31.9	0	67	0	144.2
10 1									0	40	0	70.0								
10 2									0	40	0	70.0								
10 3									0	40	0	70.0								
10 4									0	40	0	70.0								
10 5									0	40	0	70.0								
10 6									0	40	0	70.0								

越冬世代

第1世代

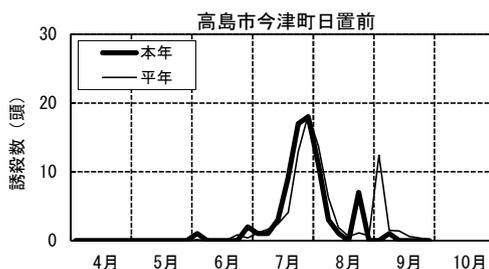
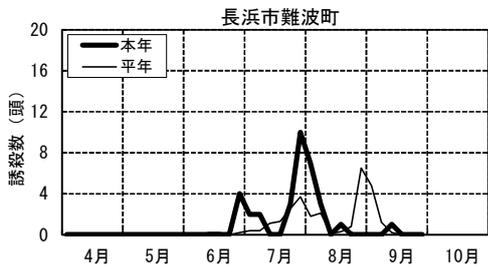
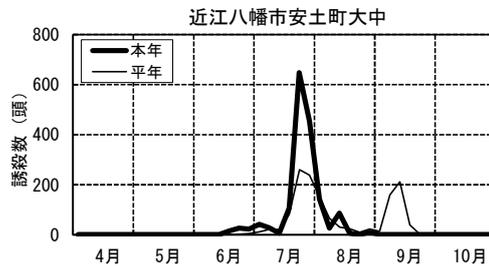
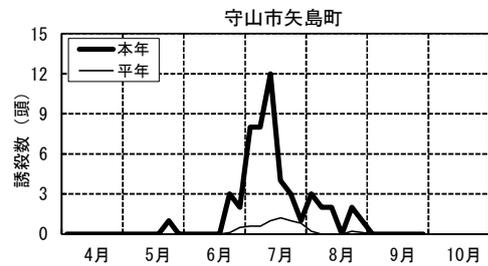
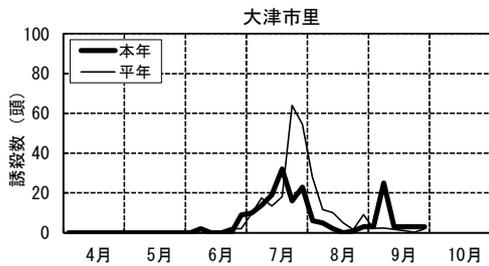


○表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。

ツマグロコバイ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

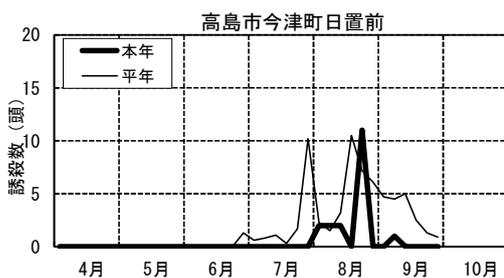
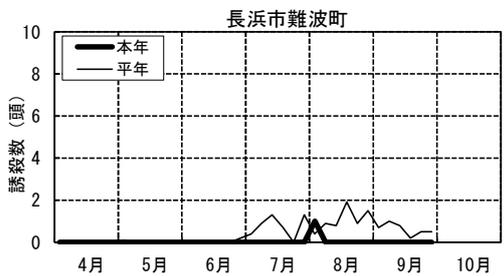
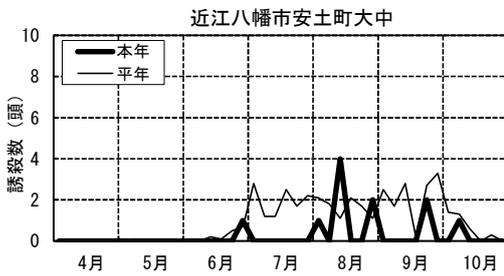
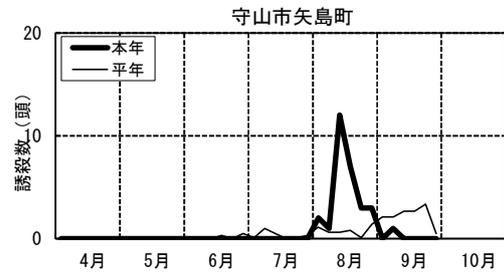
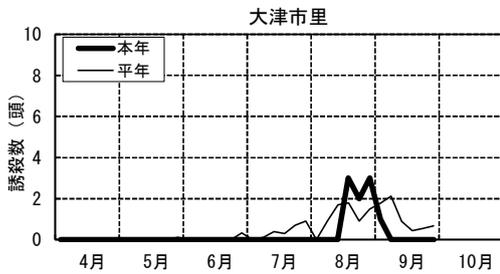
月	半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	5	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0
4	6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0.1	0.1	0	0	0
5	2	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0
5	3	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0
5	4	0	0	0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0
5	5	0	0	0.1	0.3	1	1	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0
5	6	0	0	0	0.3	0	1	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0	0
6	1	0	0	0	0.3	0	1	0	0	0	0	0	0	0.2	0	0	0	0.1	1	1	0.1
6	2	2	2	0	0.3	0	1	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0.1	0	1	0
6	3	0	2	0	0.3	0	1	0	0	0	0	0	1.1	1.4	0	0	0.2	0.3	0	1	0
6	4	0	2	0.3	0.7	0	1	0	0	15	15	0.3	1.7	0	0	0.2	0.5	0	1	0.1	0.2
6	5	0	2	2.0	2.7	3	4	0.1	0.1	26	41	2.4	4.1	0	0	0.0	0.5	0	1	0.8	1.0
6	6	9	11	2.0	4.7	2	6	0.5	0.6	23	64	4.5	8.6	4	4	0.2	0.7	2	3	0.4	1.4
7	1	10	21	9.6	14.2	8	14	0.6	1.2	42	106	11.1	19.7	2	6	0.4	1.1	1	4	1.1	2.5
7	2	14	35	17.6	31.8	8	22	0.6	1.8	27	133	21.4	41.1	2	8	0.4	1.5	1	5	1.6	4.1
7	3	19	54	13.5	45.3	12	34	1.0	2.8	6	139	20.4	61.5	0	8	1.1	2.6	3	8	2.4	6.5
7	4	32	86	18.1	63.4	4	38	1.2	4.0	107	246	81.3	142.8	0	8	1.3	3.9	9	17	4.1	10.6
7	5	16	102	63.9	127.3	3	41	1.0	5.0	648	894	260.4	403.2	3	11	2.5	6.4	17	34	12.9	23.5
7	6	23	125	54.5	181.8	1	42	0.8	5.8	454	1348	238.8	642.0	10	21	3.7	10.1	18	52	18.3	41.8
8	1	6	131	28.1	209.9	3	45	0.2	6.0	142	1490	151.1	793.1	7	28	1.8	11.9	11	63	13.7	55.5
8	2	5	136	11.6	221.5	2	47	0	6.0	26	1516	66.2	859.3	3	31	2.1	14.0	3	66	6.2	61.7
8	3	2	138	10.1	231.6	2	49	0	6.0	86	1602	29.9	889.2	0	31	0.1	14.1	1	67	1.9	63.6
8	4	0	138	5.1	236.7	0	49	0.0	6.0	5	1607	24.0	913.2	1	32	0.3	14.4	0	67	0.6	64.2
8	5	1	139	1.6	238.3	2	51	0.2	6.2	1	1608	9.7	922.9	0	32	0.8	15.2	7	74	1.1	65.3
8	6	3	142	9.2	247.5	1	52	0.1	6.3	10	1618	22.2	945.1	0	32	6.5	21.7	0	74	0.7	66.0
9	1	3	145	2.2	249.7	0	52	0	6.3	0	1618	13.2	958.3	0	32	4.8	26.5	0	74	12.4	78.4
9	2	25	170	2.3	252.1	0	52	0	6.3	1	1619	158.9	1117.2	0	32	1.2	27.7	1	75	1.5	79.9
9	3	3	173	1.8	253.8	0	52	0	6.3	1	1620	211.8	1329.0	1	33	0.2	27.9	0	75	1.4	81.3
9	4	3	176	1.0	254.8	0	52	0	6.3	0	1620	39.3	1368.3	0	33	0.0	27.9	0	75	0.6	81.9
9	5	3	179	0.3	255.2	0	52	0	6.3	0	1620	1.9	1370.2	0	33	0	27.9	0	75	0.4	82.3
9	6	3	182	1.9	257.1	0	52	0	6.3	0	1620	0.6	1370.8	0	33	0.1	28.0	0	75	0.1	82.4
10	1									1	1621	0.2	1371.0								
10	2									0	1621	0.6	1371.6								
10	3									0	1621	0	1371.6								
10	4									0	1621	0	1371.6								
10	5									0	1621	0.1	1371.7								
10	6									0	1621	0	1371.7								



セジロウカ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

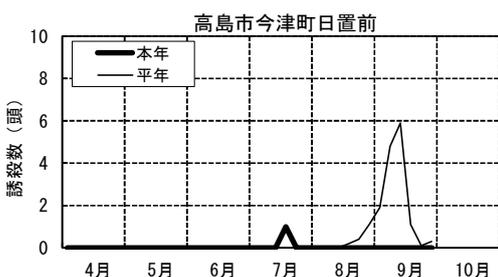
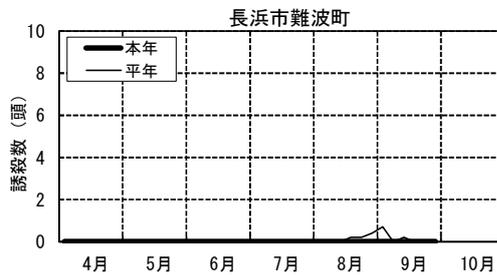
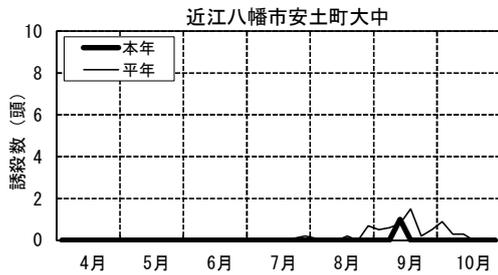
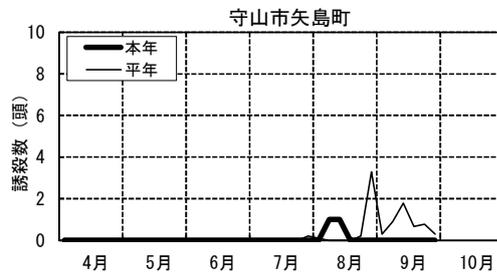
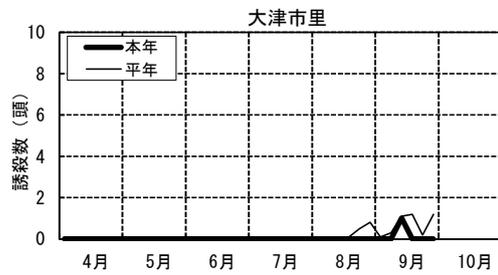
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0	0	
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0.1	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.3	0	0	0.1	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0.1	0.4	0	0	0.1	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0.5	0.9	0	0	0.1	0	0	0	0	
	6	0	0	0.3	0.4	0	0	0.5	0.8	1	1	0.7	1.6	0	0	0.2	0.3	0	0	1.3	1.3
7	1	0	0	0	0.4	0	0	0.1	0.9	0	1	2.8	4.4	0	0	0.4	0.7	0	0	0.6	1.9
	2	0	0	0.1	0.6	0	0	1.0	1.9	0	1	1.2	5.6	0	0	0.9	1.6	0	0	0.8	2.7
	3	0	0	0.4	1.0	0	0	0.5	2.4	0	1	1.2	6.8	0	0	1.3	2.9	0	0	1.1	3.8
	4	0	0	0.3	1.3	0	0	0	2.4	0	1	2.5	9.3	0	0	0.7	3.6	0	0	0.3	4.1
	5	0	0	0.7	2.0	0	0	0.1	2.5	0	1	1.7	11.0	0	0	0	3.6	0	0	1.7	5.8
	6	0	0	0.9	2.9	0	0	0.3	2.8	0	1	2.2	13.2	0	0	1.3	4.9	0	0	10.2	16.0
8	1	0	0	0	2.9	2	2	1.1	3.9	1	2	2.1	15.3	1	1	0.4	5.3	2	2	2.3	18.3
	2	0	0	0.9	3.8	1	3	0.6	4.5	0	2	1.8	17.1	0	1	0.9	6.2	2	4	1.5	19.8
	3	0	0	1.7	5.5	12	15	0.6	5.1	4	6	1.1	18.2	0	1	0.8	7.0	2	6	3.2	23.0
	4	3	3	1.8	7.3	7	22	0.8	5.9	0	6	2.1	20.3	0	1	1.9	8.9	0	6	10.5	33.5
	5	2	5	0.9	8.2	3	25	0.1	6.0	0	6	1.7	22.0	0	1	0.9	9.8	11	17	7.2	40.7
	6	3	8	1.5	9.7	3	28	1.4	7.4	2	8	1.1	23.1	0	1	1.5	11.3	0	17	6.1	46.8
9	1	1	9	1.8	11.4	0	28	2.1	9.5	0	8	2.5	25.6	0	1	0.7	12.0	0	17	4.7	51.5
	2	0	9	2.1	13.5	1	29	2.1	11.6	0	8	1.7	27.3	0	1	1.0	13.0	1	18	4.5	56.0
	3	0	9	0.9	14.4	0	29	2.7	14.3	0	8	2.8	30.1	0	1	0.8	13.8	0	18	5.0	61.0
	4	0	9	0.4	14.9	0	29	2.7	16.9	0	8	0.2	30.3	0	1	0.2	14.0	0	18	2.5	63.5
	5	0	9	0.6	15.4	0	29	3.3	20.3	2	10	2.7	33.0	0	1	0.5	14.5	0	18	1.3	64.8
	6	0	9	0.7	16.1	0	29	0.5	20.8	0	10	3.3	36.3	0	1	0.5	15.0	0	18	0.9	65.7
10	1								0	10	1.4	37.7									
	2								1	11	1.3	39.0									
	3								0	11	0.6	39.6									
	4								0	11	0	39.6									
	5								0	11	0.3	39.9									
	6								0	11	0	39.9									



トビイロウカ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

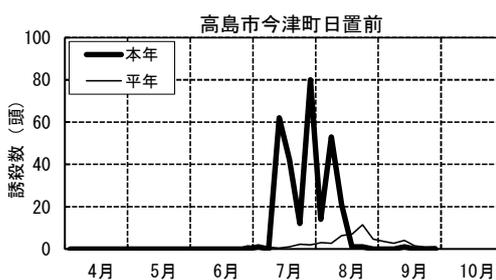
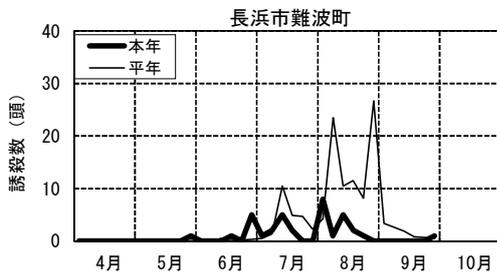
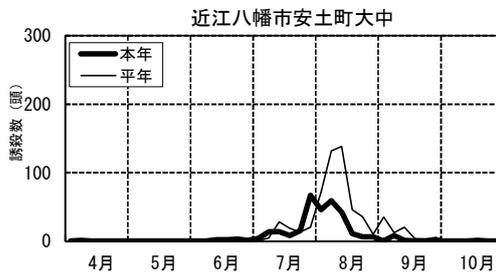
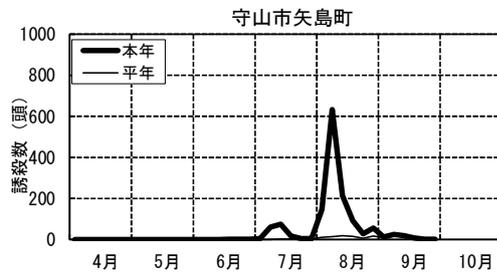
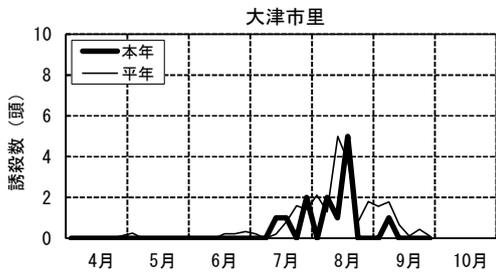
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0.2	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0
8	1	0	0	0	0	0	0.1	0.3	0	0	0.1	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	1	1	0.3	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	1	2	0.3	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0.1	0.1	0	2	0.3	0	0	0.6	0	0	0.2	0.2	0	1	0.2	0.2	0
	5	0	0	0.5	0.6	0	2	0.5	0	0	0.6	0	0	0.2	0.4	0	1	0.4	0.6	0
	6	0	0	0.8	1.4	0	2	3.3	3.8	0	0	0.7	1.3	0	0	0.4	0.8	1	1.1	1.7
9	1	0	0	0.1	1.5	0	2	0.3	4.1	0	0	0.5	1.8	0	0	0.7	1.5	0	1	1.9
	2	0	0	0.3	1.8	0	2	0.9	5.0	0	0	0.6	2.4	0	0	0	1.5	0	1	4.8
	3	1	1	1.1	2.9	0	2	1.8	6.8	1	1	0.8	3.2	0	0	0.2	1.7	0	1	5.9
	4	0	1	1.2	4.1	0	2	0.7	7.4	0	1	1.5	4.7	0	0	0	1.7	0	1	11.1
	5	0	1	0.2	4.3	0	2	0.8	8.2	0	1	0.2	4.9	0	0	0	1.7	0	1	15.5
	6	0	1	1.2	5.5	0	2	0.3	8.5	0	1	0.5	5.4	0	0	0	1.7	0	1	18.3
10	1									0	1	0.9	6.3							
	2									0	1	0.3	6.6							
	3									0	1	0.3	6.9							
	4									0	1	0	6.9							
	5									0	1	0.1	7.0							
	6									0	1	0	7.0							



ヒメトビウカ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

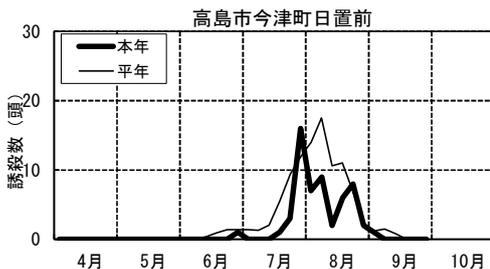
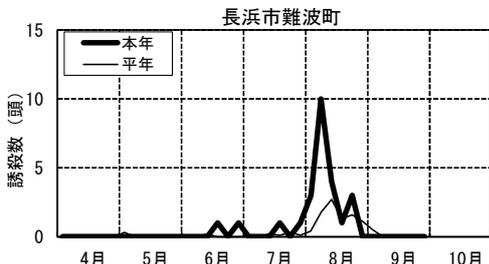
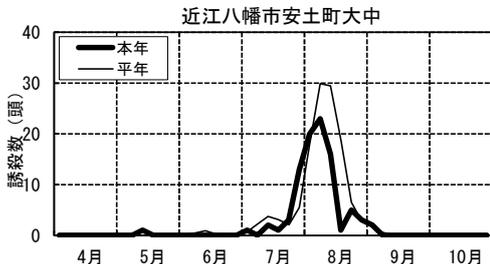
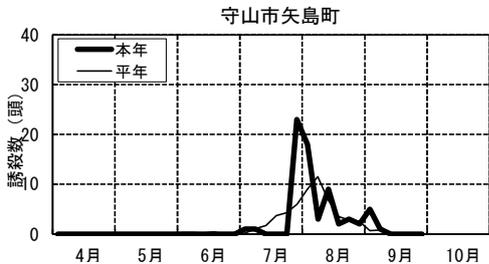
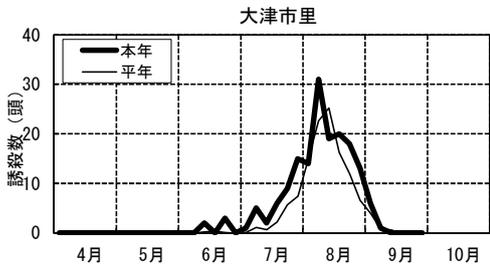
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.7	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.4	1.2	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	
4	6	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	1	0	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	1	0	0	0.3	0.4	0	0	0	0	1	0.2	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	2	0	0	0.4	0.4	0	0	0	0	1	0.1	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	3	0	0	0.4	0.4	0	0	0	0	1	0	1.6	0	0	0	0	0	0	0	0	
5	4	0	0	0.4	0	0	0	0	0	1	0	1.6	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0	
5	5	0	0	0.4	0	0	0	0	0	1	0	1.6	0	0	0	0.1	0	0	0	0	
5	6	0	0	0.4	0	0	0.1	0.1	0	1	0	1.6	1	1	0	0.2	0	0	0	0	
6	1	0	0	0.4	0	0	0	0.1	0	1	0.2	1.8	0	1	0.1	0.3	0	0	0	0	
6	2	0	0	0.4	0	0	0.4	0.5	0	1	0.2	2.0	0	1	0	0.3	0	0	0	0	
6	3	0	0	0.4	0	0	0.4	0.9	2	3	1.2	3.2	0	1	0.5	0.8	0	0	0	0	
6	4	0	0	0.2	0.6	2	2	0.4	1.3	2	5	0.5	3.7	1	2	0.3	1.1	0	0	0.1	0.3
6	5	0	0	0.2	0.8	1	3	0.1	1.4	3	8	0.2	3.9	0	2	0.2	1.3	0	0	0.1	0.4
6	6	0	0	0.3	1.2	1	4	0.3	1.7	1	9	0.8	4.7	5	7	0.3	1.6	0	0	1.5	1.9
7	1	0	0	0.2	1.4	4	8	0.5	2.2	4	13	0.7	5.4	1	8	0.5	2.1	1	1	0.9	2.8
7	2	0	0	1.4	60	68	0.4	2.6	14	27	4.7	10.1	2	10	1.4	3.5	0	1	0.9	3.7	
7	3	1	1	0.2	1.6	75	143	2.9	5.5	14	41	28.2	38.3	5	15	10.5	14.0	62	63	0.5	4.2
7	4	1	2	0.8	2.4	17	160	3.6	9.1	8	49	18.7	57.0	2	17	4.9	18.9	42	105	1.1	5.3
7	5	0	2	1.6	4.0	5	165	2.9	12.0	15	64	13.5	70.5	0	17	4.7	23.6	12	117	2.2	7.5
7	6	2	4	1.4	5.4	4	169	3.6	15.6	67	131	20.4	90.9	0	17	2.3	25.9	80	197	1.9	9.4
8	1	0	4	2.1	7.5	146	315	11.1	26.7	46	177	71.4	162.3	8	25	4.2	30.1	14	211	3.0	12.4
8	2	2	6	1.3	8.8	632	947	14.1	40.8	59	236	131.5	293.8	1	26	23.5	53.6	53	264	2.7	15.1
8	3	1	7	5.0	13.8	213	1160	18.4	59.2	42	278	138.6	432.4	5	31	10.5	64.1	21	285	6.3	21.4
8	4	5	12	3.8	17.6	91	1251	15.3	74.5	11	289	45.8	478.2	2	33	11.5	75.6	1	286	7.1	28.5
8	5	0	12	0.8	18.4	29	1280	6.2	80.7	6	295	35.8	514.0	1	34	8.2	83.8	1	287	11.4	39.9
8	6	0	12	1.8	20.2	56	1336	17.4	98.1	6	301	10.1	524.1	0	34	26.7	110.5	0	287	4.7	44.6
9	1	0	12	1.6	21.7	13	1349	9.1	107.2	0	301	35.0	559.1	0	34	3.4	113.9	0	287	3.6	48.2
9	2	1	13	1.8	23.5	24	1373	24.0	131.2	8	309	12.5	571.6	0	34	2.6	116.5	0	287	2.7	50.9
9	3	0	13	0.7	24.2	18	1391	9.6	140.8	1	310	20.2	591.8	0	34	1.9	118.4	1	288	4.0	54.9
9	4	0	13	0.1	24.3	8	1399	5.2	146.0	0	310	3.2	595.0	0	34	0.8	119.2	0	288	1.5	56.4
9	5	0	13	0.4	24.7	2	1401	1.4	147.4	0	310	2.9	597.9	0	34	0.7	119.9	0	288	0.9	57.3
9	6	0	13	0.1	24.9	1	1402	0.4	147.8	0	310	5.5	603.4	1	35	0.5	120.4	0	288	1.0	58.3
10	1									0	310	0.6	604.0								
10	2									0	310	1.1	605.1								
10	3									0	310	0.3	605.4								
10	4									1	311	0.2	605.6								
10	5									0	311	1.0	606.6								
10	6									0	311	1.4	608.0								



フタオビコヤガ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

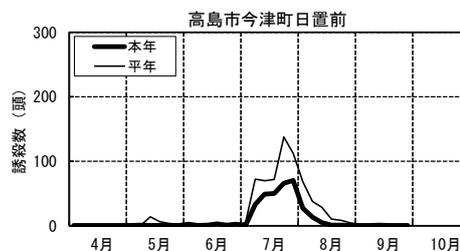
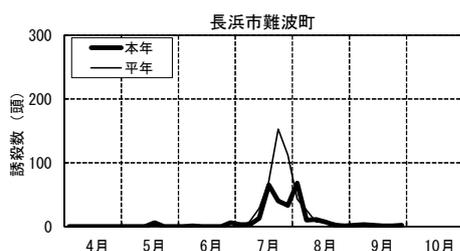
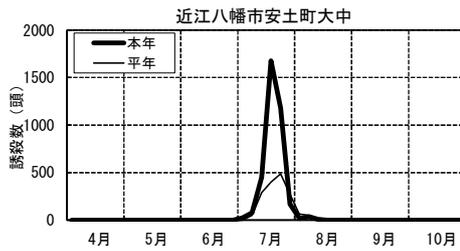
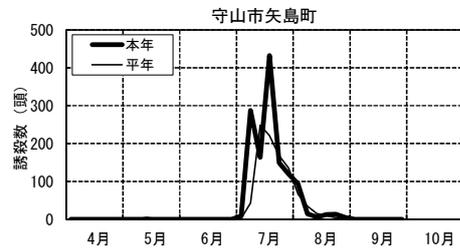
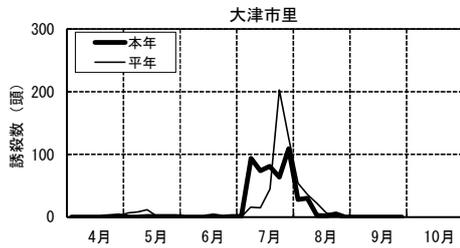
月 半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前				
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.3	0	0	0	0	0.0
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0.1
5	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0.1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0.1
5	4	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0.1
5	5	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0.1	0.2	0	0	0	0.3	0	0	0	0.1	0.2
5	6	0	0	0.2	0.2	0	0	0	0	0	0.2	0.2	0	0	0.3	0	0	0.1	0.1	0.3	0.3
6	1	0	0	0.2	0.2	0	0.3	0.3	0	0	0.1	0.3	0	0	0	0.3	0	0	0	0.3	0.3
6	2	0	0	0.2	0.2	0	0.3	0.6	0	0	0.5	0.8	0	0	0	0.3	0	0	0	0.3	0.3
6	3	2	2	0.3	0.5	0	0.2	0.8	0	1	0.9	1.7	0	0	0.2	0.5	0	0	0.4	0.7	0.7
6	4	0	2	0.3	0.8	0	0.4	1.2	0	0	0.3	2.0	1	1	0	0.5	0	0	0.9	1.6	1.6
6	5	3	5	0.1	0.9	0	0	1.2	0	0	0.2	2.2	0	1	0	0.5	0	0	1.4	3.0	3.0
6	6	0	5	0.0	0.9	0	0.2	1.4	0	0	0.2	2.4	1	2	0.0	0.5	1	1	1.4	4.4	4.4
7	1	1	6	0.1	1.1	1	1	0.2	1.6	1	1	0.7	3.1	0	2	0	0.5	0	1	1.4	5.8
7	2	5	11	1.1	2.2	1	2	1.1	2.7	0	2	2.2	5.3	0	2	0	0.5	0	1	1.3	7.1
7	3	2	13	0.7	2.8	0	2	1.7	4.4	2	3	3.7	9.0	0	2	0.2	0.7	0	1	2.0	9.1
7	4	6	19	2.2	5.1	0	2	3.7	8.1	1	3	3.1	12.1	1	3	0.1	0.8	1	2	5.5	14.6
7	5	9	28	5.7	10.7	0	2	4.3	12.4	3	2	2.1	14.2	0	3	0.3	1.1	3	5	9.4	24.0
7	6	15	43	7.4	18.2	23	25	6.0	18.4	13	5	5.5	19.7	1	4	0.1	1.2	16	21	11.9	35.9
8	1	14	57	14.6	32.8	18	43	9.0	27.4	16	17.9	37.6	3	7	0.4	1.6	7	28	14.0	49.9	
8	2	31	88	22.7	55.5	3	46	11.5	38.9	23	28	29.9	67.5	10	17	1.8	3.4	9	37	17.5	67.4
8	3	19	107	25.2	80.7	9	55	6.8	45.7	16	28	29.5	97.0	4	21	2.7	6.1	2	39	10.6	78.0
8	4	20	127	16.2	96.9	2	57	3.5	49.2	1	19	18.6	115.6	1	22	1.3	7.4	6	45	11.0	89.0
8	5	18	145	11.9	108.8	3	60	2.8	52.0	5	7	6.5	122.1	3	25	1.6	9.0	8	53	6.8	95.8
8	6	13	158	6.6	115.4	2	62	2.5	54.5	3	3	2.7	124.8	0	25	1.1	10.1	2	55	2.3	98.1
9	1	6	164	4.0	119.4	5	67	0.7	55.2	2	1	1.7	126.5	0	25	0.5	10.6	1	56	1.2	99.3
9	2	1	165	0.9	120.2	1	68	0.8	56.0	0	0	0.6	127.1	0	25	0	10.6	0	56	1.5	100.8
9	3	0	165	0.6	120.9	0	68	0	56.2	0	0	0.1	127.2	0	25	0	10.7	0	56	0.8	101.6
9	4	0	165	0	120.9	0	68	0	56.3	0	0	0.1	127.3	0	25	0	10.7	0	56	0.1	101.7
9	5	0	165	0.1	121.0	0	68	0	56.3	0	0	0	127.3	0	25	0	10.7	0	56	0	101.8
9	6	0	165	0	121.0	0	68	0	56.3	0	0	0	127.3	0	25	0	10.7	0	56	0.2	102.0
10	1								0	0	0	127.3									
10	2								0	0	0	127.3									
10	3								0	0	0	127.3									
10	4								0	0	0	127.3									
10	5								0	0	0	127.3									
10	6								0	0	0	127.3									



イネズミソウムシ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 6	2	3	1.5	1.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3	0.5
5 1	0	3	6.6	8.1	0	0	0	0	0	0	2.6	3.1	0	0	0.9	0.9	0	0	0.3	1.1
5 2	0	3	8.4	16.6	0	0	0.1	0.2	0	0	0.4	3.5	0	0	0.2	1.1	1	1	0.3	1.4
5 3	1	4	11.7	28.2	0	0	5.0	5.2	0	0	14.8	18.3	0	0	2.3	3.4	0	1	13.6	15.0
5 4	1	5	1.9	30.1	0	0	0.7	5.9	0	0	4.5	22.8	6	6	2.5	5.9	0	1	5.9	20.9
5 5	1	6	2.4	32.6	0	0	0.2	6.1	0	0	7.1	29.9	0	6	0.5	6.4	0	1	3.4	24.3
5 6	1	7	0.7	33.2	0	0	0.0	6.1	1	1	4.4	34.3	0	6	0.4	6.8	0	1	2.3	26.5
6 1	0	7	1.1	34.3	0	0	0	6.1	0	1	3.7	38.0	0	6	0.5	7.3	2	3	0.8	27.3
6 2	0	7	0.3	34.6	0	0	0.2	6.3	0	1	0.3	38.3	1	7	0.6	7.9	0	3	1.2	28.5
6 3	0	7	0.1	34.7	0	0	0	6.3	0	1	1.0	39.3	0	7	0.2	8.1	1	4	1.4	29.9
6 4	2	9	0.1	34.8	0	0	0.1	6.4	0	1	0.2	39.5	0	7	0	8.3	3	7	1.3	31.3
6 5	0	9	0.4	35.2	0	0	0	6.4	1	2	0.5	40.0	0	7	0.1	8.4	1	8	2.2	33.5
6 6	1	10	0.3	35.5	0	0	0.3	6.7	1	3	0.8	40.8	6	13	0.1	8.5	2	10	0.9	34.4
7 1	1	11	0.6	36.0	8	8	2.7	9.4	25	28	0.6	41.4	3	16	0.1	8.6	0	10	4.7	39.0
7 2	94	105	16.0	52.0	287	295	42.9	52.3	76	104	52.1	93.5	3	19	7.4	16.0	33	43	72.4	111.5
7 3	74	179	14.9	66.9	163	458	248.7	301.0	450	554	288.7	382.2	13	32	28.4	44.4	49	92	69.6	181.0
7 4	81	260	45.0	111.9	432	890	220.8	521.8	1677	2231	400.9	783.1	65	97	69.3	113.7	50	142	71.4	252.5
7 5	64	324	202.4	314.4	149	1039	167.6	689.4	1179	3410	487.2	1270.3	40	137	152.8	266.5	66	208	137.7	390.1
7 6	109	433	126.3	440.7	120	1159	135.3	824.7	168	3578	270.7	1541.0	33	170	112.2	378.7	70	278	112.2	502.4
8 1	28	461	53.9	494.6	94	1253	65.3	890.0	18	3596	65.9	1606.9	68	238	42.8	421.5	27	305	68.0	570.4
8 2	30	491	35.9	530.5	14	1267	34.5	924.5	37	3633	49.6	1656.5	10	248	25.1	446.6	13	318	37.6	607.9
8 3	3	494	21.8	552.3	6	1273	14.8	939.3	8	3641	23.2	1679.7	11	259	6.8	453.4	5	323	28.6	636.5
8 4	2	496	7.0	559.3	12	1285	8.9	948.2	2	3643	13.7	1693.4	7	266	7.2	460.6	1	324	10.1	646.6
8 5	5	501	2.9	562.1	13	1298	4.1	952.3	0	3643	15.0	1708.4	2	268	5.1	465.7	1	325	8.0	654.6
8 6	0	501	1.2	563.4	5	1303	4.5	956.8	0	3643	3.4	1711.8	1	269	0.5	466.2	0	325	4.2	658.8
9 1	0	501	0.4	563.7	0	1303	0.5	957.3	0	3643	2.4	1714.2	2	271	1.1	467.3	0	325	2.0	660.8
9 2	0	501	0.1	563.9	0	1303	0.5	957.8	2	3645	1.6	1715.8	3	274	1.1	468.4	0	325	0.9	661.7
9 3	0	501	0.9	564.7	0	1303	0.4	958.2	1	3646	1.6	1717.4	2	276	0.2	468.6	1	326	0.4	662.1
9 4	0	501	0.0	564.7	0	1303	0.9	959.1	0	3646	0.9	1718.3	1	277	0.2	468.8	0	326	0.3	662.5
9 5	0	501	0.4	565.1	0	1303	0	959.1	0	3646	0.9	1719.2	1	278	0.3	469.1	0	326	0.4	662.9
9 6	0	501	0.5	565.6	0	1303	0	959.1	0	3646	1.1	1720.3	2	280	0	469.1	0	326	0.7	663.6
10 1											0	3646	0.5	1720.8						
10 2											0	3646	7.3	1728.1						
10 3											0	3646	0	1728.1						
10 4											0	3646	0.1	1728.2						
10 5											0	3646	0.5	1728.7						
10 6											0	3646	0	1728.7						

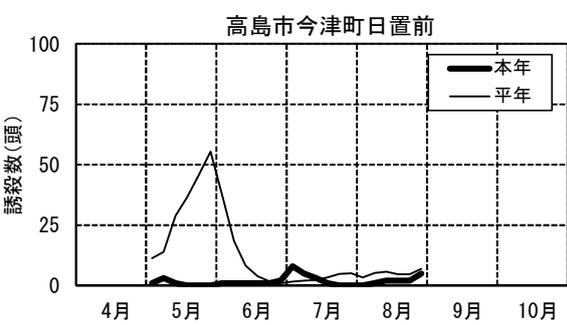
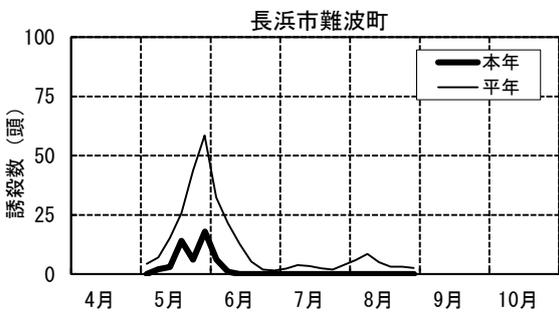
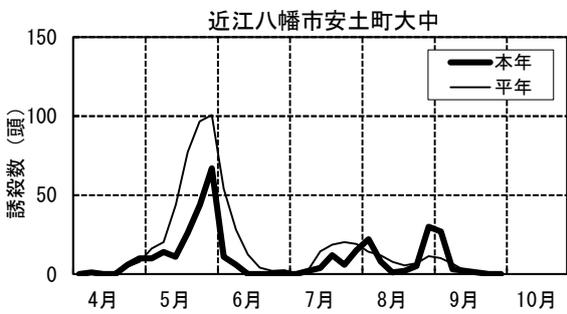


(ウ) フェロモントラップによる調査

ニカメイガ半旬別誘殺数 (フェロモントラップ)

月	半旬	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
	2	1	1	0	0.1								
	3	0	1	0.2	0.3								
	4	0	1	1.5	1.8								
	5	6	7	4.7	6.5								
	6	10	17	7.8	14.3								
5	1	10	27	16.1	30.4	0	0	4.4	4.4	1	1	11.2	11.2
	2	14	41	20.3	50.7	2	2	7.0	11.4	3	4	14.0	25.2
	3	11	52	43.8	94.5	3	5	15.2	26.6	1	5	28.8	54.0
	4	26	78	77.4	171.9	14	19	25.7	52.3	0	5	36.4	90.4
	5	44	122	96.8	268.7	6	25	43.7	95.9	0	5	45.6	136.0
	6	67	189	100.9	369.6	18	43	58.6	154.5	0	5	55.4	191.4
6	1	11	200	54.0	423.6	6	49	32.3	186.8	1	6	37.5	228.9
	2	6	206	28.1	451.7	1	50	21.6	208.4	1	7	18.5	247.4
	3	0	206	12.4	464.1	0	50	12.7	221.1	1	8	8.3	255.7
	4	0	206	4.0	468.1	0	50	5.3	226.4	1	9	3.9	259.6
	5	0	206	2.2	470.3	0	50	1.9	228.3	1	10	1.8	261.4
	6	0	206	2.5	472.8	0	50	1.5	229.8	2	12	1.0	262.4
7	1	0	206	0.7	473.5	0	50	2.3	232.1	8	20	1.7	264.1
	2	2	2	2.5	2.5	0	0	3.8	3.8	5	5	2.1	2.1
	3	4	6	14.5	17.0	0	0	3.4	7.2	3	8	2.3	4.4
	4	12	18	18.7	35.7	0	0	2.5	9.7	1	9	3.3	7.7
	5	6	24	20.2	55.9	0	0	2.0	11.7	0	9	4.8	12.5
	6	15	39	18.9	74.8	0	0	3.9	15.6	0	9	5.1	17.6
8	1	22	61	14.1	88.9	0	0	6.0	21.6	0	9	3.3	20.9
	2	8	69	11.9	100.8	0	0	8.5	30.1	1	10	5.2	26.1
	3	1	70	7.8	108.6	0	0	5.0	35.1	2	12	5.7	31.8
	4	2	72	5.6	114.2	0	0	3.1	38.2	2	14	4.7	36.5
	5	5	77	6.9	121.1	0	0	3.1	41.3	2	16	4.6	41.1
	6	30	107	11.4	132.5	0	0	2.6	43.9	5	21	7.0	48.1
9	1	27	134	10.1	142.6								
	2	3	137	6.5	149.1								
	3	2	139	2.1	151.2								
	4	1	140	0.8	152.0								
	5	0	140	0.8	152.8								
	6	0	140	0.2	153.0								

越冬世代
第1世代



・表中の累積誘殺頭数は、越冬世代と第1世代を区別するため、4月第1半旬～7月第1半旬を越冬世代、7月第2半旬～調査終了時を第1世代として積算している。

エ 一般ほ場における調査

(ア) すくい取りおよび払い落とし調査

a ツマグロヨコバイ、ヒメトビウンカ (越冬量調査)

(頭)

調査地点名	害虫名	ツマグロヨコバイ			ヒメトビウンカ		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
	月日	4/6					
大津市	上田上桐生町	0	0	0	1	1	2
	和邇南浜	6	0	6	0	0	0
草津市	志那中	0	0	0	0	0	0
守山市	幸津川	0	0	0	2	0	2
栗東市	六地藏	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	4	5	9
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	1	0	1
	甲賀町滝	0	0	0	0	0	0
	信楽町黄瀬	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	3	0	3
	安土町大中	1	0	1	4	0	4
日野町	十禅師	2	0	2	20	5	25
竜王町	山之上	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	0	0	0	6	4	10
	川合町	0	1	1	12	0	12
	石谷町	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	0	0	0	4	1	5
	栗見新田町	22	48	70	2	0	2
鯉江町	0	10	10	57	4	61	
彦根市	田附町	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	15	0	15
甲良町	法養寺	0	0	0	3	0	3
多賀町	土田	1	0	1	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	1	1	2
	入江	0	0	0	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	17	0	17
	湯次町	0	0	0	6	1	7
	早崎町	0	1	1	0	0	0
	高月町東柳野	0	0	0	0	1	1
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町蛭口	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0
	新旭町旭	0	0	0	2	1	3

すくい取り：1地点 50回振 合計虫数

b セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

(頭)

調査地点名	害虫名 調査方法 調査月日	セジロウンカ			トビイロウンカ			ヒメトビウンカ		ツマグロヨコバイ		フタオビコヤガ
		すくい取り		払落	すくい取り		払落	すくい取り		すくい取り		払落
		7/6~8	8/8~19	8/8~19	7/6~8	8/8~19	8/8~19	7/6~8	8/8~19	7/6~8	8/8~19	6/28
大津市	関津	0	2	0	0	0	0	6	19	0	44	0
	和邇南浜	0	0	0	0	0	0	0	141	0	434	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	10	421	2	586	0
守山市	赤野井町	0	4	0	0	0	0	32	373	0	1	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	26	434	1	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0	1	1042	1	8	0
湖南市	岩根	0	0	1	0	0	0	16	682	2	13	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	27	32	0	0	0
	甲賀町滝	0	0	0	0	0	0	16	273	0	1	0
	信楽町黄瀬	0	1	0	0	0	0	3	128	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0	2	425	1	0	0
	安土町大中	0	4	0	0	0	0	34	974	2	38	0
日野町	十禅師	0	2	0	0	0	0	10	444	5	95	0
竜王町	小口	0	0	0	0	0	0	21	81	2	0	0
東近江市	林田町	0	0	0	0	0	0	28	523	0	0	0
	川合町	0	1	0	0	0	0	34	588	0	0	0
	石谷町	0	2	0	0	0	0	2	93	1	4	0
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0	17	229	0	6	0
	栗見新田町	0	0	0	0	0	0	165	889	5	5	0
	鯉江町	0	1	0	0	0	0	188	251	3	4	0
彦根市	新海町	0	0	0	0	0	0	45	742	2	0	0
愛荘町	東円堂	0	0	0	0	0	0	73	440	1	41	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	14	110	0	0	0
多賀町	土田	0	1	0	0	0	0	52	607	0	0	0
米原市	本市場	0	1	0	0	0	0	3	116	0	0	0
	入江	0	7	0	0	0	0	3	30	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0	0	15	0	1	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	13	76	0	1	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0	14	48	0	0	0
	早崎町	0	3	0	0	0	0	0	611	0	2	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0	8	18	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	90	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	15	386	0	1	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	213	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	6	111	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	90	0	193	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 合計虫数（成幼合計）

払い落とし：1地点 1筆5株 5筆25株 合計虫数（成幼合計）

c 斑点米カメムシ類（7月11日基準調査）

(頭)

調査地点名	調査月日 調査場所	害虫名	7/6~8											
			本田					畦畔						
			ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホシ トリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ	アカヒゲホシ トリカスミカメ	その他 斑点米 カメムシ類
大津市	関津		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	和邇南浜		0	0	0	0	0	0	7	0	1	95	15	1
草津市	下笠町		1	0	1	0	0	0	6	0	1	2	0	4
守山市	赤野井町		0	0	0	0	0	1	0	0	0	15	7	2
栗東市	上砥山		0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	7	0
野洲市	上屋		0	0	0	0	0	0	12	0	5	51	0	1
湖南市	岩根		0	0	1	0	0	2	4	0	1	167	7	2
甲賀市	水口町山		0	0	1	0	0	1	0	33	0	16	2	8
	甲賀町滝		0	0	0	1	0	1	2	35	1	59	0	37
	信楽町黄瀬		1	2	0	0	0	0	1	104	0	21	0	3
近江八幡市	野村町		0	0	2	0	0	1	2	0	0	10	15	4
	安土町大甲		0	0	0	0	0	1	6	0	2	3	26	28
日野町	十禅師		0	0	0	0	0	2	2	0	2	28	0	6
竜王町	小口		0	0	0	0	0	1	9	0	1	0	0	1
東近江市	林田町		0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	6	14
	川合町		0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	9
	石谷町		0	0	0	0	0	0	3	6	0	64	13	16
	五個荘平阪町		0	0	0	0	0	0	8	0	3	157	52	3
	栗見新田町		0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
	鯉江町		0	0	0	0	0	3	0	0	0	77	2	9
彦根市	新海町		0	0	1	0	0	0	10	0	0	67	8	18
愛荘町	東円堂		0	0	0	0	0	1	5	0	1	165	8	5
甲良町	法養寺		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
多賀町	土田		0	0	0	0	0	0	1	0	2	15	1	13
米原市	本市場		0	0	1	7	6	0	5	0	0	371	436	9
	入江		0	0	0	0	0	0	54	0	2	0	0	4
	西円寺		0	0	0	0	0	0	21	0	2	54	18	4
長浜市	永久寺町		0	0	0	0	0	0	13	0	0	288	33	0
	湯次町		0	0	0	0	0	0	16	0	2	12	0	4
	早崎町		0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	5	8
	高月町柳野中		0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2
	余呉町坂口		0	0	0	0	0	0	1	11	0	7	0	14
高島市	マキノ町知内		0	0	0	0	0	0	1	40	0	111	25	0
	今津町上弘部		0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	17
	安曇川町北船木		0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	6	3
	新旭町北畑		0	0	0	0	0	0	1	0	1	118	7	9

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 成虫・幼虫の合計虫数

d 斑点米カメムシ類（糊熟期調査）

(頭)

調査月日 イネの生育ステージ		8/8～19					
		糊熟期					
		調査地点名	害虫名	ホソハリ カメムシ	クモヘリ カメムシ	トゲシラホシ カメムシ	アカスジ カスミカメ
大津市	関津	0	2	0	2	0	1
	和邇南浜	0	1	0	12	0	1
草津市	下笠町	2	0	0	2	0	0
守山市	赤野井町	1	0	0	5	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	5	0	5	0	0	0
湖南市	岩根	0	1	0	0	2	12
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	1	3	0	10	0	0
	信楽町黄瀬	1	1	0	0	0	1
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	1	0	0	1	0	0
日野町	十禅師	0	0	3	0	0	0
竜王町	小口	1	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	1	0	0	0	0	1
	川合町	0	0	0	0	0	0
	石谷町	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	0	0	1	0	0	0
	鯉江町	2	0	0	6	0	1
彦根市	新海町	1	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	5	1	1	30	0	0
甲良町	法養寺	1	0	0	0	0	0
多賀町	土田	1	0	0	0	0	1
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	2
	西円寺	2	1	0	3	0	0
長浜市	永久寺町	4	2	0	14	1	1
	湯次町	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	0	0	0
	高月町柳野中	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	1	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	2	1	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	1
	新旭町北畑	0	0	0	22	0	0

すくい取り：1地点 1筆10回 5筆50回振 成虫・幼虫の合計虫数

e コバネイナゴ、クサキリ、ササキリ

(頭)

調査月日 調査場所		7/6~8						8/8~19
		本田			畦畔			本田
		コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ	クサキリ	ササキリ	コバネイナゴ
大津市	関津	2	0	1	1	0	1	0
	和邇南浜	2	0	0	0	0	0	1
草津市	下笠町	32	0	3	0	0	0	2
守山市	赤野井町	3	0	1	0	1	0	0
粟東市	上砥山	5	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	5	0	2	0	0	2	3
湖南市	岩根	4	0	0	1	0	2	0
甲賀市	水口町山	3	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	87	0	0	6	0	1	8
	信楽町黄瀬	32	0	0	1	0	0	14
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	1	0
	安土町大中	3	0	0	0	0	1	2
日野町	十禅師	7	0	0	0	0	3	4
竜王町	小口	4	0	0	21	0	3	0
東近江市	林田町	0	0	0	1	0	0	1
	川合町	1	0	0	0	0	0	1
	石谷町	0	0	0	4	0	6	9
	五個荘平阪町	2	0	0	5	0	1	1
	栗見新田町	1	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	11	0	1	0	0	0	3
彦根市	新海町	1	0	0	0	0	2	0
愛荘町	東円堂	2	0	1	0	0	2	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	1	5	0	1
米原市	本市場	2	0	0	1	0	0	0
	入江	8	0	0	1	0	1	0
	西円寺	3	0	0	0	0	1	1
長浜市	永久寺町	3	0	0	1	0	0	0
	湯次町	13	0	0	3	0	1	2
	早崎町	0	0	0	0	0	0	2
	高月町柳野中	4	0	0	0	0	0	4
	余呉町坂口	4	0	0	0	0	0	20
	マキノ町知内	3	0	0	0	0	1	3
高島市	今津町上弘部	1	0	0	0	0	0	1
	安曇川町北船木	4	0	0	1	0	0	0
	新旭町北畑	4	0	1	0	0	0	0

1地点 1筆10回 5筆50回振 成虫・幼虫の合計虫数

(イ) 発生量調査

a 地点別調査結果

病害虫名 調査地点名		葉いもち		穂いもち		紋 枯 病		もみ枯細菌病		白葉枯病	
		発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病穂率	発 生 ほ場率	平 均 発病度	発 生 ほ場率	平均発 病株率	発 生 ほ場率	平 均 発病度
大 津 市	関 津	20	0.2	80	0.45	100	4.8	0	0	0	0
	和 邇 南 浜	20	0.2	60	0.34	100	7.8	0	0	0	0
草 津 市	下 笠 町	40	0.4	60	0.11	40	1.4	0	0	0	0
守 山 市	赤 野 井 町	100	11.2	100	0.96	100	9.2	0	0	0	0
栗 東 市	上 砥 山	80	1.0	100	0.80	100	9.6	0	0	0	0
野 洲 市	上 屋	60	1.2	100	0.84	80	6.6	0	0	0	0
湖 南 市	岩 根	60	2.6	100	0.90	100	10.4	0	0	0	0
甲 賀 市	水 口 町 山	100	13.6	100	0.99	60	1.6	0	0	0	0
	甲 賀 町 滝	40	0.8	100	1.09	80	1.0	0	0	0	0
	信 楽 町 黄 瀬	40	1.6	100	2.50	100	25.4	0	0	0	0
近 江 八 幡 市	野 村 町	0	0	100	0.68	80	6.6	0	0	0	0
	安 土 町 大 中	20	0.2	40	0.28	100	4.4	20	0.8	0	0
日 野 町	十 禅 師	80	15.6	100	1.87	40	3.4	0	0	0	0
竜 王 町	小 口	80	4.2	100	0.65	100	12.0	0	0	0	0
東 近 江 市	林 田 町	40	1.0	100	0.34	100	7.0	0	0	0	0
	川 合 町	100	13.6	100	1.15	100	37.8	0	0	0	0
	石 谷 町	0	0	100	0.37	40	1.2	0	0	0	0
	五 個 荘 平 阪 町	0	0	40	0.42	80	3.6	0	0	0	0
	栗 見 新 田 町	80	3.2	100	0.65	100	12.8	0	0	0	0
	鯉 江 町	40	2.2	60	0.91	80	7.0	0	0	0	0
彦 根 市	新 海 町	100	1.8	80	0.23	100	16.2	0	0	0	0
愛 荘 町	東 円 堂	0	0	20	0.03	80	2.6	0	0	0	0
甲 良 町	法 養 寺	40	0.8	60	0.12	100	24.8	0	0	0	0
多 賀 町	土 田	0	0	0	0	100	4.8	0	0	0	0
米 原 市	本 市 場	0	0	100	0.70	40	1.0	0	0	0	0
	入 江	0	0	60	0.12	80	1.2	0	0	20	0.4
	西 円 寺	0	0	60	0.29	60	3.0	0	0	0	0
長 浜 市	永 久 寺 町	0	0	40	0.09	100	9.2	0	0	0	0
	湯 次 町	0	0	100	0.56	100	7.4	0	0	0	0
	早 崎 町	80	0.8	100	1.02	100	8.6	0	0	0	0
	高 月 町 柳 野 中	100	1.8	100	2.25	100	12.2	0	0	0	0
	余 呉 町 坂 口	80	1.4	100	1.83	100	26.4	0	0	0	0
高 島 市	マキノ町知内	80	1.8	80	0.35	100	4.4	0	0	0	0
	今津町上弘部	60	0.8	100	1.45	100	7.4	0	0	0	0
	安曇川町北船木	100	1.8	100	2.38	100	11.4	0	0	0	0
	新旭町北畑	100	1.0	100	0.86	100	10.6	0	0	0	0

1 地点 5 筆調査。発生ほ場率 (%) は、5 筆中に対象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1 筆あたり25株の発病度を調査し、5 筆の平均を算出したもの。

平均発病穂 (株) 率 (%) は、1 筆あたり25株を調査して発病穂 (株) 率を求め、5 筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準 (平成28年農林水産省生産局植物防疫課) に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名	病害虫名	ごま葉枯病		稲こうじ病		ばか苗病		黄萎病（立毛中）		黄萎病（再生芽）	
		発生ほ場率	平均発病度	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率
大津市	関津	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	和邇南浜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
守山市	赤野井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栗東市	上砥山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
湖南市	岩根	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲賀市	水口町山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲賀町滝	40	1.2	20	0.4	0	0	0	0	0	0
	信楽町黄瀬	80	4.2	20	0.4	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	40	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	安土町大中	20	1.0	0	0	0	0	0	0	0	0
日野町	十禅師	20	3.0	20	0.4	0	0	0	0	0	0
竜王町	小口	100	4.8	0	0	0	0	0	0	0	0
東近江市	林田町	40	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	川合町	40	0.8	0	0	0	0	0	0	0	0
	石谷町	100	7.8	20	0.4	0	0	0	0	0	0
	五個荘平阪町	0	0	40	22.0	0	0	0	0	0	0
	栗見新田町	40	2.6	0	0	0	0	0	0	0	0
	鯉江町	80	12.6	60	3.2	0	0	0	0	0	0
彦根市	新海町	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
愛荘町	東円堂	20	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0
甲良町	法養寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
多賀町	土田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
米原市	本市場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入江	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	西円寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市	永久寺町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	湯次町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	早崎町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	高月町柳野中	0	0	40	1.2	0	0	0	0	0	0
	余呉町坂口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	今津町上弘部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安曇川町北船木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新旭町北畑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

1 地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中对象病害が発生した筆数より算出。

平均発病度は、1筆あたり25株の発病度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

平均発病株率（％）は、1筆あたり稲こうじ病で50株、ばか苗病で100株、黄萎病（立毛中）で25株、黄萎病（再生芽）で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

発病度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（平成28年農林水産省生産局植物防疫課）に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名	縞葉枯病(立毛中)		縞葉枯病(再生芽)		イネミズゾウムシ		イネドロオイムシ	
			発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均発病株率	発生ほ場率	平均被害度	発生ほ場率	平均被害度
大津市	関津		60	1.2	60	1.0	100	16.4	0	0
	和邇南浜		0	0	100	3.1	100	26.2	80	1.6
草津市	下笠町		20	0.2	100	6.0	100	2.0	0	0
守山市	赤野井町		40	0.8	100	5.9	100	1.8	0	0
栗東市	上砥山		20	0.2	100	4.6	100	13.0	80	0.8
野洲市	上屋		40	0.4	100	17.8	60	7.0	0	0
湖南市	岩根		0	0	100	30.8	40	5.0	0	0
甲賀市	水口町山		80	0.8	100	13.7	80	2.0	80	1.6
	甲賀町滝		60	0.6	100	4.5	100	11.4	40	0.8
	信楽町黄瀬		60	0.6	100	2.5	100	7.0	100	4.8
近江八幡市	野村町		80	1.4	100	30.5	40	0.8	0	0
	安土町大中		40	0.6	100	23.1	80	2.6	0	0
日野町	十禅師		0	0	100	2.3	100	18.4	20	0.6
竜王町	小口		80	1.2	100	36.3	60	4.2	0	0
東近江市	林田町		80	1.0	100	11.7	80	2.2	0	0
	川合町		60	0.6	100	37.2	100	13.0	0	0
	石谷町		20	0.4	60	1.3	100	3.6	0	0
	五個荘平阪町		0	0	100	3.9	100	13.4	0	0
	栗見新田町		60	0.6	100	7.9	100	24.8	0	0
	鯉江町		0	0	100	5.6	100	13.8	0	0
彦根市	新海町		0	0	100	6.8	20	0.6	0	0
愛荘町	東円堂		20	0.2	100	4.4	100	4.6	0	0
甲良町	法養寺		60	1.0	100	9.3	80	17.6	0	0
多賀町	土田		0	0	100	16.1	40	3.8	0	0
米原市	本市場		0	0	80	1.5	40	1.6	0	0
	入江		0	0	60	0.3	100	8.0	0	0
	西円寺		0	0	80	0.7	100	16.4	40	0.4
長浜市	永久寺町		0	0	40	0.7	0	0	0	0
	湯次町		0	0	80	0.5	100	5.6	0	0
	早崎町		0	0	40	0.2	0	0	0	0
	高月町柳野中		0	0	80	0.5	0	0	0	0
	余呉町坂口		0	0	40	0.3	0	0	100	3.4
高島市	マキノ町知内		0	0	100	1.4	40	1.6	0	0
	今津町上弘部		0	0	60	0.2	100	10.0	0	0
	安曇川町北船木		0	0	80	1.6	100	10.8	0	0
	新旭町北畑		0	0	100	3.1	100	6.6	0	0

1地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中に対象病害虫が発生した筆数より算出。

平均発病株率（％）は、1筆あたり縞葉枯病（立毛中）で25株、縞葉枯病（再生芽）で400株を調査して発病株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

平均被害度は、1筆あたり25株の被害度を調査し、5筆の平均を算出したもの。

被害度の算出は、発生予察事業の調査実施基準（平成28年農林水産省生産局植物防疫課）に従った。

地点別調査結果（つづき）

調査地点名		病害虫名		ニカメイガ(1)		ニカメイガ(2)		イチモンジセセリ	コブノメイガ		イネクロカメムシ
		発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率	発生ほ場率	平均被害株率	発生ほ場率		
大津市	関津	20	0.8	20	0.8	0	0	0	0	0	
	和邇南浜	100	4.0	80	3.2	0	0	0	0		
草津市	下笠町	100	7.2	20	0.8	0	0	0	0		
守山市	赤野井町	100	12.0	20	0.8	0	0	0	0		
栗東市	上砥山	60	2.4	0	0	20	0	0	0		
野洲市	上屋	100	6.4	0	0	0	0	0	20		
湖南市	岩根	100	4.0	0	0	0	0	0	0		
甲賀市	水口町山	100	4.0	0	0	20	0	0	0		
	甲賀町滝	100	6.4	0	0	0	0	0	0		
	信楽町黄瀬	20	0.8	0	0	0	20	0.8	0		
近江八幡市	野村町	20	0.8	20	0.8	0	0	0	0		
	安土町大中	0	0	20	0.8	0	0	0	0		
日野町	十禅師	40	2.4	40	3.2	40	0	0	0		
竜王町	小口	100	11.2	20	1.6	0	0	0	0		
東近江市	林田町	80	6.4	20	0.8	0	0	0	0		
	川合町	80	3.2	40	4.0	0	0	0	0		
	石谷町	40	1.6	100	4.8	0	0	0	0		
	五個荘平阪町	40	1.6	0	0	0	0	0	0		
	栗見新田町	60	4.0	100	4.0	40	20	0.8	0		
	鯨江町	80	5.6	60	2.4	20	0	0	0		
彦根市	新海町	40	1.6	20	0.8	0	0	0	0		
愛荘町	東円堂	40	1.6	40	1.6	0	0	0	0		
甲良町	法養寺	100	12.8	40	2.4	60	0	0	0		
多賀町	土田	20	0.8	20	0.8	20	0	0	0		
米原市	本市場	80	3.2	20	0.8	0	0	0	0		
	入江	0	0	80	3.2	0	40	1.6	0		
	西円寺	0	0	80	3.2	0	0	0	0		
長浜市	永久寺町	0	0	40	2.4	0	0	0	0		
	湯次町	100	4.0	60	3.2	0	0	0	0		
	早崎町	100	4.0	0	0	0	0	0	0		
	高月町柳野中	80	3.2	60	2.4	0	0	0	0		
	余呉町坂口	0	0	80	4.0	0	0	0	0		
高島市	マキノ町知内	100	4.0	60	2.4	0	0	0	0		
	今津町上弘部	20	0.8	0	0	0	0	0	0		
	安曇川町北船木	100	4.0	60	2.4	0	0	0	0		
	新旭町北畑	60	2.4	0	0	0	0	0	0		

1地点5筆調査。発生ほ場率（％）は、5筆中に対象害虫が発生した筆数より算出。

平均被害株率（％）は、1筆あたり25株を調査して被害株率を求め、5筆の平均を算出したもの。

b 地域別集計表

病害虫名	葉いもち				穂いもち				紋枯病			
	発病度		ほ場率(%)		発病率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	2.4	1.9	53.3	36.7	0.6	0.4	83.3	58.2	6.6	11.5	86.7	88.6
甲賀	4.7	0.8	60.0	21.1	1.4	0.9	100	58.4	9.6	5.9	85.0	77.1
東近江	4.0	1.1	44.0	22.8	0.7	0.7	84.0	60.0	9.6	13.0	82.0	89.0
湖東	0.7	0.7	35.0	12.7	0.1	0.3	40.0	50.1	12.1	9.8	95.0	79.6
湖北	0.5	0.3	32.5	9.7	0.9	0.3	82.5	44.9	8.6	6.8	85.0	72.6
高島	1.3	0.7	85.0	24.5	1.3	0.5	95.0	66.5	8.5	6.7	100.0	75.0
全県	2.4	0.9	48.3	21.1	0.8	0.5	81.7	55.8	9.0	9.4	87.2	81.2

病害虫名	もみ枯細菌病				白葉枯病				ごま葉枯病			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)		発病度		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	—	0	—	0	0.1	0	8.1	0	0.2	0	7.0
甲賀	0	—	0	—	0	1.3	0	15.0	1.4	0.4	30.0	11.9
東近江	0.1	—	2.0	—	0	0.1	0	8.0	3.4	0.3	48.0	11.4
湖東	0	—	0	—	0	0.0	0	1.6	0.1	0.0	10.0	1.2
湖北	0	—	0	—	0.1	0.0	2.5	0.9	0	0.0	0	1.1
高島	0	—	0	—	0	0.0	0	2.5	0	0	0	0
全県	0	—	0.6	—	0.0	0.1	0.6	5.9	1.1	0.2	17.8	6.1

病害虫名	稲こうじ病				ばか苗病				黄萎病(立毛中)			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	0.0	0	0.3	0	—	0	—	0	0	0	0
甲賀	0.2	0.0	10.0	1.4	0	—	0	—	0	0	0	0
東近江	2.6	0.1	14.0	4.0	0	—	0	—	0	0	0	0
湖東	0	0.0	0	0.4	0	—	0	—	0	0	0	0
湖北	0.2	0.4	5.0	4.6	0	—	0	—	0	0	0	0
高島	0	0.0	0	1.0	0	—	0	—	0	0	0	0
全県	0.8	0.1	6.1	2.5	0	—	0	—	0	0	0	0

病害虫名	黄萎病(再生芽)				縞葉枯病(立毛中)				縞葉枯病(再生芽)			
	発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)		発病株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0	0	0	0	0	—	0	—	6.4	3.3	93.3	69.9
甲賀	0	0.0	0	1.2	0.1	—	5.0	—	12.8	0.8	100.0	58.3
東近江	0	0.0	0	0.4	0.0	—	2.0	—	16.0	1.6	96.0	65.6
湖東	0	0	0	0	0	—	0	—	9.1	0.6	100.0	66.7
湖北	0	0.0	0	0.9	0	—	0	—	0.6	0.5	62.5	44.7
高島	0	0.0	0	1.0	0	—	0	—	1.5	0.1	85.0	21.0
全県	0	0.0	0	0.6	0.0	—	1.1	—	8.2	1.3	87.8	56.1

病害虫名	イネミズゾウムシ				イネドロオウムシ				ニカメイガ第1世代			
	被害度		ほ場率(%)		被害度		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	11.1	11.3	93.3	83.3	0.4	0.2	26.7	12.8	5.5	8.7	80.0	77.9
甲賀	6.4	8.1	80.0	69.8	1.8	0.9	55.0	36.5	3.8	2.9	80.0	54.4
東近江	9.7	11.2	86.0	73.8	0.1	0.1	2.0	4.6	3.7	6.9	54.0	75.2
湖東	6.7	5.3	60.0	76.7	0	0.0	0	0.9	4.2	7.0	50.0	68.5
湖北	4.0	10.5	42.5	73.1	0.5	0.2	17.5	11.0	1.8	7.6	45.0	65.1
高島	7.3	24.0	85.0	97.0	0	0.2	0	7.0	2.8	5.7	70.0	62.0
全県	7.7	11.2	73.9	77.5	0.4	0.2	15.0	10.9	3.5	6.8	60.6	68.8

病害虫名	ニカメイガ第2世代				イチモンジセセリ				コブノメイガ				イネクロカメムシ	
	被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)		被害株率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)		ほ場率(%)	
	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平	本	平
大津南部	0.9	3.4	23.3	60.0	3.3	13.1	0	0.7	0	16.0	3.3	0.9		
甲賀	0	2.5	0	50.8	5.0	7.9	0.2	0.5	5.0	12.1	0	0.5		
東近江	2.2	4.1	42.0	69.6	10.0	11.6	0.1	0.6	2.0	13.8	0	1.2		
湖東	1.4	3.4	30.0	72.8	20.0	7.2	0	0.9	0	21.4	0	0		
湖北	2.4	3.6	52.5	82.8	0	13.1	0.2	1.8	5.0	32.1	0	0.2		
高島	1.2	3.1	30.0	73.5	0	11.5	0	3.8	0	40.5	0	0		
全県	1.6	3.5	33.9	69.4	6.1	11.2	0.1	1.2	2.2	21.7	0.6	0.5		

発病度および被害度の算出は、発生予察事業の調査実施基準(平成28年農林水産省生産局植物防疫課)に従った。
もみ枯細菌病、ばか苗病、縞葉枯病(立毛中)は平成28年度から調査開始のため平年値なし。

c 精密調査ほ調査結果

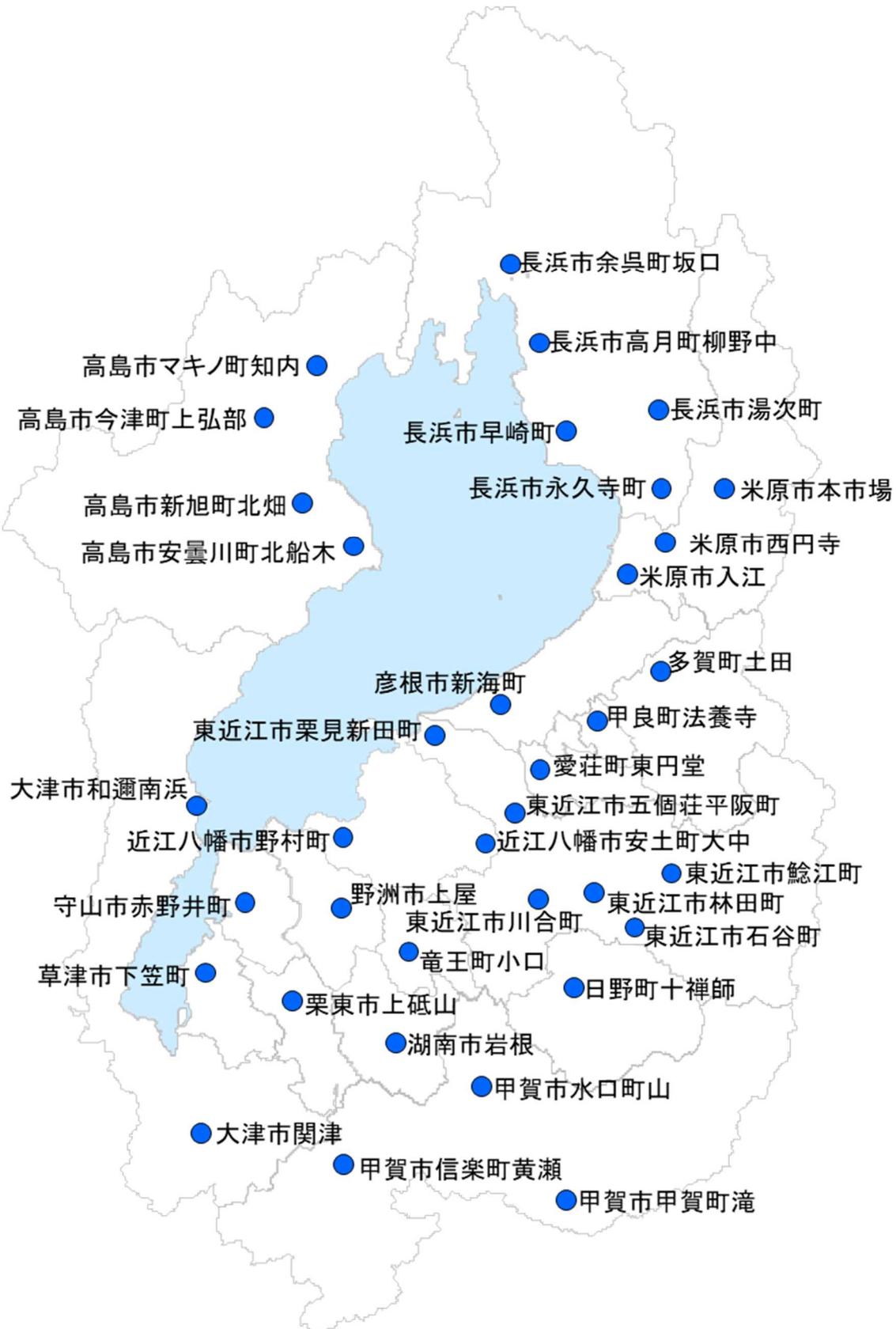
調査地点名		害虫名	斑点米カメムシ類(頭)		斑点米被害率(%)				
			畦畔発生量	本田発生量	標準斑点米	黒触粒	尻黒粒	基部加害型	合計
			6月28日	7/26~8/4	収穫後				
大津市	関津	2	—	0.02	0.05	0.08	0	0.14	
	和邇南浜	41	—	0	0.02	0.11	0	0.13	
草津市	下笠町	39	3	0.16	0.09	0.01	0	0.27	
守山市	赤野井町	15	—	0	0.05	0.03	0	0.08	
栗東市	上砥山	0	3	0.11	0.03	0.03	0.04	0.21	
野洲市	上屋	163	9	0.03	0.02	0.03	0	0.09	
湖南市	岩根	62	2	0.03	0.05	0.02	0.06	0.15	
甲賀市	水口町山	31	5	0.06	0	0	0.02	0.08	
	甲賀町滝	0	8	0.13	0.05	0	0.08	0.26	
	信楽町黄瀬	3	10	0.33	0.10	0.07	1.87	2.37	
近江八幡市	野村町	6	3	0.30	0.04	0.04	0	0.38	
	安土町大中	9	1	0	0.10	0	0	0.10	
日野町	十禅師	24	—	0.07	0.03	0.03	0	0.14	
竜王町	小口	25	2	0	0.05	0	0	0.05	
東近江市	林田町	20	8	0.05	0.02	0	0.02	0.10	
	川合町	6	9	0.17	0.06	0.51	0	0.74	
	石谷町	2	1	0.07	0.12	0.07	0.02	0.27	
	五個荘平阪町	4	—	0.04	0.04	0.03	0.01	0.13	
	栗見新田町	5	9	0.21	0.04	0.06	0	0.31	
	鯉江町	59	21	0.10	0.04	0.06	0.04	0.25	
彦根市	新海町	0	—	0.06	0.04	0.03	0	0.13	
愛荘町	東円堂	127	14	0.66	1.41	1.51	0.05	3.63	
甲良町	法養寺	6	—	0.10	0.08	0.30	0.10	0.58	
多賀町	土田	23	13	0.07	0.38	0.59	0	1.03	
米原市	本市場	101	19	0.09	0.05	0.03	0	0.17	
	入江	12	—	0	0.02	0.02	0	0.04	
	西円寺	38	4	0.15	0.06	0.15	0	0.36	
長浜市	永久寺町	113	—	0.11	0	0.14	0.01	0.27	
	湯次町	21	—	0.03	0.03	0.07	0.02	0.15	
	早崎町	2	—	0.08	0.06	0.01	0.03	0.17	
	高月町柳野中	16	—	0	0.02	0.02	0	0.03	
	余呉町坂口	3	—	0.07	0.07	0	0	0.13	
高島市	マキノ町知内	3	12	0.16	0.02	0	0	0.18	
	今津町上弘部	140	1	0.09	0.12	0.03	0	0.24	
	安曇川町北船木	1	2	0.08	0.04	0	0	0.12	
	新旭町北畑	10	29	0.07	0.01	0.06	0	0.15	

畦畔の斑点米カメムシ類発生量は捕虫網10回振り調査。

本田の斑点米カメムシ類発生量は捕虫網50回振り調査、- は出穂していなかったことを示す。

斑点米被害率はランダムにサンプリングした100穂の全粒から求めた値。なお各斑点米被害率の値は四捨五入をしているため、それらの合計が、合計欄の値と合致しない場合がある。

d 水稻病虫害発生量調査定点配置図（36か所）



オ 初発見月日と初発見場所

病害名	初発見月日	初発見場所
葉いもち(置苗)	5/30	竜王町小口
葉いもち	6/28	近江八幡市島町
穂いもち	7/27	東近江市きぬがさ町
紋枯病	6/28	東近江市川合町
白葉枯病	8/31	甲賀市水口町春日
ばか苗病	5/30	長浜市落合町
もみ枯細菌病	8/17	近江八幡市安土町大中
ごま葉枯病	8/15	竜王町小口
縞葉枯病	6/13	近江八幡市野村町
黄萎病	-	-
稲こうじ病	8/8	東近江市鯉江町

注:「-」は発生が認められなかった。

害虫名	初発見月日	初発見場所
ニカメイガ	4/23	守山市矢島町(A予察灯)
	6/11	東近江市きぬがさ町(L)
セジロウンカ	6/29	近江八幡市安土町大中(A予察灯)
トビイロウンカ	7/18	守山市矢島町(A予察灯)
ヒメトビウンカ	4/9	近江八幡市安土町大中(Aすくい取り)
ツマグロヨコバイ	4/6	近江八幡市安土町大中(Aすくい取り)
イネドロオイムシ	6/14	甲賀市水口町山(L)
イネクロカメムシ	5/30	野洲市上屋(A)
ホソハリカメムシ	4/15	東近江市栗見新田町(Aすくい取り)
クモヘリカメムシ	6/28	甲賀市水口町滝(Aすくい取り)
トゲシラホシカメムシ	4/20	近江八幡市安土町大中(Aすくい取り)
アカスジカスミカメ	4/20	近江八幡市安土町大中(Aすくい取り)
アカヒゲホソミドリカスミカメ	5/6	東近江市鯉江町(Aすくい取り)
イネカメムシ	7/4	大津市里(A)
コバネヒョウタンナガカメムシ	4/25	東近江市川合町(Aすくい取り)
イチモンジセセリ	6/16	東近江市きぬがさ町(L)
フタオビコヤガ	6/12	大津市里(L)
コブノメイガ	8/10	長浜市早崎町(L)
イネミズゾウムシ	5/17	湖南市妙感寺(A)
コバネイナゴ	5/17	甲賀市水口町泉(L)
スクミリンゴガイ	5/12	野洲市安治(A)

注:初発見場所()内 A:成虫、L:幼虫

カ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積(ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					発生面積率(%)	被害面積率(%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
イネ	31,400	葉いもち	0	10	890	14300	15200	27.4	2.9	15000	16000
		穂いもち	0	10	500	25090	25600	81.5	1.6	12000	12500
		紋枯病	0	1000	2000	24500	27500	87.6	9.6	3500	3500
		白葉枯病	0	0	0	200	200	0.6	0.0	6000	6000
		ばか苗病	0	0	0	800	800	2.5	0.0	9000	9000
		もみ枯細菌病	0	0	0	200	200	0.6	0.0	5000	5000
		ごま葉枯病	0	0	100	5500	5600	17.8	0.3	2000	2000
		縞葉枯病	0	0	0	1800	1800	5.7	0.0	22000	23000
		黄萎病	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0
		稲こうじ病	0	100	300	1500	1900	6.1	1.3	500	500
		ニカメイガI	0	0	170	19000	19170	61.1	0.5	13000	13000
		ニカメイガII	0	0	0	10600	10600	33.8	0.0	6500	6500
		セジロウンカ	0	0	0	10500	10500	33.4	0.0	19000	19000
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0	0.0	0.0	19000	19000
		ヒメトビウンカ	0	500	3500	23000	27000	86.0	12.7	19000	19000
		ツマグロヨコバイ	0	0	1200	11000	12200	38.9	3.8	19000	19000
		イネドロオイムシ	0	0	0	4700	4700	15.0	0.0	14000	14000
		斑点米カメムシ類	0	1300	8200	12000	21500	68.5	30.3	19000	19000
		イネクロカメムシ	0	0	0	200	200	0.6	0.0	400	400
		イチモンジセセリ	0	0	0	1900	1900	6.1	0.0	6100	6100
フタオビコヤガ	0	0	0	0	0	0.0	0.0	12800	12800		
コブノメイガ	0	0	0	700	700	2.2	0.0	0	0		
イネミズゾウムシ	0	0	3000	20000	23000	73.2	9.6	14000	14000		
コバネイナゴ	0	0	2700	15000	17700	56.4	8.6	9500	9500		
スクミリンゴガイ	0	0	2	57	59	0.2	0.0	41	41		

ニカメイガI、IIは第1世代、第2世代を指す

被害面積率=甚~中発生面積/栽培面積×100

(2) ムギ（令和3年秋播き）

ア 生育概況

播種時期にあたる10月後半は天気にも恵まれ、ほ場準備や播種作業は順調に進んだ。その後、11月前半は気温も高く、適度な降雨もあったことから出芽・苗立ちは良好であった。12月から3月上旬には断続的に降雪や積雪があったことから気温は平年並～低く推移し、このため、生育は停滞し、平年並からやや遅くなった。さらに、降雪が多かったことから湖北、高島地域の一部で雪腐病が16年ぶりに発生した。

3月中旬以降は降雨も少なく、天気にも恵まれ、気温が高く推移したことから、生育は回復し、平年並みになった。生育が回復したことから、出穂期は平年並となった。

出穂後は、5月の気温が平年並～やや低く推移したことから、成熟期はやや遅くなった。

イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
コムギ	うどんこ病	早	やや多	ほ場での初発確認は4月12日で、発生時期は早く、発生ほ場率は、やや高かった。	3月および4月の気温が高く、3月下旬の降水日数が多かったことから、初発時期が早まったと考えられる。さらに、4月下旬の降水日数も多く、感染は拡大した。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	平年並	多	ほ場での初発確認は5月9日で、発生時期は平年並であった。全県的に発生が見られ（発生ほ場率74.7%）、発生量は多かった。	前年の発生量は多く、伝染源が多かったと考えられる。また、コムギの開花期前後である4月下旬の降水量、降水日数ともに多かったため、感染は多かったと考えられる。一方で、5月の降水量は少なく、二次伝染やかび毒の蓄積は少ないと考えられる。また、新導入品種の赤かび病抵抗性が弱く、全体の発生量が多くなった。	開花期頃から1～2回の薬剤防除。抵抗性弱品種については、2～3回の薬剤防除。麦類の開花時期に気温が高く、曇雨天が多い気象予報だったことから、4月26日に注意報を発表した。開花期に曇雨天が続いたほ場では、追加防除が実施された。
	黒節病	平年並	少	ほ場での初発確認は3月15日で、発生時期は平年並であった。発生ほ場率（12.7%）は過去10年で最も少なかった。	年明け以降、生育期間中の降水量は少なかった。また、コムギの茎数は少なかったことから、株間湿度が低く、発生が抑制されたと考えられる。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種的防除。
オオムギ	うどんこ病	-	やや多	ほ場での初発確認は4月15日であった。過去10年で3回（H29、H30、R3）しか、発生を確認していないため、平年と比較すると、発生は、やや多くなった。	3月および4月の気温が高く、3月下旬の降水日数が多かったことから、感染が成立した。さらに、4月下旬の降水日数も多く、感染は拡大した。	赤かび病の防除時に同時防除の実施。
	赤かび病	平年並	やや多	ほ場での初発確認は5月10日で、発生時期は平年並であった。全県的に発生が見られ、発生量は、やや多かった。	オオムギの開花期前後である4月下旬の降水量、降水日数ともに多かったため、感染は多かったと考えられる。一方で、5月の降水量は少なく、二次伝染やかび毒の蓄積は少ないと考えられる。	麦類の開花時期に気温が高く、曇雨天が多い気象予報だったことから、4月26日に注意報を発表した。開花期頃から2回の薬剤防除。曇雨天が続いた地域では、3回目の追加防除が実施された。
	黒節病	遅	やや少	ほ場での初発確認は4月12日で、発生時期は遅く、発生量は、やや少なかった。	年明け以降、生育期間中の降水量は少なかった。また、オオムギの茎数は少なかったことから、株間湿度が低く、発生が抑制されたと考えられる。	排水対策の徹底や適期播種などによる耕種的防除。

ウ 発生量調査

(ア) オオムギ

病害虫名 調査地点名	小さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
大津市 関津	0	0	0	0	20	0.1	0	0	0
近江八幡市 長田町	20	0.2	0	0	0	0	100	5.2	0
竜王町 岡屋	0	0	0	0	20	0.1	0	0	0
東近江市 建部北町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長浜市 高月町柳野中	0	0	20	0	60	0.4	0	0	0
長浜市 湖北町山本	100	7.2	100	0.6	60	0.5	0	0	0
長浜市 口分田町	100	8.1	40	1.4	100	1.3	40	0.4	0
高島市 今津町下弘部	0	0	40	0	80	0.8	0	0	0
高島市 新旭町藁園	40	0.0	0	0	100	0.8	0	0	0
全県平均	28.9	1.7	22.2	0.2	48.9	0.5	15.6	0.6	0

注：調査品種 近江八幡市長田町は「ニューサチホゴールデン」、その他の地点は「ファイバースノウ」

(イ) コムギ

病害虫名 調査地点名	赤さび病		うどんこ病		赤かび病		黒節病		縞萎縮病
	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	発生 面積率(%)	発生 ほ場率(%)	平均 発病度	発生 ほ場率(%)	平均発病 茎率(%)	発病 面積率(%)
草津市 下笠町	0	0	0	0	80	0.9	0	0	5
守山市 木浜町	0	0	0	0	100	1.1	0	0	—
守山市 矢島町	100	0	0	0	80	1.1	0	0	10
栗東市 上砥山	0	0	0	0	100	2.8	0	0	0
野洲市 上屋	0	0	0	0	20	0.1	0	0	20
野洲市 木部	0	0	0	0	100	3.2	0	0	—
湖南市 菩提寺	0	0	0	0	100	1.5	0	0	8
甲賀市 水口町酒人	20	0.0	0	0	80	5.8	0	0	20
甲賀市 甲南町杉谷	20	0.0	0	0	60	0.7	0	0	—
近江八幡市 野村町	0	0	0	0	100	1.6	0	0	0
近江八幡市 安土町上豊浦	0	0	0	0	80	1.9	0	0	0
近江八幡市 御所内町	40	0.0	40	0.0	100	5.0	0	0	1
近江八幡市 多賀町	0	0	20	0.0	100	3.3	0	0	0
近江八幡市 島町	0	0	0	0	100	1.3	20	0.2	0
日野町 猫田	0	0	0	0	80	3.8	0	0	0
竜王町 小口	0	0	0	0	100	0.7	20	0.2	0
東近江市 横山町	60	0.1	0	0	40	0.7	20	0.2	0
東近江市 上羽田町	0	0	20	0.0	80	1.6	20	0.2	0
東近江市 福堂町	20	0.0	0	0	40	0.7	20	0.4	0
東近江市 高木町	20	0.0	60	0.1	100	6.4	20	0.4	0
東近江市 南菩提寺町	20	0.0	0	0	40	0.3	40	0.8	0
彦根市 甘呂町	0	0	0	0	80	0.5	0	0	0
彦根市 普光寺町	20	0.0	0	0	40	0.9	0	0	0
愛荘町 東円堂	80	0.2	0	0	80	0.8	40	0.4	0
甲良町 法養寺	60	0.1	40	0.0	20	0.4	80	1.0	0
多賀町 敏満寺	100	0.7	20	0.0	20	0.1	60	1.2	0
米原市 世継	0	0	0	0	80	0.5	0	0	10
米原市 本市場	100	0.8	0	0	100	0.7	0	0	0
米原市 上多良	0	0	0	0	80	0.5	40	0.4	20
長浜市 本庄町	100	4.7	0	0	60	0.4	0	0	0
全県平均	25.3	0.2	6.7	0.0	74.7	1.6	12.7	0.2	3.5

注：調査品種

「びわほなみ」 栗東市上砥山、近江八幡市安土町上豊浦、御所内町、多賀町、島町、日野町猫田、竜王町小口、東近江市上羽田町、高木町、福堂町

「ふくさやか」 東近江市横山町、彦根市甘呂町、普光寺、愛荘町東円堂、甲良町法養寺、多賀町敏満寺

「シロガネコムギ」 守山市矢島町

「ミナミノカオリ」 近江八幡市野村町

その他の地点は「農林61号」

注：縞萎縮病の「—」は生育が合わず、調査未実施。

エ 発生状況一覧表

病害虫名	オオムギ		コムギ	
	初発見月日	初発見場所	初発見月日	初発見場所
さび病類	4/12	長浜市湖北町山本	4/20	近江八幡市安土町大中
うどんこ病	4/15	長浜市湖北町山本	4/12	守山市赤野井町
赤かび病	5/10	竜王町岡屋	5/9	野洲市木部
黒節病	4/12	近江八幡市長田町	3/15	湖南市菩提寺
株腐病	5/9	高島市新旭町藁園	4/6	東近江市林田町
縞萎縮病	—	—	3/1	湖南市岩根
アブラムシ類	4/12	大津市関津	3/1	近江八幡市野村町
ハモグリバエ類	4/12	愛荘町東円堂	—	—
ムギダニ	3/16	高島市新旭町藁園	—	—

注：「—」は発生を認めなかった。

オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
オオムギ	1628	さび病類	0	0	0	400	400	24.6	0	0	0
		うどんこ病	0	0	0	200	200	12.3	0	200	400
		赤かび病	0	0	0	800	800	49.1	0	1628	4000
		黒節病	0	0	100	150	250	15.4	6.1	0	0
コムギ	6210	さび病類	0	0	0	1600	1600	25.8	0	900	1300
		うどんこ病	0	0	0	400	400	6.4	0	900	1300
		赤かび病	0	0	500	4000	4500	72.5	8.1	6210	13000
		黒節病	0	0	0	800	800	12.9	0	0	0

注：被害面積率 = (程度別発生面積の甚～中の和) / (栽培面積)

(3) ばれいしょ

ア 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ばれいしょ	疫病	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	6月の降水量は少なく、発病に好適でなかったため、発病が認められなかった。また、前年の発生が少なかったことから、菌密度が低くなっていると考えられる。	発生初期に防除の実施。
	アブラムシ類	早	平年並	ほ場での初発確認は3月1日で、発生時期は早かった。ほ場での発生量は平年並であった。	比較的暖冬であり、越冬量は多かったと思われる。例年は5月下旬から6月上旬にかけて発生のピークが現れる。本年も同時期にピークが現れたが、気温も高く降雨も少ない増殖に寄与する条件であったにもかかわらず発生量は平年並であった。また、8月中旬の降雨の影響で増殖が抑制された。	定植時の粒剤施用など、多くは発生初期の防除が実施されている。

イ 発生量

調査地点	病害虫名	疫 病		アブラムシ類	
		発病度		寄生度	
		6月16日		6月16日	
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	2	0	2
甲良町	下之郷	0	0	0	0
米原市	世継	0	1	0	1
高島市今津町	深清水	0	2	0	2

ウ 発生状況一覧表

	病害虫名	初発見月日	初発見場所
ばれいしょ	疫病	-	-
	アブラムシ類	5月10日	草津市下笠町

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ばれいしょ	27	疫病	0	0	0	0	0	0	0	3	3
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	7.4	0	1	1

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

(4) ダイズ

ア 生育概況

6月第3半旬～第6半旬は降雨が少なく播種が進んだ。7月第1半旬～第4半旬は台風等により雨の合間の播種となったが、7月第5半旬から降雨が少なく7月下旬～8月にかけて播種された。

6月中旬～下旬播種は適度な降雨により出芽・苗立ちは良好だった。7月上旬～中旬播種の一部は降雨による出芽不良で生育も遅れたが、7月第6半旬～8月第3半旬の高温多照と周期的な降雨により生育良好となった。7月下旬播種は出芽・苗立ちは良好だったが、7月第6半旬と8月第2半旬の無降雨により出芽揃いが悪かった。8月播種は主茎長が短く生育量も小さくなった。

8月第4半旬の大雨により湿害を受けたほ場は生育不良となった。中耕培土が不十分なほ場や除草剤が適期散布できなかつたほ場は雑草が多発した。8月中旬～下旬は気温が平年並で周期的な降雨もあったが寡照であり、子実の肥大は緩慢であった。その後、9月は高温、第3半旬は多照となり、子実の肥大が進んだ。病害虫の発生は、7月下旬と8月中旬の気温が高く、吸実性カメムシ類の発生が多くなった。また、一部のほ場でハスモンヨトウやべと病の発生が見られた。

10月中旬から葉の黄化が始まったが、11月中旬から気温が高くなり遅播きほ場では落葉が遅れた。台風が少なく、周期的な降雨があり、生育は概ね良好なことから、収量は平年並となった。

イ 発生状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	べと病	早	並	ほ場での初発確認は7月13日で、発生時期は早く、県内全域で発生が認められたが、発病度は平年並であった。	6月播種で、7月上旬の降雨を受けた生育が旺盛な株で初発が確認された。7月の降水量は多かったが、生育期間を通じて、気温が高く推移したため、発生は抑制された。	本病への薬剤防除は未実施。
	葉焼病	やや遅	並	ほ場での初発確認は8月18日で、発生時期は、やや遅く、発生量は平年並であった。	9月後半まで影響を受ける台風の襲来がなかったが、7月の降水量は多かったため、少発生ほ場が全域で確認された。	本病への薬剤防除は未実施。
	ハスモンヨトウ	遅	並	7月中旬から9月中旬に至るまで、フェロモントラップに断続的な飛来がみられた。ほ場での初発確認は8月18日で、発生時期は遅かった。今年は7月下旬にフェロモントラップへの飛来数が、やや多くなり、ほ場での発生も例年(8月中旬以降にはほ場で発生量が増加)より多くなるかと思われたが、そうした傾向は見られなかった。今年のはほ場での発生量は平年並であった。	8月中旬の降雨や台風により増殖が抑制されたと考えられる。	8月下旬以降、1～2回の薬剤防除が実施されている。鱗翅目害虫の常発地では3～4回防除されることもある。
ダイズ	タバコガ類	早	やや少	オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は、6月、7月と8月のいずれも平年並に推移したが、同時期のタバコガの誘殺数はやや多い、または多かった。ほ場でのタバコガ類の初発確認は7月13日で、発生時期は早く、発生量はやや少なかった。	8月中旬の降雨や台風により増殖が抑制されたと考えられる。	ハスモンヨトウと同時防除されることが多い。今年は、タバコガの誘殺数が6月時点で多く、露地野菜で早期から被害果も確認されたことから、7月21日防に防除情報を発出した。
	フタスジヒメハムシ	並	少	ほ場での初発確認は6月28日で、発生時期は平年並であった。一部多発生・中発生ほ場も確認されたが、全体の発生量は少なかった。	種子塗抹処理剤の利用が進んでおり、発生が抑制された。発生が多いほ場は、同剤を使用していないか、本種に適用のない同剤を使用していると思われる。	種子塗抹処理剤により初期防除されている。近年、この剤の残効が切れてからの被害が一部地域で発生している。このため、結莢期も一部防除が実施されている。
	カメムシ類	早	多	ほ場での初発確認は7月26日で、発生時期は早く、発生量は多かった。特に9月の調査では、県中南部を中心に多数のミナミアオカメムシが確認され、一部地域では、甚発生・多発生ほ場も見られた。	7月下旬から8月中旬までと、9月上旬の気温が高く推移したことから、カメムシの増殖に好適となったことも発生量が多かった要因の一つではあるが、それ以上にミナミアオカメムシの個体数が昨年と比較して極めて多くなったことが最大の要因である。	通常、開花期以降に薬剤散布により防除されるが、近年、ハスモンヨトウの発生量が多く、鱗翅目害虫に対する防除を実施した場合、カメムシの防除が省略される場合がある。また、ミナミアオカメムシは、一部の合成ピレスロイド系薬剤の効果が低いので注意が必要である。
	アブラムシ類	遅	少	ほ場での初発確認は9月20日で、発生時期は遅く、発生量は少なかった。	黄色水盤での誘殺数は、4月以降、少なく推移した。4月下旬の降雨で春の増殖が抑えられ、8月中旬にも集中的な降雨があったことから、発生量は少なかった。	種子塗抹処理剤による初期防除が行われている。
	ハダニ類	早	やや少	ほ場での初発確認は6月28日と早かった。発生量は、やや少なかった。	8月中旬の降雨や台風により増殖が抑制されたと考えられる。	甚発生した場合のみ防除が実施される。

ウ 発生量調査

(8月18～19日調査、開花期)

病害虫名		べと病		葉焼病		カメムシ類	ハダニ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	発生ほ場率 (%)	虫数 (頭/a)	虫数 (頭/株)	発生株率 (%)	発生ほ場率 (%)	
調査地点								
大津市	牧	100	0	0	0	0	0	50
草津市	下笠町	0	0	0	0	0	0	0
守山市	矢島	50	50	0	0	0	0	50
守山市	赤野井町	50	50	0	0.1	0	0	50
栗東市	上砥山	0	0	0	0.1	0	0	0
野洲市	上屋	0	0	0	0.8	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0.1	0	0	0
甲賀市	水口町宇田	0	0	0	0	0	0	0
近江八幡市	野村町	0	0	0	0	0	0	50
近江八幡市	安土町大中	100	50	0.5	0.1	0	0	50
日野町	猫田	100	0	2.0	0.1	0	0	0
竜王町	岡屋	50	100	0	0	0	0	0
東近江市	市原野町	100	0	1.5	0	0	0	100
東近江市	福堂町	100	100	0.5	0.1	0	0	0
彦根市	新海町	100	0	0	0	0	0	50
愛荘町	東円堂	100	0	0	0	0	0	100
豊郷町	八町	100	0	0	0.4	0	0	0
甲良町	法養寺	0	50	0	0.2	0	0	0
米原市	本市場	0	0	1.0	0	0	0	0
長浜市	口分田町	0	0	0	0.1	0	0	0
長浜市	高月町柳野中	100	0	1.0	0.3	0	0	0
長浜市	湖北町山本	100	0	0.5	0	0	0	0
高島市	マキノ町知内	100	0	1.0	1.8	0	0	0

(9月20日調査、若莢期)

病害虫名		べと病		葉焼病		カメムシ類	ハスモンヨトウ
		発生ほ場率 (%)	平均発病度	発生ほ場率 (%)	平均発病度	虫数 (頭/a)	白変か所数 (か所/a)
調査地点							
大津市	牧	100	9.5	50	1.0	42.5	0.5
草津市	下笠町	100	10.0	50	0.5	25.0	0.5
守山市	矢島	100	8.0	50	1.0	6.0	2.5
守山市	赤野井町	50	1.5	100	6.0	1.0	0
栗東市	上砥山	100	10.0	100	2.5	1.0	5.0
野洲市	上屋	100	5.5	50	0.5	0	0.5
湖南市	菩提寺	100	7.5	100	3.5	16.0	1.5
甲賀市	水口町宇田	100	4.0	0	0	0	1.0
近江八幡市	野村町	50	0.5	100	2.5	0	0.5
近江八幡市	安土町大中	100	3.5	100	20.0	1.0	0.5
日野町	猫田	50	1.0	50	2.5	1.5	1.0
竜王町	岡屋	0	0	50	2.5	0	1.5
東近江市	市原野町	100	15.0	0	0	0	3.0
東近江市	福堂町	50	0.5	100	17.5	0	3.5
彦根市	新海町	100	3.5	100	15.5	0.5	0
愛荘町	東円堂	100	10.0	0	0	2.0	1.5
豊郷町	八町	100	10.0	100	3.0	3.0	2.5
甲良町	法養寺	0	0	100	11.0	0.5	1.0
米原市	本市場	50	10.0	100	9.5	4.0	0
長浜市	口分田町	100	1.0	100	6.5	0.5	0
長浜市	高月町柳野中	50	5.0	100	15.5	1.5	0
長浜市	湖北町山本	100	1.0	100	17.0	1.0	0
高島市	マキノ町知内	50	4.0	100	19.0	0	0

エ 発生状況一覧表

病害虫名	初発見月日	初発見場所
べと病	7月13日	日野町猫田
葉焼病	8月18日	近江八幡市安土町大中
茎疫病	7月14日	彦根市田附町
白絹病	7月13日	日野町猫田

病害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	9月20日	守山市赤野井町
ハダニ類	6月28日	高島市マキノ町知内
ハスモンヨトウ	8月18日	愛荘町東円堂
タバコガ類	7月13日	彦根市新海町
カメムシ類	7月26日	近江八幡市安土町大中
フタスジヒメハムシ	6月28日	高島市マキノ町知内
コガネムシ類	7月26日	湖南市菩提寺
サヤムシガ類	7月25日	近江八幡市安土町大中

オ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生 面積率 (%)	被害 面積率 (%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ダイズ	6,490	べと病	0	0	0	4,000	4,600	70.9	0	0	0
		葉焼病	0	0	250	4,000	4,250	65.5	3.9	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	140	140	2.2	0	3,100	3,100
		ハスモンヨトウ	0	400	700	2,300	3,400	52.4	16.9	3,100	3,100
		食葉性鱗翅目幼虫	0	0	0	900	900	13.9	0	3,100	3,100
		ハダニ類	0	0	0	10	10	0.2	0	0	0
		カメムシ類	400	100	400	2,100	3,000	46.2	13.9	1,600	1,600
		フタスジヒメハムシ	0	300	400	1,400	2,100	32.4	10.8	3,500	3,700

被害面積率 = (程度別発生面積・甚～中の和) / (栽培面積)

5 野菜（露地）病虫害発生予察事業

ナス科、ウリ科およびアブラナ科を中心として、露地野菜全般における主要病虫害を調査した。その結果に基づく病虫害発生予察情報として、発生予報9回、防除情報3回（タマネギと病、タバコガ類、ハイマダラノメイガ）および特殊報1回（クロテンコナカイガラムシ）を提供した。

(1) 野菜

ア 発生状況

農作物名	病虫害名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
野菜全般	うどんこ病 (夏秋ナス、夏秋キュウリ)	やや早	やや少	ほ場での初発確認は5月19日で、発生時期は、やや早かった。初発以降、発生は、やや少なくて推移した。	初発以降、5月および6月の降水量は少なくて推移したため、発生は抑制された。	発生初期に防除の実施。
	灰色かび病 (夏秋ナス、夏秋トマト、夏秋キュウリ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	6月の降水量は少なく、発病に好適でなかったため、発病は認められなかった。	発生初期に防除の実施。
	ハスモンヨトウ	遅	並	7月中旬から9月中旬に至るまで、フェロモントラップに断続的な飛来がみられた。ほ場での初発確認は8月18日で、発生時期は遅かった。今年は7月下旬にフェロモントラップへの飛来数が、やや多くなり、ほ場での発生も例年(8月中旬以降にはほ場で発生量が増加)より多くなるかと思われたが、そうした傾向は見られなかった。今年のほ場での発生量は平年並であった。	8月中旬の降雨や台風により増殖が抑制されたと考えられる。	主産地では定期的な薬剤防除がされている。アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用が実施されている。
	オオタバコガ	早	やや少	オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は、6月、7月と8月のいずれも平年並に推移したが、同時期のタバコガの誘殺数はやや多い、または多かった。ほ場でのタバコガ類の初発確認は7月13日で、発生時期は早く、発生量は、やや少なかった。	8月中旬の降雨や台風により増殖が抑制されたと考えられる。	ハスモンヨトウと同時防除がされている。今年は、タバコガの誘殺数が6月時点で多く、露地野菜で早期から被害果も確認されたことから、7月21日防に防除情報を発出した。
	ヨトウガ	平年並	平年並	フェロモントラップへの誘殺数は平年並に推移したが、ほ場では発生を確認していない。	フェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。ほ場では発生密度が低いため、確認できなかった。	主産地では定期的な薬剤防除が実施されている。また、アブラナ科野菜では、育苗時のセルトレイ灌注や、定植時の粒剤施用による防除が実施されている。
	アザミウマ類	早	並	ほ場での初発は3月1日で、発生時期は早かった。全体の密度は期間を通して平年並であった。	7月上旬から中旬の降雨により一旦密度が抑制されたが、7月下旬から8月中旬までと8月下旬の降雨が少なく、増殖が助長され、発生量は平年並となった。	発生に応じ薬剤防除が実施されている。
	コナジラミ類 (夏秋トマト、夏秋キュウリ)	遅	やや少	ほ場での初発確認は7月26日(ナス)で、発生時期は遅く、発生量は、やや少なかった。	通常、露地野菜では、問題になることが少ない。施設果菜類や、廃棄場所のトマト等からの飛来により発生する。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じることがある。
	アブラムシ類	早	平年並	ほ場での初発確認は3月1日で、発生時期は早かった。ほ場での発生量は平年並であった。	比較的暖冬であり、越冬量は多かったと思われる。例年は5月下旬から6月上旬にかけて発生のピークが現れる。本年も同時期にピークが現れたが、気温も高く降雨も少ない増殖に寄与する条件であったにも関わらず発生量は平年並であった。また、8月中旬の降雨の影響で増殖が抑制された。	定植時の粒剤施用など、多くは発生初期の防除が実施されている。
	ハダニ類	早	平年並	ほ場での初発確認は5月9日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	6月に入り気温が高めに推移したが、7月の降水量は多く、増殖に抑制がかり、発生量は平年並であった。	発生に応じ薬剤防除がされるが、微小害虫であることから発見・防除に遅れが生じやすい。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が認められている。
ナス科野菜	疫病 (夏秋トマト)	-	少	ほ場での発生は見られなかった。	6月の降水量は少なく、発病に好適でなかったため、発病が認められなかった。また、前年の発生が少なかったことから、残存菌密度が少なくなっていると考えられる。	発生初期に防除の実施。
	葉かび病 (夏秋トマト)	-	-	ほ場での発生は見られなかった。	前年に発生が確認されず、残存菌密度は少ないと考えられる。	発生初期に防除の実施。
	ニジュウヤホシテントウ類	早	平年並	ほ場での初発確認は5月10日で、発生時期は早く、発生量は平年並であった。	前年の発生量は、やや少なかったが、発育・繁殖に適した気象条件が継続し、発生量は平年並となった。	食害が顕著になった場合のみ防除されている。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
アブラナ科 野菜	軟腐病	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	9月後半まで台風などの襲来がなかったため、発病を確認していない。	発生初期に防除の実施。
	黒腐病 (冬キャベツ)	平年並	やや少	ほ場での初発確認は9月28日で、発生時期は平年並、発生量は、やや少なかった。	9月後半まで台風などの襲来がなかったことと、抵抗性品種の普及が進んだことから、発生量はやや少なかった。	発生初期に防除の実施。
	菌核病 (冬キャベツ)	-	少	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生は少なかったことから、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	ネキリムシ類	平年並	平年並	フェロモントラップでの誘殺時期と発生量は平年並であった。	8月中旬に降雨や台風の影響があったと思われるが、発生量は平年並であった。	播種または定植時の粒剤等の防除が実施されている。
	ハイマダラノメイガ	遅	やや多	ほ場での初発確認は9月26日で、発生時期は遅く、発生量は、やや多かった。	8月中旬の降雨影響はあったものの、発育・増殖に適した気候が継続したため発生量は、やや多かったと考えられる。防除したほ場と、無防除のほ場との被害の差は顕著となる。	育苗時のセルトレイ灌水や、定植時の粒剤施用が実施されている。8月下旬に指標植物であるクレオメでの個体数が著しく増加したため、8月31日に防除情報を発出した。
	コナガ	遅	やや少	ほ場での初発確認は5月30日で、発生時期は遅く、発生量は、やや少なかった。また、フェロモントラップでの誘殺数は、期間を通じて平年並に推移した。	近年、一部地域では発生量が増加傾向にある。春の発生量は平年並であった。	育苗時のセルトレイ灌水や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除。なお、一部地域では薬剤感受性の低下が認められている。
	モンシロチョウ	平年並	やや少	ほ場での初発確認は5月10日で、発生時期は平年並、発生量は、やや少なかった。	定植前にセルトレイ灌水や粒剤施用されている場合も多く、無防除のほ場との被害の差は顕著となる。	育苗時のセルトレイ灌水や、定植時の粒剤施用の実施。植付け後は発生初期の防除が実施されている。
キュウリ	べと病	平年並	やや少	ほ場での初発確認は5月30日で、発生時期は平年並、発生量は、やや少なかった。	初発以降、5月および6月の降水量は少なく、発生は抑制された。	発生初期に防除の実施。
	褐斑病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	5月および6月の降水量は少なく、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
タマネギ	べと病	-	-	ほ場での初発確認は3月1日であった。その後、二次感染により全域で発生が認められた。	定植後の11月後半～12月前半の降水量は、やや多く、卵胞子による初冬の感染が一定あったと考えられる。越年罹病株の発生後、3月中下旬および4月下旬に連続した降雨期間があったため、分生胞子による二次感染が成立したと考えられる。	2月の予防防除と発生初期から定期的な薬剤防除が実施されている。3月中旬に県内広域で越年罹病株の発生が認められ、二次感染による発生拡大が懸念されたことから、3月18日に防除情報を発表した。また、5月上旬の調査で発病株率が急増したことから、5月17日に防除情報を発表した。
	白色疫病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	前年の発生量は少なく、4月～5月の降水量は少なかったため、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
ネギ	さび病	平年並	平年並	ほ場での初発確認は4月15日で平年並、一部地域で発生が認められたが、発生量は平年並であった。	4月～6月の降水量は少なかったため、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	黒斑病	-	-	ほ場での発生は認められなかった。	4月～6月の降水量は少なかったため、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	べと病	-	-	ほ場での初発確認は6月21日で、各地で発生が認められた。	4月～6月の降水量は少なかったため、発病が抑制された。	発生初期に防除の実施。
	シロイチモジトウ	-	少	ほ場での発生を認めなかった。	フェロモントラップには誘殺されるが、本県でのほ場での発生は通常ほとんど見られない。さらに、ハスモンヨトウなど他害虫と同時防除されていると思われる。	発生時に薬剤散布が実施されている。

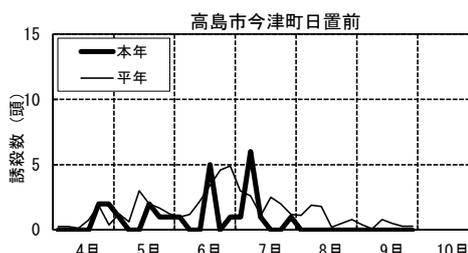
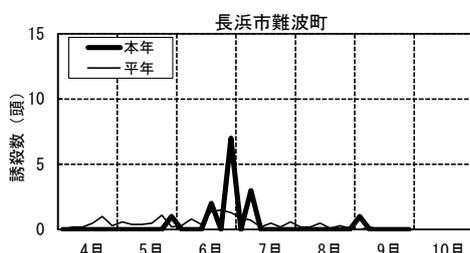
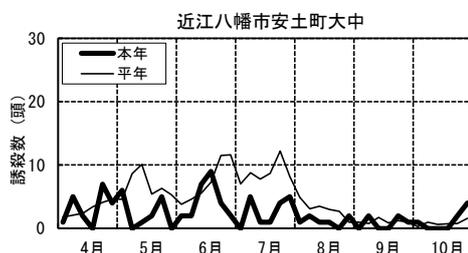
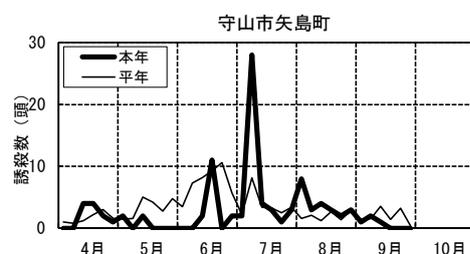
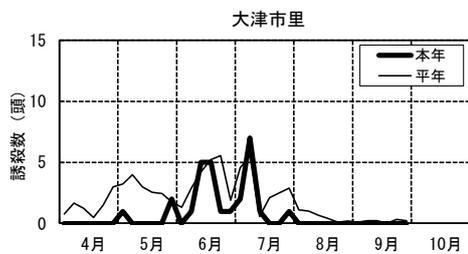
イ 予察灯、フェロモントラップ、黄色水盤による調査

(ア) 予察灯による調査

コナガ半旬別誘殺状況(予察灯)

(頭)

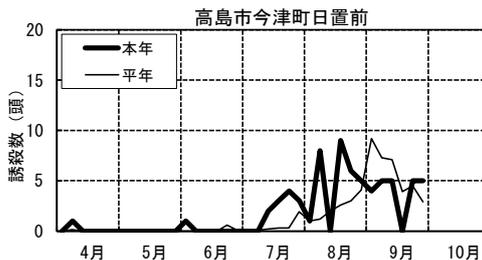
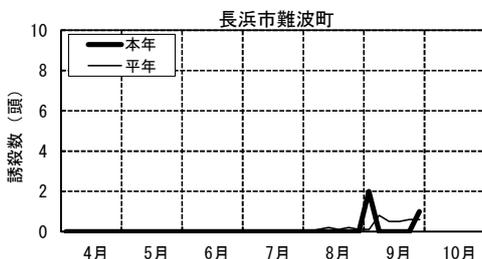
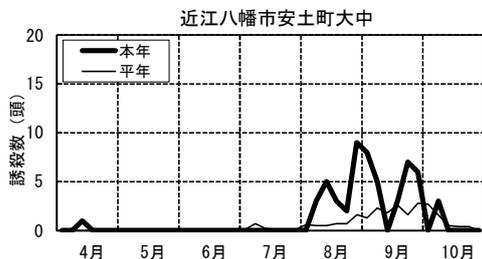
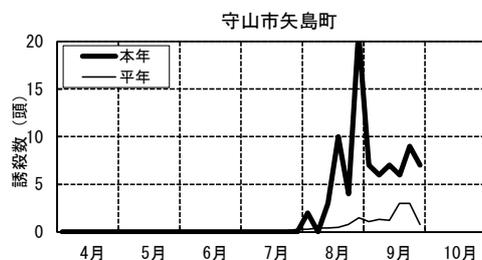
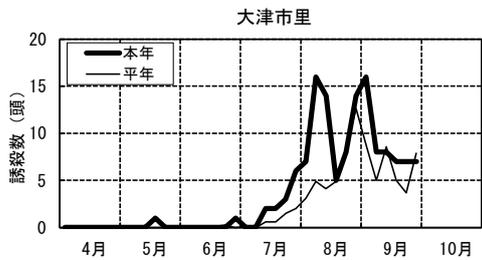
月 半旬	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4 1	0	0	0.8	0.8	0	0	1.0	1.0	1	1	1.8	1.8	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	1.7	2.4	0	0	0.8	1.8	5	6	2.1	3.9	0	0	0.2	0.2	0	0	0.3	0.5
3	0	0	1.3	3.7	4	4	1.2	3.0	2	8	2.4	6.3	0	0	0.2	0.4	0	0	0.1	0.6
4	0	0	0.5	4.2	4	8	2.2	5.2	0	8	3.4	9.7	0	0	0.5	0.9	0	0	0.8	1.4
5	0	0	1.5	5.7	2	10	3.0	8.2	7	15	4.1	13.8	0	0	1.0	1.9	2	2	1.9	3.3
6	0	0	3.0	8.7	1	11	1.6	9.8	4	19	4.6	18.4	0	0	0.3	2.2	2	4	0.4	3.6
5 1	1	1	3.2	11.9	2	13	1.5	11.3	6	25	4.6	23.0	0	0	0.6	2.8	1	5	1.3	4.9
2	0	1	4.0	15.9	0	13	1.6	12.9	0	25	8.6	31.6	0	0	0.4	3.2	0	5	0.6	5.5
3	0	1	3.0	18.9	2	15	5.0	17.9	1	26	10.1	41.7	0	0	0.4	3.6	0	5	3.0	8.5
4	0	1	2.6	21.5	0	15	4.2	22.1	2	28	5.4	47.1	0	0	0.5	4.1	2	7	2.0	10.5
5	0	1	2.4	23.9	0	15	2.8	24.9	5	33	6.3	53.4	0	0	1.1	5.2	1	8	1.7	12.2
6	2	3	1.8	25.7	0	15	4.8	29.7	0	33	5.3	58.7	1	1	0.2	5.4	1	9	1.2	13.4
6 1	0	3	1.3	27.0	0	15	3.5	33.2	2	35	3.8	62.5	0	1	0.3	5.7	1	10	1.0	14.4
2	1	4	2.9	29.9	0	15	7.3	40.5	2	37	4.6	67.1	0	1	0.8	6.5	0	10	1.2	15.6
3	5	9	4.2	34.1	2	17	8.2	48.7	7	44	5.5	72.6	0	1	0.4	6.9	0	10	2.2	17.8
4	5	14	5.2	39.4	11	28	9.3	58.0	9	53	7.3	79.9	2	3	1.4	8.3	5	15	3.4	21.2
5	1	15	5.6	44.9	0	28	10.6	68.6	4	57	11.5	91.4	0	3	1.5	9.8	0	15	4.6	25.8
6	1	16	1.9	46.8	2	30	5.7	74.3	2	59	11.6	103.0	7	10	1.3	11.1	1	16	4.9	30.7
7 1	2	18	4.6	51.4	2	32	2.2	76.5	0	59	7.0	110.0	0	10	0.9	12.0	1	17	3.0	33.7
2	7	25	5.6	56.9	28	60	8.1	84.6	5	64	8.8	118.8	3	13	0.7	12.7	6	23	2.6	36.3
3	1	26	0.6	57.5	4	64	3.4	88.0	1	65	7.8	126.6	0	13	0.2	12.9	1	24	1.1	37.4
4	0	26	2.1	59.6	3	67	3.3	91.3	1	66	8.7	135.3	0	13	0.5	13.4	0	24	2.5	39.9
5	0	26	2.5	62.1	1	68	2.5	93.8	4	70	12.2	147.5	0	13	0.2	13.6	0	24	2.0	41.9
6	1	27	2.9	65.0	3	71	3.4	97.2	5	75	8.2	155.7	0	13	0.6	14.2	1	25	1.2	43.1
8 1	0	27	1.1	66.1	8	79	1.6	98.8	1	76	4.9	160.6	0	13	0.2	14.4	0	25	1.1	44.2
2	0	27	1.0	67.1	3	82	2.1	100.9	2	78	3.1	163.7	0	13	0.2	14.6	0	25	1.9	46.1
3	0	27	0.7	67.8	4	86	1.2	102.1	1	79	3.5	167.2	0	13	0.5	15.1	0	25	1.8	47.9
4	0	27	0.4	68.2	3	89	2.7	104.8	1	80	3.0	170.2	0	13	0.1	15.2	0	25	0.2	48.1
5	0	27	0.1	68.3	2	91	1.4	106.2	0	80	2.7	172.9	0	13	0.3	15.5	0	25	0.5	48.6
6	0	27	0.2	68.5	3	94	2.9	109.1	2	82	1.0	173.9	0	13	0.1	15.6	0	25	0.8	49.4
9 1	0	27	0.1	68.6	1	95	1.4	110.5	0	82	1.0	174.9	1	14	0.0	15.6	0	25	0.4	49.8
2	0	27	0.2	68.8	2	97	1.6	112.1	2	84	0.8	175.7	0	14	0.2	15.8	0	25	0.1	49.9
3	0	27	0.2	69.0	1	98	3.6	115.6	0	84	1.7	177.4	0	14	0	15.8	0	25	0.8	50.7
4	0	27	0	69.0	0	98	1.4	117.1	0	84	0.9	178.3	0	14	0	15.8	0	25	0.5	51.2
5	0	27	0.3	69.4	0	98	3.2	120.3	2	86	1.2	179.5	0	14	0	15.8	0	25	0.3	51.5
6	0	27	0.2	69.6	0	98	0.4	120.7	1	87	1.0	180.5	0	14	0	15.8	0	25	0.3	51.8
10 1									1	88	0.3	180.8								
2									0	88	1.0	181.8								
3									0	88	0.6	182.4								
4									0	88	0.7	183.1								
5									2	90	0.8	183.9								
6									4	94	1.6	185.5								



シロオビノメイガ半月別誘殺状況(予察灯)

(頭)

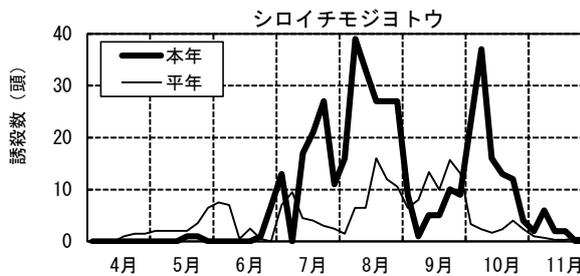
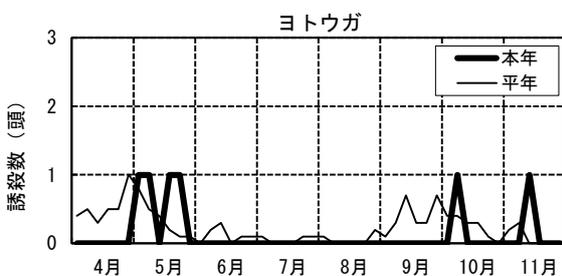
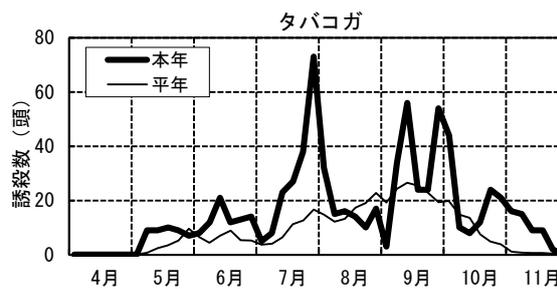
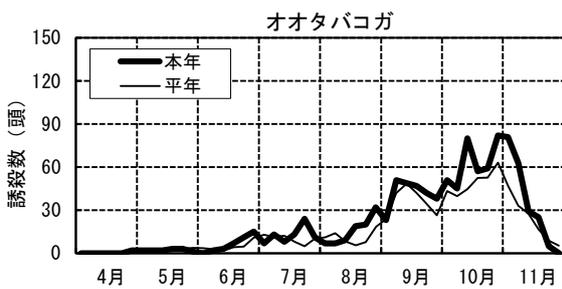
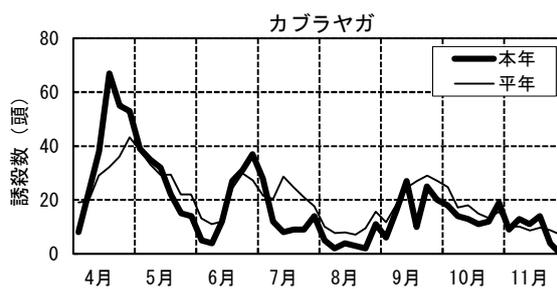
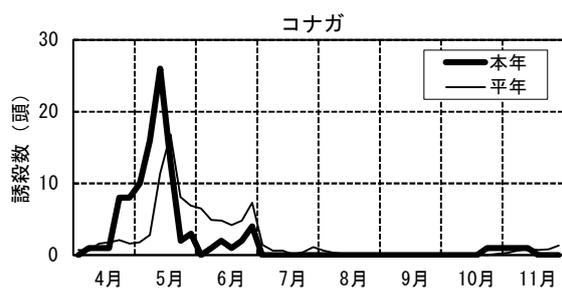
月 半月	大津市里				守山市矢島町				近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
5	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
5	4	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
5	5	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
5	6	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
6	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
6	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1
6	3	0	1	0.1	0.1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1
6	4	0	1	0.1	0.2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.1
6	5	0	1	0.2	0.4	0	0	0	0	1	1	0.1	0.1	0	0	0	0	0	2	0.6
6	6	1	2	0.4	0.4	0	0	0	0	1	1	0.1	0.2	0	0	0	0	0	2	0.1
7	1	0	2	0.1	0.6	0	0	0	0	1	1	0.1	0.3	0	0	0	0	0	2	0.1
7	2	0	2	0	0.6	0	0	0.1	0.1	1	1	0.7	1.0	0	0	0	0	0	2	0.1
7	3	2	4	0.6	1.2	0	0	0	0.1	1	1	0.2	1.2	0	0	0	0	2	4	0.2
7	4	2	6	0.6	1.8	0	0	0	0.1	1	1	0.1	1.3	0	0	0	0	3	7	0.3
7	5	3	9	1.5	3.3	0	0	0.1	0.2	1	1	0	1.3	0	0	0.0	0.0	4	11	0.3
7	6	6	15	2.0	5.3	0	0	0.3	0.5	1	1	0.1	1.4	0	0	0	0	3	14	1.9
8	1	7	22	3.1	8.4	2	2	0.3	0.8	0	1	0.6	2.0	0	0	0.0	0.0	1	15	1.0
8	2	16	38	4.9	13.3	0	2	0.4	1.2	3	4	0.5	2.5	0	0	0.1	0.1	8	23	1.2
8	3	14	52	4.1	17.4	3	5	0.4	1.6	5	9	0.5	3.0	0	0	0.2	0.3	0	23	2.0
8	4	5	57	4.9	22.3	10	15	0.5	2.1	3	12	0.7	3.7	0	0	0.1	0.4	9	32	2.6
8	5	8	65	8.4	30.7	4	19	0.8	2.9	2	14	0.7	4.4	0	0	0.2	0.6	6	38	3.0
8	6	14	79	12.6	43.3	21	40	1.5	4.4	9	23	1.6	6.0	0	0	0.1	0.7	5	43	4.1
9	1	16	95	8.7	51.9	7	47	1.1	5.5	8	31	1.3	7.3	2	2	0.1	0.8	4	47	9.2
9	2	8	103	5.0	56.9	6	53	1.3	6.8	5	36	2.3	9.6	0	2	0.8	1.6	5	52	7.3
9	3	8	111	8.6	65.5	7	60	1.2	8.0	0	36	1.8	11.4	0	2	0.5	2.1	5	57	7.1
9	4	7	118	5.0	70.5	6	66	3.0	11.0	3	39	2.6	14.0	0	2	0.5	2.6	0	57	3.9
9	5	7	125	3.7	74.2	9	75	3.0	14.0	7	46	1.6	15.6	0	2	0.6	3.2	5	62	4.5
9	6	7	132	7.9	82.0	7	82	0.8	14.8	6	52	2.8	18.4	1	3	0.6	3.8	5	67	2.9
10	1									0	52	2.7	21.1							
10	2									3	55	1.6	22.7							
10	3									0	55	0.5	23.2							
10	4									0	55	0.4	23.6							
10	5									0	55	0.4	24.0							
10	6									0	55	0	24.0							



(イ) フェロモントラップによる調査
 野菜主要害虫のフェロモントラップ半旬別誘殺状況 (近江八幡市安土町大中)

(頭)

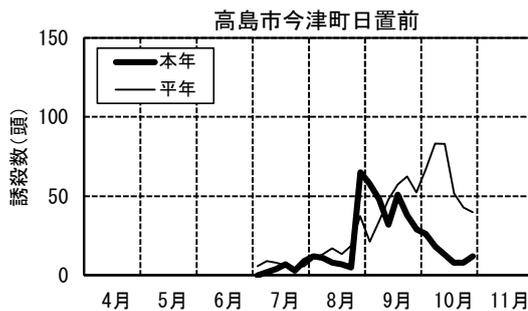
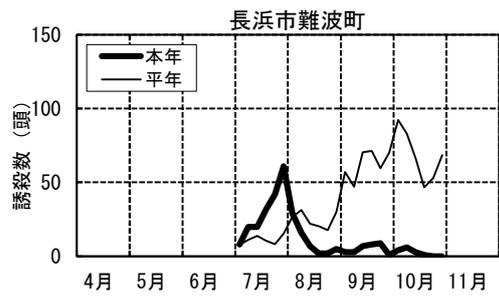
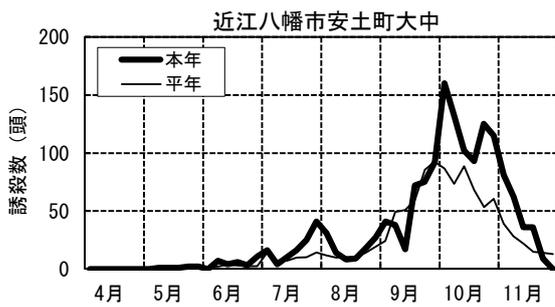
月	半旬	コナガ		カブラヤガ		タバコガ		オオタバコガ		ヨトウガ		シロイチモジヨトウ	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4	1	0	0.7	8	19.0	0	0	0	0.2	0	0.4	0	0
	2	1	0.6	23	19.6	0	0	0	0.2	0	0.5	0	0
	3	1	1.6	38	29.0	0	0.1	0	0.3	0	0.3	0	0
	4	1	1.8	67	32.1	0	0.1	0	0.3	0	0.5	0	1.0
	5	8	2.1	55	36.0	0	0.3	0	0.2	0	0.5	0	1.5
	6	8	1.6	53	43.3	0	0.3	2	0.4	0	1.0	0	1.5
5	1	10	1.8	39	38.4	0	0.1	2	1.5	1	0.8	0	2.0
	2	16	2.8	35	33.2	9	0.8	2	2.1	1	0.5	0	2.0
	3	26	11.4	32	29.3	9	2.4	2	3.1	0	0.4	0	2.0
	4	13	16.8	22	29.3	10	3.5	3	3.4	1	0.2	1	2.0
	5	2	8.1	15	22.1	9	5.2	3	3.2	1	0.1	1	3.5
	6	3	6.9	14	22.0	7	9.5	1	3.9	0	0.1	0	6.5
6	1	0	6.5	5	13.2	8	6.5	0	3.5	0	0.0	0	7.5
	2	1	4.9	4	11.0	12	4.4	2	2.9	0	0.2	0	7.0
	3	2	4.8	12	11.9	21	6.9	3	1.8	0	0.3	0	0.5
	4	1	4.2	27	24.3	12	8.9	7	4.1	0	0	0	2.5
	5	2	4.8	31	29.9	13	5.3	11	4.6	0	0.1	1	0.5
	6	4	7.3	37	27.3	14	5.2	15	10.9	0	0.1	7	0.0
7	1	0	1.4	28	21.5	5	3.7	7	12.8	0	0.1	13	7.0
	2	0	0.6	12	20.4	8	4.1	13	11.3	0	0	0	9.5
	3	0	0.6	8	28.6	23	6.4	8	12.1	0	0	17	4.5
	4	0	0.1	9	24.7	27	11.2	13	7.9	0	0	21	4.0
	5	0	0.4	9	21.0	38	12.7	24	4.8	0	0.1	27	3.0
	6	0	1.1	14	17.7	73	16.7	11	10.2	0	0.1	11	2.5
8	1	0	0.6	5	10.1	32	14.8	7	11.0	0	0.1	16	1.5
	2	0	0.3	2	7.7	15	12.2	7	13.9	0	0	39	6.5
	3	0	0.2	4	8.0	16	13.3	9	8.3	0	0	33	6.5
	4	0	0.1	3	7.1	14	17.3	19	5.6	0	0	27	16.0
	5	0	0.1	2	9.5	10	19.0	20	7.7	0	0	27	12.0
	6	0	0.2	11	15.6	17	22.8	32	18.5	0	0.2	27	10.5
9	1	0	0.1	6	11.7	3	19.2	23	23.7	0	0.1	9	6.5
	2	0	0.1	16	18.2	34	24.3	51	42.0	0	0.3	1	8.0
	3	0	0.1	27	24.5	56	26.5	49	48.6	0	0.7	5	13.3
	4	0	0.2	10	27.0	24	25.5	47	41.9	0	0.3	5	10.0
	5	0	0.2	25	29.0	24	22.8	42	34.2	0	0.3	10	15.7
	6	0	0.2	20	27.0	54	19.4	38	26.4	0	0.7	9	13.0
10	1	0	0.1	18	24.8	44	19.8	51	43.3	0	0.4	23	3.3
	2	0	0.1	14	17.2	10	14.7	45	39.7	1	0.4	37	2.3
	3	0	0.1	13	18.0	8	13.6	80	44.6	0	0.3	16	1.7
	4	0	0.1	11	14.9	12	7.5	57	52.4	0	0.3	13	2.3
	5	1	0	12	13.3	24	4.9	59	52.7	0	0.1	12	4.0
	6	1	0.2	19	15.6	21	3.8	82	63.1	0	0.0	4	2.3
11	1	1	0.3	9	10.2	16	1.0	81	47.0	0	0.2	2	1.0
	2	1	0.6	13	10.1	15	0.8	63	33.2	0	0.3	6	0.7
	3	1	0.9	11	8.7	9	0.6	29	27.7	1	0	2	0.3
	4	0	0.7	14	9.7	9	0.7	25	16.6	0	0	2	0.3
	5	0	0.8	4	8.8	2	0.4	5	8.9	0	0	0	0.7
	6	0	1.3	0	7.2	0	0.2	0	5.4	0	0	0	0.7



平年値は過去10年間（H24～R3）の平均値。ただし、シロイチモジヨトウのフェロモントラップはR1年度から設置したため、平年値はR1～R3の平均値である。

ハスモンヨトウ半旬別誘殺数（フェロモントラップ）

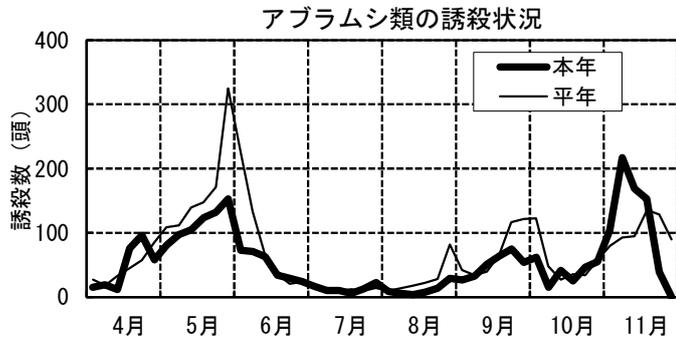
月	半旬	近江八幡市安土町大中				長浜市難波町				高島市今津町日置前			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.1	0.1								
4	2	0	0	0.1	0.2								
4	3	0	0	0	0.2								
4	4	0	0	0	0.2								
4	5	0	0	0.2	0.4								
4	6	0	0	0.2	0.6								
5	1	0	0	0.3	0.9								
5	2	1	1	0.6	1.5								
5	3	1	2	0.5	2.0								
5	4	1	3	0.5	2.5								
5	5	2	5	0.7	3.2								
5	6	2	7	0.7	3.9								
6	1	0	7	1.7	5.6								
6	2	7	14	2.0	7.6								
6	3	4	18	3.9	11.5								
6	4	6	24	3.1	14.6								
6	5	3	27	2.3	16.9								
6	6	11	38	2.4	19.3								
7	1	16	54	14.3	33.6	8	8	8.0	8.0	0	0	5.9	5.9
7	2	4	58	7.3	40.9	20	28	11.3	19.3	2	2	9.1	15.0
7	3	10	68	7.1	48.0	20	48	13.8	33.1	4	6	8.0	23.0
7	4	16	84	9.9	57.9	32	80	10.7	43.8	7	13	6.3	29.3
7	5	25	109	10.0	67.9	42	122	8.3	52.1	3	16	4.8	34.1
7	6	41	150	14.3	82.2	61	183	15.3	67.4	9	25	5.9	40.0
8	1	31	181	11.7	93.9	29	212	26.6	94.0	12	37	10.6	50.6
8	2	14	195	9.9	103.8	16	228	31.3	125.3	11	48	13.5	64.1
8	3	8	203	10.0	113.8	7	235	22.2	147.5	8	56	17.0	81.1
8	4	9	212	10.2	124.0	2	237	20.4	167.9	7	63	13.5	94.6
8	5	18	230	13.9	137.9	2	239	17.8	185.7	5	68	18.7	113.3
8	6	27	257	19.2	157.1	5	244	30.1	215.8	65	133	37.5	150.8
9	1	41	298	24.0	181.1	3	247	57.0	272.8	58	191	21	172.0
9	2	38	336	49.1	230.2	3	250	47.1	319.9	48	239	34.3	206.3
9	3	17	353	50.7	280.9	7	257	70.5	390.4	32	271	48.0	254.3
9	4	72	425	59.2	340.1	8	265	71.3	461.7	51	322	57.5	311.8
9	5	75	500	85.6	425.7	9	274	59.6	521.3	38	360	62.4	374.2
9	6	92	592	92.3	518.0	1	275	70.0	591.3	29	389	52.2	426.4
10	1	160	752	86.5	604.5	4	279	92.2	683.5	26	415	67.5	493.9
10	2	131	883	73.4	677.9	6	285	82.9	766.4	18	433	83.1	577.0
10	3	102	985	88.6	766.5	3	288	66.5	832.9	13	446	82.9	659.9
10	4	93	1078	68.0	834.5	1	289	46.6	879.5	8	454	51.8	711.7
10	5	125	1203	53.2	887.7	0	289	53.1	932.6	8	462	42.8	754.5
10	6	115	1318	60.4	948.1	0	289	68.4	1001.0	12	474	39.7	794.2
11	1	81	1399	38.9	987.0								
11	2	62	1461	28.2	1015.2								
11	3	36	1497	22.0	1037.2								
11	4	36	1533	14.9	1052.1								
11	5	9	1542	14.0	1066.1								
11	6	0	1542	12.8	1078.9								



(ウ) 黄色水盤による調査

アブラムシ類半旬別誘殺数
(近江八幡市安土町大中：フェロモントラップ)
(頭)

月	半旬	本年		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
4	1	15	15	27.2	27.2
	2	19	34	18.1	45.3
	3	12	46	32.9	78.2
	4	76	122	45.1	123.3
	5	96	218	57.6	180.9
	6	58	276	85.1	266.0
5	1	81	357	108.5	374.5
	2	97	454	111.6	486.1
	3	105	559	139.3	625.4
	4	124	683	147.8	773.2
	5	132	815	171.5	944.7
	6	153	968	325.1	1269.8
6	1	73	1041	228.2	1498.0
	2	71	1112	133.4	1631.4
	3	63	1175	65.3	1696.7
	4	34	1209	35.9	1732.6
	5	29	1238	21.0	1753.6
	6	24	1262	23.9	1777.5
7	1	17	1279	14.4	1791.9
	2	10	1289	7.5	1799.4
	3	10	1299	9.8	1809.2
	4	6	1305	12.1	1821.3
	5	13	1318	10.1	1831.4
	6	23	1341	14.5	1845.9
8	1	9	1350	10.0	1855.9
	2	6	1356	13.8	1869.7
	3	4	1360	17.5	1887.2
	4	8	1368	22.3	1909.5
	5	14	1382	27.9	1937.4
	6	29	1411	82.0	2019.4
9	1	27	1438	42.2	2061.6
	2	33	1471	34.6	2096.2
	3	51	1522	40.0	2136.2
	4	64	1586	65.6	2201.8
	5	75	1661	116.7	2318.5
	6	54	1715	121.6	2440.1
10	1	62	1777	122.7	2562.8
	2	15	1792	48.0	2610.8
	3	42	1834	27.3	2638.1
	4	25	1859	35.9	2674.0
	5	47	1906	34.3	2708.3
	6	55	1961	58.2	2766.5
11	1	104	2065	79.8	2846.3
	2	217	2282	92.6	2938.9
	3	169	2451	94.6	3033.5
	4	153	2604	135.5	3169.0
	5	39	2643	128.4	3297.4
	6	0	2643	89.8	3387.2

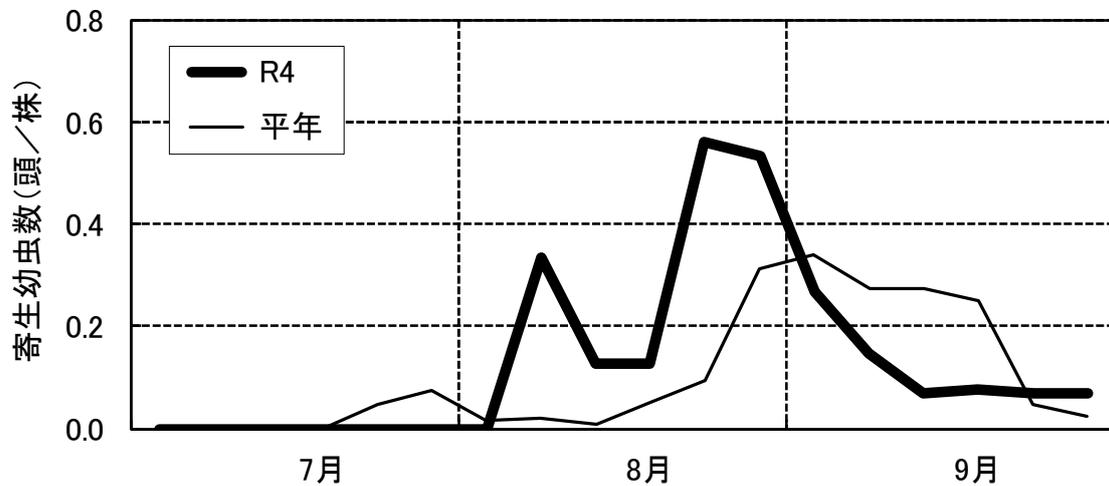


(エ) クレオメによる調査

クレオメ 1株当たりのハイマダラノメイガ寄生幼虫数 (近江八幡市安土町大中)

(頭)

月	半旬	R4		平年	
		半旬別	累積	半旬別	累積
7	1	0.00	0.00	0.00	0.00
	2	0.00	0.00	0.00	0.00
	3	0.00	0.00	0.00	0.00
	4	0.00	0.00	0.00	0.00
	5	0.00	0.00	0.05	0.05
	6	0.00	0.00	0.08	0.12
8	1	0.00	0.00	0.02	0.14
	2	0.33	0.33	0.02	0.16
	3	0.13	0.46	0.01	0.17
	4	0.13	0.59	0.05	0.22
	5	0.56	1.15	0.09	0.32
	6	0.54	1.69	0.31	0.63
9	1	0.27	1.95	0.34	0.97
	2	0.15	2.10	0.27	1.24
	3	0.07	2.17	0.27	1.52
	4	0.08	2.24	0.25	1.77
	5	0.07	2.31	0.05	1.82
	6	0.07	2.38	0.03	1.84



・平年値は10年間 (H24~R3) の平均値

ウ 発生量調査

(ア) トマト				
調査地点	病害虫名	灰色かび病	疫病	葉かび病
		発病度	発病度	発病度
		6/28	6/28	6/28
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ
		寄生株率 (%)	寄生葉率 (%)	寄生株率 (%)
		7/26	7/26	7/26
草津市	下笠町	5	5	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	10	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

(イ) ナス					
調査地点	病害虫名	うどんこ病	灰色かび病	アブラムシ類	アザミウマ類
		発病度	発病株率 (%)	1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
		6/28	6/28	7/26	7/26
草津市	下笠町	0	0	0	7.5
野洲市	小南	0	0	0	5.0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0.01	1.0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	1.0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ	オオタバコガ	ハダニ類
		被害面積率 (%)	被害果率 (%)	寄生葉率 (%)
		8/18~19	7/26	8/18~19
草津市	下笠町	0	0	10.0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

(ウ) キュウリ

調査地点	病害虫名	べと病	うどんこ病	灰色かび病	褐斑病
		発病葉率 (%)	発病葉率 (%)	発病株率 (%)	発病葉率 (%)
調査地点		7/26	6/28	6/28	6/28
草津市	下笠町	10.0	10.0	0	0
野洲市	小南	20.0	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0	0
彦根市	松原町	0	10.0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	1.0
米原市	世継	2.0	3.0	0	0
高島市今津町	深清水	0	15.0	0	0

キュウリ

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	コナジラミ類	アザミウマ類
		1葉あたり生息数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)	1葉あたり寄生頭数 (頭/葉)
調査地点		7/26	7/26	7/26
草津市	下笠町	0	5.0	0
野洲市	小南	0.5	2.5	1.0
湖南市	菩提寺	0.2	10.0	0.3
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0.01
彦根市	松原町	0	0	0.2
甲良町	下之郷	0	0	0.01
米原市	世継	0	0	0.01
高島市今津町	深清水	0.0	0	0.1

(エ) ダイコン

調査地点	病害虫名	アブラムシ類
		発生程度指数
調査地点		10/31
草津市	下笠町	0
野洲市	小南	0
湖南市	菩提寺	10.0
近江八幡市安土町	上豊浦	30.0
彦根市	松原町	0
甲良町	下之郷	5.0
米原市	世継	3.0
高島市今津町	深清水	0

ダイコン

(オ) 春キャベツ

調査地点	病害虫名	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
調査地点		5/30~6/1	5/30~6/1
草津市	下笠町	0	1.0
野洲市	小南	0	0
湖南市	菩提寺	0	2.0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	1.0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	1.0
高島市今津町	深清水	0	0

春キャベツ

(カ) 冬キャベツ

調査地点	病害虫名	黒腐病	菌核病
		発病度	発病株率 (%)
		10/31	10/31
草津市	下笠町	0	0
野洲市	小南	0	0
湖南市	菩提寺	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0
彦根市	松原町	0	0
甲良町	下之郷	0	0
米原市	世継	0	0
高島市今津町	深清水	0	0

冬キャベツ

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	ハスモンヨトウ	ヨトウガ	コナガ
		寄生株率 (%)	寄生株率 (%)	寄生株率 (%)	10株当たり幼虫・蛹数 (頭/10株)
		10/31	10/31	10/31	10/31
草津市	下笠町	0	0	0	0
野洲市	小南	10.0	0	0	0
湖南市	菩提寺	20.0	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	10.0	0	0	1.0
彦根市	松原町	0	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0	1.0
米原市	世継	0	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0	0

(キ) タマネギ

調査地点	病害虫名	白色疫病	べと病	アザミウマ類
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	1株当たり寄生虫数 (頭/株)
		4/12	4/12	5/9~10
草津市	下笠町	0	40.0	25.0
野洲市	小南	0	2.0	25.0
湖南市	菩提寺	0	2.0	41.6
近江八幡市安土町	上豊浦	0	20.0	30.0
彦根市	松原町	0	6.0	20.0
甲良町	下之郷	0	10.0	5.0
米原市	世継	0	10.0	36.7
高島市今津町	深清水	0	2.0	1.0

タマネギ

(ク) ネギ

調査地点	病害虫名	黒斑病	べと病	さび病
		被害株率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
		9/20～21	9/20～21	9/20～21
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

ネギ

調査地点	病害虫名	アブラムシ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ
		被害株率 (%)	被害葉率 (%)	被害株率 (%)	被害株率 (%)
		10/31	9/20～21	10/31	10/31
草津市	下笠町	0.4	6.0	0	0
野洲市	小南	2.0	8.3	0	0
湖南市	菩提寺	0	10.0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	2.0	0	0
彦根市	松原町	0	3.3	0	0
甲良町	下之郷	0	6.6	0	0
米原市	世継	0	2.0	0	0
高島市今津町	深清水	0	2.0	0	0

(ケ) サトイモ

調査地点	病害虫名	ハスモンヨトウ
		食害面積率 (%)
		9/20～21
草津市	下笠町	0
野洲市	小南	0
湖南市	菩提寺	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0
彦根市	松原町	0
甲良町	下之郷	0
米原市	世継	0
高島市今津町	深清水	1.0

サトイモ

発生量は、最終調査結果のみを記載

エ 初発見月日と初発見場所

(ア) ほ場

作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所	作物名	病害虫名	初発見月日	初発見場所
トマト	灰色かび病	-		キャベツ	菌核病	10/31	高島市安曇川町田中
	疫病	-			黒腐病	-	
	葉かび病	-			軟腐病	-	
	モモアカアブラムシ	5/30	高島市今津町深清水		アブラムシ類	-	
	コナジラミ類	7/26	草津市下笠町		ハスモンヨトウ	-	
	オオタバコガ	6/28	草津市下笠町		オオタバコガ	-	
	ハスモンヨトウ	-			ヨトウガ	-	
ナス	うどんこ病	-			コナガ	5/30	高島市今津町深清水
	灰色かび病	-			ハイマダラノメイガ	9/26	近江八幡市安土町上豊浦
	アブラムシ類	5/30	高島市今津町深清水		カブラヤガ	-	
	ハダニ類	5/9	米原市世継	モンシロチョウ	5/10	草津市下笠町	
	ミナミキイロアザミウマ	5/30	高島市今津町深清水	ブロッコリー	黒腐病	-	
	ハスモンヨトウ	-			ハスモンヨトウ	-	
	オオタバコガ	-			ヨトウガ	-	
ニジュウヤホシテントウ類	5/10	近江八幡市安土町上豊浦	コナガ		-		
キュウリ	べと病	5/30	高島市今津町深清水	べと病	3/1	草津市下笠町	
	うどんこ病	5/19	高島市今津町下弘部	タマネギ	白色疫病	-	
	灰色かび病	-		ネギアザミウマ	3/15	近江八幡市安土町上豊浦	
	褐斑病	-		ネギ	さび病	4/15	草津市下笠町
	アブラムシ類	5/9	彦根市松原町		黒斑病	-	
アザミウマ類	5/9	草津市下笠町	べと病		-		
コナジラミ類	7/26	草津市下笠町	ネギアブラムシ		3/1	野洲市小南	
ダイコン	ハダニ類	5/9	米原市世継	ネギアザミウマ	3/1	野洲市小南	
	アブラムシ類	9/20	湖南市菩提寺	ハスモンヨトウ	-		
				シロイチモジヨトウ	-		
				ハスモンヨトウ	9/21	高島市今津町深清水	
				サトイモ	ハダニ類	6/13	米原市世継

巡回調査において、複数種を調査対象としているものや種同定が困難なものは「～類」とした。なお、指定有害動植物は網掛けで示した。

(イ) 予察灯、フェロモントラップおよび黄色水盤

害虫名	初発見月日	初発見場所
アブラムシ類	4/5	近江八幡市安土町大中（黄色水盤）
ヨトウガ	5/8	近江八幡市安土町大中（P T）
ハスモンヨトウ	5/12	近江八幡市安土町大中（P T）
シロイチモジヨトウ	5/24	近江八幡市安土町大中（P T）
タバコガ	5/12	近江八幡市安土町大中（P T）
オオタバコガ	5/2	近江八幡市安土町大中（P T）
カブラヤガ	4/5	近江八幡市安土町大中（P T）
シロオビノメイガ	4/10	高島市今津町日置前（予察灯）
コナガ	4/3	高島市今津町日置前（予察灯）

初発見場所（ ）内記号P T：フェロモントラップ

オ 程度別発生面積と防除面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
トマト	8	灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		疫病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		葉かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	37.5	0	1	1
		コナジラミ類	0	0	0	1	1	12.5	0	1	1
		ミカンキイロアザミウマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	1	1	12.5	0	1	1
		オオタバコガ	0	0	0	2	2	25.0	0	2	4
ナス	20	うどんこ病	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		灰色かび病	0	0	0	0	0	0	0	1	2
		アブラムシ類	0	0	0	6	6	30.0	0	6	12
		アザミウマ類	0	0	1	6	7	35.0	5.0	14	28
		マメハモグリバエ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	2	2	10.0	0	5	5
		オオタバコガ	0	0	0	4	4	20.0	0	6	14
		ハダニ類	0	0	0	7	7	35.0	0	12	24
		ニジュウヤホシテントウ類	0	0	0	7	7	35.0	0	7	7
キュウリ	8	灰色かび病	0	0	0	0	2	25.0	0	2	2
		うどんこ病	0	0	0	2	0	0	0	2	2
		べと病	0	0	0	2	0	0	0	2	2
		褐斑病	0	0	0	0	2	25.0	0	1	1
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	50.0	0	5	10
		コナジラミ類	0	0	0	2	2	25.0	0	1	1
		ミカンキイロアザミウマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	0	0	1	3	4	50.0	12.5	5	5
		ハダニ類	0	0	0	3	3	37.5	0	2	2
ダイコン	54	アブラムシ類	0	0	0	10	10	18.5	0	15	25
		ハイマダラノメイガ	0	0	4	10	14	25.9	7.4	20	40
ハクサイ	85	軟腐病	0	0	0	0	0	0	0	10	10
春キャベツ	25	アブラムシ類	0	0	0	5	5	20.0	0	10	10
		ヨトウガ	0	0	0	3	3	12.0	0	10	20
		コナガ	0	0	0	3	3	12.0	0	10	20
冬キャベツ	249	黒腐病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		菌核病	0	0	0	0	0	0	0	50	50
		アブラムシ類	0	0	0	8	8	3.2	0	120	120
		ハスモンヨトウ	0	0	0	70	70	28.1	0	120	240
		ヨトウガ	0	0	0	10	10	4.0	0	120	240
		オオタバコガ	0	0	0	50	50	20.1	0	120	240
		コナガ	0	0	0	40	40	16.1	0	120	240
ブロッコリー	83	ハスモンヨトウ	0	0	0	25	25	30.1	0	50	100
		ヨトウガ	0	0	0	3	3	3.6	0	50	100
		コナガ	0	0	0	18	18	21.7	0	50	100
タマネギ	79	白色疫病	0	0	0	0	0	0	0	60	180
		べと病	0	0	5	45	2	2.5	6.3	60	180
		アザミウマ類	0	0	0	35	35	44.3	0	45	45
ネギ	106	黒斑病	0	0	0	0	0	0	0	40	60
		べと病	0	0	0	5	3	2.8	0	40	60
		さび病	0	0	0	3	50	47.2	0	40	60
		アブラムシ類	0	0	0	4	4	3.8	0	30	40
		ネギアザミウマ	0	0	0	40	40	37.7	0	70	140
		ハスモンヨトウ	0	0	0	15	15	14.2	0	20	20
		シロイチモジヨトウ	0	0	0	0	0	0	20	20	
サトイモ	21	ハスモンヨトウ	0	0	0	5	5	23.8	0	5	5

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

6 果樹等作物病害虫発生予察事業

ナシなどの主要果樹、チャおよび花き（キク）について、主要病害虫を対象とした重点調査の結果に基づき、病害虫発生予報を10回、発生予察情報として注意報1回（果樹カメムシ類1回）、防除情報を1回（チャノホソガ1回）発表した。

（1）果樹

ア 生育概況

（ア）ナシ

3月下旬まで気温は平年より低く、3月中旬には平年より高く推移したものの、3月下旬から4月下旬は平年並みに推移した。このため、展葉期および開花盛期は、平年並となった。

開花期は、降雨が少なく温暖な日が続いたため、受精・結実は良好であった。

5月以降気温は平年並みに推移したが、6月下旬から7月上旬にかけて猛暑日が連続したことから、ハダニ類が急増した。しかし、防除の実施により葉焼け等の被害は軽微であった。7月中旬以降、気温は平年より高く推移し、降水量がやや多かった。その結果、収穫時期は平年並で果実肥大も平年並であった。

（イ）ブドウ

3月下旬まで気温は平年より低く、3月中旬には平年より高く推移したものの、3月下旬から4月下旬は平年並みに推移した。このため、展葉期および開花盛期は、平年並となった。

5月以降気温は平年並みに推移したが、6月下旬から7月上旬にかけて猛暑日が連続したことから、果粒の日焼けが多発した。

8月の気温が平年より高く推移したことから着色が遅くなり、一部着色不良がみられ、収穫期は平年より遅くなった。

（ウ）カキ

3月下旬まで気温は平年より低く、3月中旬には平年より高く推移したものの、3月下旬から4月下旬は平年並みに推移した。このため、展葉期および開花盛期は、平年並となった。

9月から10月上旬の気温が平年より高かったことから、着色期が遅れ、収穫期が平年よりやや遅くなった。

果樹カメムシ類の発生量が多かったことから被害果も多く、減収となった。

イ 発生状況

(ア) ナシ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ナシ	黒星病	平年並	平年並	期間を通じて発生量は平年並であった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並であった。黒星病に対するナシの感受性が高まる開花期前後の降水量が平年並、6月下旬が少なかったが、7月からは降水量が多く、感染に好適な条件が続いた。しかし、適期防除の実施により発生量は平年並となった。	開花期から梅雨明けまでの薬剤防除。秋季防除の徹底、落葉、被害果の園外処分。
	うどんこ病	やや遅	やや少	発生時期は9月下旬と、やや遅く、発生量は、やや少なかった。	7～9月の気温が高く推移し、発病が抑制され、発生時期が、やや遅く、発生量が、やや少なくなった。	薬剤による黒星病との防除。落葉の処分。
	ナシヒメシクイ	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並であった。フェロモントラップでの累積誘殺数は、やや多かったが、適期防除と交信攪乱剤の設置により被害果の発生量は平年並となった。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
	モモシクイガ	並	少	期間を通じて発生が認められず、発生量は少なかった。	適期防除の実施により被害果は認められなかった。	発生に応じた薬剤防除。被害果の処分。交信攪乱剤の設置。
	チャノコカクモンハマキ	並	並	期間を通じて発生量は平年並であった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並で、フェロモントラップでの誘殺数は期間を通じて平年並であった。また、被害果率も平年並であった。	薬剤および交信攪乱剤の設置によるシクイムシ類などの同時防除。
	チャハマキ	並	並	期間を通じて発生量は平年並であった。	ナシの生育が平年並であったことから発生時期は平年並で、フェロモントラップでの誘殺数は期間を通じて平年並であった。また、被害果率も平年並であった。	薬剤および交信攪乱剤の設置によるシクイムシ類などの同時防除。
	チャバネアオカメムシ	早	多	4月から発生が認められ、6月第5半旬に発生量が急増し、その後は期間を通じて発生量が多かった。	越冬成虫量が平年並であったことから、フェロモントラップでの誘殺時期が早く、誘殺数が6月第5半旬に急増した。その後はスギ、ヒノキ産果が少なかったことから、発生量は多く推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	ツヤアオカメムシ	早	並	発生時期は早く、発生量は期間を通じて平年並であった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、累積誘殺数は平年並であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	クサギカメムシ	早	やや多	発生時期は早く、発生量は期間を通じて、やや多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、累積誘殺数は、やや多かった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	アブラムシ類	並	やや少	期間を通じて発生量は、やや少なかった。	開花期以降寄生新梢率が、やや低く、適期防除により発生量は、やや少く推移した。	展葉期、新梢新梢期に発生に応じた薬剤防除。
	ハダニ類	早	多	6月下旬に発生量が急増し、多発となった。その後は少なく推移した。	6月下旬が高湿寡雨に推移したことから、発生時期が早く、急増した。7月以降は適期防除と降水量が多く、特に7月19日の豪雨でハダニ類が洗い流されたことから寄生頭数が激減し、9月末まで発生量は少なく推移した。	発生初期の薬剤防除。薬剤のローテーション散布。

(イ) ブドウ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
ブドウ	うどんこ病	並	並	期間を通じて発生量は平年並であった。	7月に降雨日数が多く、高温多湿に推移したが、適期防除の実施により発生量は平年並となった。	初発時の薬剤防除。発病果の摘粒。
	べと病	並	並	8月までの発生量は、やや少なかったが、発生時期は平年並であった。9月以降発生量は平年並に推移した。	7、8月の気温が高く推移したことから8月までの発生量は、やや少なかった。しかし、9月の降雨日数が多かったことから9月以降発生が増加し、発生量は平年並となった。	雨除け被覆。初発時の薬剤防除。落葉の園外処分。
	灰色かび病	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	5月下旬の降水量が少なく、開花前の発生花穂率は低かった。また、6月の降水量が少なかったことから発生量は平年並となった。	花かす落としの励行。開花前と落花直後の薬剤防除。発病果の摘粒。新梢管理による過繁茂防止。
	晩腐病	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	8月の降水量が平年並であったことから発生時期は平年並、適期防除の実施により発生量は平年並となった。	巻き上げ除去。発芽前、幼果期の薬剤防除。雨よけ被覆。袋かけの実施。発病果の摘粒。
	カイガラムシ類	並	並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	ブドウの生育が平年並であったことから発生時期は平年並、適期防除の実施により発生量は平年並となった。	薬剤防除。粗皮削り。
	チャバネアオカメムシ	早	多	4月から発生が認められ、6月第5半旬に発生量が急増し、その後は期間を通じて発生量が多かった。	越冬成虫量が平年並であったことから、フェロモントラップでの誘殺時期が早く、誘殺数が6月第5半旬に急増した。その後はスギ、ヒノキ産果が少なかったことから、発生量は多く推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	ツヤアオカメムシ	早	並	発生時期は早く、発生量は期間を通じて平年並であった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、累積誘殺数は平年並であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	クサギカメムシ	早	やや多	発生時期は早く、発生量は期間を通じて、やや多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、累積誘殺数は、やや多かった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	チャノキイロアザミウマ	並	並	期間を通じて発生量は平年並であった。	6月上中旬は寡雨に推移したが、幼果期における適期防除の実施により発生量は平年並となった。	幼果期の薬剤防除。粗皮削り。袋かけ。

(ウ) カキ

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
カキ	うどんこ病	平年並	平年並	発生量は8月中旬まで、やや少なく推移し、以後平年並であった。	8月中旬まで高温に推移し、発生が抑制されたが、8月下旬に気温が平年より低く推移し、平年並の発生量となった。	初発時の防除。落葉病、炭疽病との同時防除。落葉の園外処分。
	落葉病	平年並	平年並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	7月上旬の降雨日数が多かったが、適期防除の実施により平年並の発生量となった。	感染期の薬剤防除。落葉の園外処分。
	炭疽病	平年並	平年並	8月まで新梢、果実における発生量は、やや少なかったが、9月以降果実での発生量は平年並に推移した。	6月の降水量が少なかったことから新梢での発生量が、やや少なく、8月まで果実の発生量は、やや少なくて推移した。9月以降は適度な降雨と台風の接近により果実での発生量が平年並となった。	新梢の過繁茂防止。発病枝や発病果の除去。薬剤防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年並	平年並	6月上中旬は寡雨に推移したが、発生量は平年並であった。	6月上中旬は寡雨に推移したが、幼果期の適期防除の実施により発生量は平年並となった。	開花期および幼果期の薬剤防除。粗皮削り。
	カキクダアザミウマ	やや早	平年並	発生時期は、やや早く、発生量は平年並であった。	被害葉の発生時期は、やや早かったが、適期防除の実施により発生量は平年並となった。	軽微な被害葉が見え始めた頃の薬剤による防除。被害葉の処分。粗皮削り。
	カキノヘタムシガ	平年並	平年並	期間を通じて発生量は平年並であった。	カキの生育は平年並であったことから発生時は平年並であった。成虫の発生量は平年並で、適期防除の実施により被害果率は平年並となった。	満開10日後および成虫発生盛期の薬剤防除。粗皮削り。
	フジコナカイガラムシ	平年並	平年並	発生時期は平年並、発生量は平年並であった。	カキの生育が平年並であったことから発生時は平年並、適期防除の実施に利発生量は平年並となった。	薬剤防除。粗皮削り。
	チャバネアオカメムシ	早	多	4月から発生が認められ、6月第5半旬に発生量が急増し、その後は期間を通じて発生量が多かった。9月以降被害果は多くなった。	越冬成虫量が平年並であったことから、フェロモントラップでの誘殺時期が早く、誘殺数が6月第5半旬に急増した。その後はスギ、ヒノキ毬果が少なかったことから、発生量は多く推移した。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	ツヤアオカメムシ	早	平年並	発生時期は早く、発生量は期間を通じて平年並であった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、累積誘殺数は平年並であった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	クサギカメムシ	早	やや多	発生時期は早く、発生量は期間を通じて、やや多かった。	フェロモントラップでの誘殺時期は早く、累積誘殺数は、やや多かった。	ネット被覆および発生に応じた薬剤防除。7月4日に注意報を発表した。
	チャノココクモンハマキ	平年並	平年並	期間を通じて発生量は平年並であった。	カキの生育が平年並であったことから発生時期は平年並で、フェロモントラップでの誘殺数は期間を通じて平年並であった。また、被害果率も平年並であった。	アザミウマ類、カキノヘタムシガとの同時防除。
	チャハマキ	平年並	平年並	期間を通じて発生量は平年並であった。	カキの生育が平年並であったことから発生時期は平年並で、フェロモントラップでの誘殺数は期間を通じて平年並であった。また、被害果率も平年並であった。	アザミウマ類、カキノヘタムシガとの同時防除。

ウ 予察灯、フェロモントラップおよびほ場における調査

(ア) 予察灯による調査

カメムシ類半旬別誘殺状況 (栗東市荒張、100W高圧水銀灯) (頭)

月	半旬	チャバネアオカメムシ				ツヤアオカメムシ				クサギカメムシ			
		本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積	本年	累積	平年	累積
4	1	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	2	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	3	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	4	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	5	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
	6	0	0	0.1	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0
5	1	0	0	3.4	4	0	0	2.2	2	0	0	0.0	0
	2	7	7	2.4	6	0	0	2.1	4	0	0	0.1	0
	3	6	13	10.7	17	6	6	4.6	9	0	0	0.0	0
	4	2	15	53.7	70	0	6	8.2	17	0	0	0.9	1
	5	26	41	34.4	105	14	20	19.0	36	1	1	0.3	1
	6	27	68	14.7	120	7	27	13.9	50	1	2	1.0	2
6	1	12	80	29.6	149	0	27	30.6	81	2	4	1.3	4
	2	4	84	14.8	164	4	31	50.9	131	0	4	2.8	6
	3	18	102	12.3	176	27	58	33.8	165	5	9	0.9	7
	4	72	174	21.8	198	122	180	133.9	299	17	26	1.9	9
	5	202	376	42.0	240	273	453	110.6	410	19	45	4.3	14
	6	173	549	116.7	357	254	707	148.3	558	47	92	9.3	23
7	1	118	667	194.7	551	189	896	101.7	660	57	149	9.3	32
	2	343	1010	137.7	689	174	1070	59.7	719	56	205	9.0	41
	3	439	1449	144.1	833	65	1135	60.9	780	33	238	15.0	56
	4	907	2356	193.2	1026	100	1235	83.3	864	30	268	26.7	83
	5	409	2765	122.8	1149	92	1327	60.6	924	37	305	23.3	106
	6	849	3614	261.3	1410	207	1534	66.3	990	160	465	38.7	145
8	1	313	3927	281.1	1692	60	1594	77.7	1068	73	538	48.7	194
	2	503	4430	171.7	1863	55	1649	114.6	1183	109	647	33.1	227
	3	392	4822	154.0	2017	33	1682	227.8	1411	81	728	31.6	258
	4	261	5083	173.1	2190	24	1706	112.9	1523	58	786	39.6	298
	5	65	5148	128.9	2319	18	1724	41.6	1565	23	809	27.3	325
	6	145	5293	178.9	2498	25	1749	79.9	1645	15	824	26.6	352
9	1	132	5425	125.3	2623	34	1783	51.9	1697	11	835	8.6	360
	2	107	5532	145.4	2769	23	1806	71.4	1768	7	842	4.7	365
	3	86	5618	92.4	2861	41	1847	81.4	1850	8	850	3.2	368
	4	11	5629	150.0	3011	18	1865	121.9	1972	0	850	1.2	369
	5	19	5648	84.4	3096	12	1877	115.7	2087	0	850	2.3	372
	6	18	5666	260.0	3356	10	1887	388.4	2476	0	850	3.2	375
10	1	16	5682	85.8	3441	10	1897	251.5	2727	0	850	2.1	377
	2	0	5682	44.4	3486	1	1898	194.9	2922	0	850	2.8	380
	3	2	5684	39.2	3525	3	1901	203.5	3126	0	850	1.6	381
	4	86	5770	11.6	3537	28	1929	101.4	3227	0	850	0.4	382
	5	0	5770	3.8	3540	0	1929	36.3	3263	0	850	0.0	382
	6	0	5770	1.0	3541	0	1929	11.5	3275	0	850	0.1	382

※平年値はH24～R3の10年間の平均値。

(イ) フェロモントラップによる調査

フェロモントラップ半旬別誘殺状況 (栗東市荒張)

(頭)

月	半旬	果樹カメムシ類						ナシヒメシンクイ		チャハマキ		チャノコカクモンハマキ	
		チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ		本年	平年	本年	平年	本年	平年
		本年	平年	本年	平年	本年	平年						
4	1	0	0.1	0	0	0	0	0	0.4	0	1.0	0	0.0
	2	4	0.3	0	0	2	0	5	0.5	0	0.4	0	0.2
	3	7	0	0	0	0	0	2	0.3	1	0.7	0	0.4
	4	0	0.6	0	0	0	0	0	1.0	0	0.3	0	1.0
	5	1	3.8	1	0.1	0	0	5	1.2	2	1.0	9	1.5
	6	4	3.5	2	0	0	0.2	1	2.2	0	1.1	1	1.7
5	1	33	22.9	0	1.5	0	0.4	2	0.9	0	1.8	2	2.5
	2	52	19.8	5	3.0	0	0	1	0.6	0	2.2	3	4.2
	3	8	42.6	5	7.7	1	0.3	1	0.1	0	2.0	4	7.0
	4	8	83.9	3	5.1	0	1.4	0	0.1	0	2.3	2	3.4
	5	12	38.4	4	13.2	0	1.3	0	0.0	0	0.6	4	1.9
	6	64	54.7	5	22.0	8	2.2	1	0.0	0	0.5	0	1.6
6	1	38	105.2	2	29.1	2	5.1	0	0.1	1	1.2	0	0.2
	2	4	30.6	1	6.5	1	1.7	0	0.2	0	0.9	1	0.4
	3	22	30.8	0	0.2	0	0.7	1	0.0	0	0.4	1	1.4
	4	98	56.3	2	1.2	0	0.4	0	0.3	0	0.3	0	1.2
	5	707	101.1	2	1.3	4	0.8	2	0.0	0	0.7	4	1.9
	6	1216	308.4	3	1.9	4	1.3	1	0.3	2	0.8	4	2.7
7	1	1037	375.5	3	2.8	3	1.0	0	0.1	0	1.1	1	6.4
	2	535	316.8	4	1.7	4	2.2	0	0.4	1	1.3	2	3.7
	3	2,961	446.5	5	1.1	7	3.1	2	0.4	2	2.2	0	2.5
	4	1,342	474.4	3	1.2	4	3.2	2	0.9	0	1.5	0	0.7
	5	1,070	362.7	1	2.1	2	1.5	2	0.8	0	0.8	0	0.8
	6	2,523	386.1	1	1.3	5	0.6	3	0.3	1	1.2	4	1.8
8	1	935	410.4	7	3.5	2	0.6	1	0.7	2	2.1	5	4.8
	2	915	162.5	3	5.3	0	0.3	1	0.6	2	1.4	5	3.0
	3	516	155.0	2	6.2	0	0.8	1	0.6	0	0.1	3	4.1
	4	367	129.9	2	2.2	0	0.8	2	0.5	2	0.6	3	3.1
	5	146	55.4	1	1.7	0	0.2	0	0.2	2	0.4	2	1.2
	6	214	43.5	0	2.8	0	0.1	1	0.4	1	1.4	3	0.9
9	1	185	22.9	1	4.1	0	0	2	0.9	1	1.5	2	2.5
	2	81	24.5	11	7.9	0	0	5	1.0	1	5.7	1	1.3
	3	38	6.1	4	1.8	0	0	2	0.7	2	3.0	3	3.7
	4	8	7.9	5	4.0	0	0	2	0.3	1	1.7	10	6.0
	5	2	18.7	4	17.4	0	0.1	2	0.0	1	2.0	13	6.0
	6	1	17.9	3	26.8	0	0.3	1	0.0	1	0	12	15.0
10	1	6	16.9	0	20.5	0	0.4	-	-	-	-	-	-
	2	0	9.6	0	42.8	0	0.3	-	-	-	-	-	-
	3	0	22.6	0	54.6	0	0.7	-	-	-	-	-	-
	4	0	8.1	2	49.9	0	0.3	-	-	-	-	-	-
	5	1	2.6	12	32.7	0	0.4	-	-	-	-	-	-
	6	0	1.6	1	8.3	0	0.3	-	-	-	-	-	-

※平年値はH24～R3の10年間の平均値。ナシヒメシンクイ、チャハマキ、チャノコカクモンハマキの調査期間は4月～9月。

(ウ) 現地ほ場における発生調査

a ナシ

月	黒星病 (発病果率%)				アブラムシ類 (寄生新梢率%)				ハダニ類 (寄生葉率%)			
	東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺		東近江市 下中野		彦根市 石寺	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0
6	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	1.3	1.1	1.7	0.0	2.5	0.1	0.2
7	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	3.5	1.2	1.4
8	0.0	5.4	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	1.4	0.0	0.7

※平年値：H24～R3の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

b ブドウ

月	べと病 (葉の発病度)				灰色かび病 (発病房率%)				晩腐病 (発病房率%)				チャノキイロアザミウマ (果房の被害度)			
	東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘		東近江市 鯉江		長浜市 今荘	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	0.1	0.2	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.2	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
7	2.3	2.6	0.0	4.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	0.1	0.0	0.2
8	11.3	6.3	0.3	10.1	-	-	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H24～R3の10年間の平均値。

※本年の「-」は調査期間外または未調査。平年の「-」はデータ数が少ないため未記入とした。

c カキ

月	炭疽病 (発病果率%)				カキクダアザミウマ (被害度)				カキノヘタムシガ (10葉あたり成虫数)				フジコナカイガラムシ (寄生新梢率%)			
	東近江市 鯉江町		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張		米原市 杉沢		栗東市 荒張	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
5	-	-	-	-	0.7	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-
6	-	-	-	-	0.0	0.2	0.0	0.3	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
7	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0
8	0.0	0.5	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	0.5	0.0	0.0
9	0.0	1.6	5.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平年値：H24～R3の10年間の平均値。

※「-」は調査期間外または未調査。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積(ha)					発生面積 率(%)	被害面積 率(%)	防除面積(ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
ナシ	46	黒星病	0	0	3	11	14	30.4	6.5	* 46	* 414
		うどんこ病	0	0	0	1	1	2.2	0.0	* 46	* 46
		ナシヒメシンクイ	0	0	3	3	6	13.0	6.5	* 46	* 276
		モモシンクイガ	0	0	0	0	0	0.0	0.0	* 46	* 92
		チャノコカクモンハマキ	0	0	1	6	7	15.2	2.2	* 46	* 92
		チャハマキ	0	0	1	6	7	15.2	2.2	* 46	* 92
		ナミハダニ	0	1	5	8	14	30.4	13.0	* 46	* 92
		カンザワハダニ	0	1	5	8	14	30.4	13.0	* 46	* 92
		クサギカメムシ	0	0	6	8	14	30.4	13.0	* 46	* 92
		チャバネアオカメムシ	0	2	7	6	15	32.6	19.6	* 46	* 92
		ツヤアオカメムシ	0	0	4	8	12	26.1	8.7	* 46	* 92
アブラムシ類	0	0	2	13	15	32.6	4.3	* 46	* 138		
ブドウ	52	晩腐病	0	0	1	8	9	17.3	1.9	* 52	* 104
		うどんこ病	0	0	0	2	2	3.8	0.0	* 52	* 104
		べと病	0	3	6	11	20	38.5	17.3	* 52	* 156
		灰色かび病	0	1	1	8	10	18.7	3.8	* 52	* 104
		チャノキイロアザミウマ	0	0	2	7	9	17.3	3.8	* 52	* 104
		クワコナカイガラムシ	0	0	1	3	4	7.7	1.9	* 52	* 52
カキ	153	炭そ病	0	0	4	20	24	15.7	2.6	* 34	* 68
		うどんこ病	0	0	1	10	11	7.2	0.7	* 34	* 68
		落葉病類	0	0	1	22	23	15.0	0.7	* 34	* 102
		カキノヘタムシガ	0	0	3	17	20	13.1	2.0	* 34	* 136
		フジコナカイガラムシ	0	0	1	4	5	3.3	0.7	* 34	* 68
		クサギカメムシ	0	2	6	20	28	18.3	5.2	* 34	* 34
		チャバネアオカメムシ	1	10	13	35	59	38.6	15.7	* 34	* 34
		ツヤアオカメムシ	0	2	8	16	26	17.0	6.5	* 34	* 34
		チャハマキ	0	0	1	3	4	2.6	0.7	* 34	* 34
		チャノコカクモンハマキ	0	0	0	4	4	2.6	0.0	* 34	* 34
		チャノキイロアザミウマ	0	0	1	6	7	4.6	0.7	* 34	* 34
カキクダアザミウマ	0	0	1	2	3	2.0	0.7	* 34	* 34		

※防除面積の「*」は同時防除含む。

※被害面積率= (程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積)

(2) チャ

ア 生育状況

1月上旬から3月上旬頃まで平年に比べ並み～低く推移したことから、茶業指導所内の作況園での一番茶萌芽期は、前5か年平均より2日遅い4月8日となった。しかし、4月中下旬に気温が平年よりかなり高かったことから新芽の生育は早く進み、摘採日は前5か年平均より2日早い5月6日となった。収量は、前5か年平均並となった。

その後、二番茶芽生育期間中の平均気温が平年並～かなり高く推移したが、6月中旬に降水量が極端に少なかったことから二番茶芽の生育が抑制され、二番茶摘採日は前5か年平均より3日遅い6月30日となった。収量は新芽数が多かったことから、前5か年平均より多かった。

二番茶摘採後は、8月下旬に少雨の影響で干ばつの傾向がみられ、三番茶芽の生育が一時的に抑制された。それ以外の降水量は平年並～かなり多く推移し、三番茶芽および秋芽の生育は順調であった。

イ 発生状況

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
炭疽病	平年並	やや多	7月中旬頃から発生が認められ、その後の発生量は、平年並～多で推移した。全般的に発生量はやや多かった。	感染源となる前年の発生量はやや多く、7月中旬、8月上～中旬の降水量が多かったことから、7月中旬以降に徐々に発生量が増加した。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
もち病	平年並	平年並	期間を通して発生量は平年並であった。	感染源となる前年の発生量は平年並みで、期間を通して気温が高かったことから、発生はほとんど認められず、発生量は平年並となった。	常発地では薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈り等による耕種的防除が実施された。
輪斑病	平年並	平年並	期間を通じて発生量は平年並であった。	感染源となる前年の新梢枯死症の発生量はやや少なかったが、感染が増加する7月の気温が高かったことから、7～8月の発生量は平年並で推移した。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
新梢枯死症	平年並	平年並	9月に発生が確認され、期間を通して発生量は平年並であった。	感染源となる輪斑病の発生量が平年並であり、新梢枯死症の発生量も平年並となった。9月に入ると8月上～中旬の降雨の影響で発生が認められた。	発生園では、治療剤散布による防除が実施された。
チャノコカクモンハマキ	やや早	やや多	発生時期は、越冬世代で平年並、第1世代～第3世代でやや早かった。発生量は越冬世代でやや少なかったが、以降は徐々に増加し、第1世代～第3世代では平年並～多で推移した。	年間を通して気温が高かったことから、第1世代以降の発生量が増加し、発生時期もやや早く推移した。	薬剤による防除が適宜行われたほか、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
チャハマキ	やや早	少	期間を通じて発生量は少なかった。	チャノコカクモンハマキの発生によって防除が適宜行われたことから、発生量は少なく推移した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除が実施された。
チャノホソガ	やや早	やや多	発生量は、越冬世代～第2世代は多く、第3世代～第4世代で平年並であった。発生時期は、越冬世代は早く、第1世代～第3世代で平年並～やや早かった。	期間を通して気温が高かったため、発生時期は、平年並～早で推移した。また、3月～4月にかけて気温が高かったため、越冬世代幼虫の発育が進み、発生時期が早く、発生量も増加した。その後は薬剤防除の効果により発生量は徐々に減少した。	第2世代成虫の累積誘殺数が多かったため、6月7日に防除情報を発表した。その後、薬剤による防除が実施された。
チャノミドリヒメヨコバイ	やや早	平年並	7月上旬の発生量は平年より多かったが、その他の時期は平年並から低く推移した。	6月下旬～7月上旬に気温が高い日が多かったことから、7月上旬の発生量は増加した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
カンザワハダニ	平年並	やや少	越冬世代の発生量は平年並であったが、6月以降は発生量が減少し、平年並～少で推移した。	越冬ダニの発生量が平年並であったが、4月下旬、6月上旬の降水量が多かったことから、6月以降の発生量は減少した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
チャノキイロアザミウマ	平年並	やや少	期間を通じて発生量は少～やや少で推移した。	7月～8月の降水量が多かったことから、発生量は少～やや少で推移した。	発生に応じて適宜防除が実施された。
ツマグロアオカスミカメ	平年並	平年並	発生時期、発生量は平年並であった。	一番茶の萌芽期が平年並であったことから、発生時期は平年並であった。	一番茶の萌芽期～開葉期に薬剤防除が実施された。
クワシロカイガラムシ	やや早	平年並	発生量は、越冬世代、第1世代で平年並、第2世代以降でやや少なかった。発生時期は期間を通してやや早かった。	期間を通して気温が高かったことから、第1・2世代の幼虫ふ化最盛期はやや早かった。また、前年越冬世代の発生量は平年並みであったことから、第1世代までの発生量は平年並で推移した。第2世代以降の発生量は、通期防除の実施と7～9月の降雨の影響によりやや少なくなった。	発生園では主に第2世代幼虫ふ化期に薬剤防除が実施された。
チャトゲコナジラミ	やや遅	少	発生時期は、越冬世代～第1世代で平年並、第2世代で遅かった。期間を通じ発生量は少なかった。	前年の発生量がやや少なかったことから、本年も期間を通じて発生量が少なかった。	発生園では、防除適期である若齢幼虫期に薬剤防除が実施された。また、二番茶摘採後の浅刈りによる耕種的防除が実施された。

ウ 予察灯・フェロモントラップ・ほ場における調査

(ア) 予察灯（水盤）・フェロモントラップにおける調査

チャノコカクモンハマキ・チャハマキ・チャノホソガ 半旬別誘殺状況（甲賀市水口町）
（頭）

月	半旬	チャノコカクモンハマキ						チャハマキ						チャノホソガ			
		予察灯			フェロモン トラップ			予察灯			フェロモン トラップ			予察灯		フェロモン トラップ	
		本年			平年	本年	平年	本年			平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
		♀	♂	計				♀	♂	計							
4	1	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	2	100	182
	2	0	0	0	0	4	37	0	0	0	0	0	0	17	0	1419	83
	3	0	0	0	0	5	60	0	0	0	0	2	2	250	2	2571	91
	4	0	0	0	2	20	229	0	0	0	0	1	6	2	12	211	203
	5	3	5	8	10	111	302	0	0	0	1	3	9	42	2	360	93
	6	0	1	1	73	110	461	0	0	0	1	5	10	1	5	61	35
5	1	2	19	21	69	269	359	0	0	0	1	4	8	5	2	15	24
	2	1	28	29	59	152	1029	0	0	0	1	16	8	0	1	28	11
	3	0	2	2	28	33	298	0	0	0	1	5	6	0	0	14	6
	4	0	0	0	16	11	124	0	0	0	1	1	8	0	0	7	2
	5	0	0	0	7	3	49	0	0	0	1	1	12	4	0	10	42
	6	0	0	0	4	0	11	0	0	0	2	4	13	33	16	1083	610
6	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	2	8	152	35	3895	1162
	2	0	0	0	2	0	15	0	0	0	1	1	3	278	53	7197	2289
	3	1	0	1	73	5	128	0	0	0	0	0	4	24	27	5138	1600
	4	0	3	3	37	19	148	0	0	0	0	0	5	4	6	2229	661
	5	0	4	4	65	22	263	0	0	0	1	0	5	2	2	632	312
	6	1	4	5	51	26	268	0	0	0	1	4	5	0	3	318	161
7	1	0	0	0	30	4	187	0	0	0	0	1	6	6	2	980	267
	2	0	1	1	30	3	82	0	0	0	0	0	6	79	7	2081	736
	3	0	0	0	5	0	24	0	0	0	1	1	7	12	17	799	1091
	4	0	0	0	3	1	15	0	1	1	1	0	11	0	28	343	985
	5	0	0	0	4	15	34	0	0	0	1	1	5	0	4	178	551
	6	0	7	7	24	73	40	0	0	0	1	6	6	0	3	124	400
8	1	0	4	4	29	57	60	0	0	0	0	1	3	2	2	131	284
	2	1	6	7	21	44	33	0	0	0	0	3	3	4	8	472	718
	3	0	6	6	15	11	26	0	0	0	0	0	2	10	10	679	873
	4	0	2	2	20	7	15	0	0	0	0	0	2	4	6	282	938
	5	0	0	0	10	5	8	0	0	0	0	0	2	0	6	133	487
	6	0	0	0	5	17	20	0	0	0	0	6	2	0	2	141	380
9	1	0	1	1	3	48	39	0	0	0	0	0	2	6	1	168	277
	2	1	11	12	13	51	50	0	0	0	0	2	3	11	1	561	528
	3	1	31	32	28	133	81	0	0	0	0	2	4	110	1	800	666
	4	0	0	0	36	145	108	0	0	0	0	4	4	3	4	406	896
	5	0	0	0	70	159	134	0	0	0	0	1	4	1	4	161	644
	6	0	4	4	95	13	101	0	0	0	0	3	4	0	3	28	451
10	1	0	0	0	9	7	58	0	0	0	1	3	5	1	1	13	311
	2	0	0	0	5	35	50	0	0	0	1	4	8	0	2	18	274
	3	0	0	0	1	59	22	0	0	0	1	16	8	5	2	80	149
	4	0	2	2	5	30	24	0	0	0	1	7	11	23	1	200	142
	5	0	0	0	1	110	10	0	0	0	1	5	9	6	1	499	108
	6	0	0	0	0	79	9	0	0	0	1	4	10	32	1	580	109
11	1	0	0	0	0	18	8	0	0	0	1	15	5	13	0	1262	70
	2	0	1	1	1	73	6	0	0	0	0	1	4	2	0	571	81
	3	0	0	0	0	150	7	0	0	0	0	3	2	3	0	990	49
	4	0	5	5	0	133	6	0	0	0	0	1	1	9	0	550	59
	5	0	1	1	0	57	8	0	0	0	0	8	0	7	0	690	38
	6	0	8	8	0	85	1	0	0	0	0	9	0	23	0	912	33

※ 平年値は2012～2021年の10年間の平均値。

チャノココクモンハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	4月22日	4月17日	6月14日	6月12日	7月27日	7月25日	9月5日	9月8日
最盛日（月日）	5月4日	5月6日	6月20日	6月24日	7月28日	8月6日	9月14日	9月28日
最盛半旬（月-半旬）	5-2	5-1	6-6	6-5	7-6	8-1	9-3	9-6
50%誘殺日（月日）	5月6日	5月6日	6月24日	6月25日	8月7日	8月7日	9月14日	9月26日
終息日（月日）	5月15日	5月28日	7月6日	7月13日	8月20日	8月24日	11月28日	10月29日
誘殺日数（日）	12	24	11	22	16	22	18	21
誘殺数（頭）	61	268	14	295	26	130	66	269
性比（♂ / ♀）	7.71	14.10	6.00	12.67	25.00	9.45	32.00	7.82

※ 平年値は2012～2021年の10年間の平均値。

チャハマキ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
初飛来日（月日）	-	4月27日	7月20日	7月1日	-	8月19日	-	9月29日
最盛日（月日）	-	5月15日	7月20日	7月10日	-	8月24日	-	10月14日
最盛半旬（月-半旬）	-	5-3	7-4	7-1	-	8-5	-	10-4
50%誘殺日（月日）	-	5月13日	7月20日	7月11日	-	8月24日	-	10月14日
終息日（月日）	-	5月29日	7月20日	7月17日	-	8月25日	-	10月26日
誘殺日数（日）	-	10	1	4	-	2	-	7
誘殺数（頭）	-	13	1	6	-	2	-	8
性比（♂ / ♀）	-	4.94	-	4.67	-	2.00	-	3.83

※ 平年値は2012～2021年の10年間の平均値。

※ 「-」は誘殺数が0「ゼロ」であったことによる。

チャノホソガ発生型一覧表（甲賀市水口町）

	越冬世代成虫		第1世代成虫		第2世代成虫		第3世代成虫		第4世代成虫		第5世代成虫	
	本年	平年										
初飛来日（月日）	4月10日	4月10日	5月23日	5月29日	7月1日	7月4日	8月5日	8月8日	9月1日	9月8日	10月14日	10月10日
最盛日（月日）	4月11日	4月23日	6月7日	6月7日	7月6日	7月14日	8月12日	8月16日	9月13日	9月14日	10月31日	10月14日
最盛半旬（月-半旬）	4-3	4-4	6-2	6-1	7-2	7-3	8-3	8-3	9-3	9-3	10-6	10-3
50%誘殺日（月日）	4月12日	4月21日	6月7日	6月7日	7月6日	7月13日	8月13日	8月16日	9月13日	9月10日	10月31日	10月15日
終息日（月日）	5月5日	5月7日	6月23日	6月20日	7月13日	7月24日	8月17日	8月24日	10月4日	9月23日	11月29日	10月31日
誘殺日数（日）	20	9	30	15	11	13	11	9	14	8	24	7
誘殺数（頭）	317	30	497	139	97	63	20	36	132	16	123	11

※ 平年値は2012～2021年の10年間の平均値。ただし、第5世代成虫は発生が認められた2013～2016、2018、2019、2021年の7年間の平均値。

(イ) ほ場における調査

a カンザワハダニ 基準ほ場における発生調査 (甲賀市水口町)

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.2
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.4
3 上 中 下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.8
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.04	0.8
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.40	2.0
4 上 中 下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.2
	0.16	0.00	2.54	2.70	6.0	0.14	0.8
	0.02	0.24	1.16	1.42	8.0	0.07	0.6
5 上 中 下	0.02	0.00	0.04	0.06	4.0	0.35	1.0
	0.02	0.02	0.00	0.04	2.0	0.47	0.8
	0.04	0.14	0.40	0.58	4.0	0.01	0.2
6 上 中 下	0.02	0.00	0.10	0.12	4.0	0.18	2.2
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.12	0.8
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
7 上 中 下	0.02	0.06	0.12	0.20	6.0	0.00	0.0
	0.02	0.06	0.04	0.12	6.0	0.00	0.2
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
8 上 中 下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.04	1.2
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.75	5.0
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.15	3.8
9 上 中 下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.15	3.6
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.04	2.4
	0.00	0.00	0.02	0.02	2.0	0.25	2.8
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.29	2.8
11	0.00	0.04	0.00	0.04	2.0	0.12	1.6
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.05	1.2

※ 平年値は2012～2021年の10年間の平均値。

※ 寄生葉率は成虫、幼虫、または卵が1頭(卵)以上寄生している葉の割合。

b カンザワハダニ 予察ほにおける発生調査

(a) 甲賀市土山町 市場

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.4
3	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.8
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.44	1.2
4	上	0.08	0.34	1.66	2.08	1.42	2.6
	中	0.02	0.60	1.74	2.36	0.98	2.0
5	上	0.02	0.00	0.54	0.56	0.15	1.4
	中	0.04	0.26	2.00	2.30	0.52	3.8
6	上	0.00	0.00	0.00	0.00	1.94	15.8
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	2.30	14.0
7	上	0.00	0.00	0.00	0.00	1.99	13.0
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.6
8	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	1.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.27	2.0
9	上	0.00	0.00	0.00	0.00	1.33	7.6
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	1.63	4.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.02	0.2
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.01	0.6
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.00	0.2

※ 平年値は2012～2021年の10年間の平均値。

(b) 甲賀市信楽町 奥山

月 旬	本年				寄生葉率 (%)	平年	
	寄生数 (頭/葉)					寄生数 (頭/葉)	寄生葉率 (%)
	成虫	幼虫	卵	合計			
1	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0	0.02	0.4
2	0.00	0.06	0.00	0.06	2.0	0.00	0.0
3	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.45	1.0
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	1.35	2.2
5	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.54	1.6
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	1.4
6	上	0.02	0.00	0.00	0.02	0.49	2.0
	中	0.02	0.02	0.22	0.26	0.05	0.8
7	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	0.8
8	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	1.2
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	1.6
9	上	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.4
	中	0.00	0.00	0.00	0.00	0.07	1.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.54	3.4
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.26	1.8
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0	0.23	1.6

※ 平年値は2012～2021年の10年間の平均値。

c カンザワハダニ 現地ほ場における発生調査

(a) 甲賀市土山町 頓宮

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
9	0.10	0.22	0.28	0.60	10.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.02	0.00	0.00	0.02	2.0

(b) 甲賀市土山町 布引

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.00	0.16	0.24	0.40	2.0
5	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
9	0.02	0.02	0.18	0.22	12.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(c) 甲賀市信楽町 向山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
5	0.04	0.00	0.02	0.06	2.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
9	0.02	0.00	0.16	0.18	2.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(d) 甲賀市信楽町 寺谷

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
5	0.04	0.00	0.08	0.12	4.0
6	0.10	0.24	0.44	0.78	10.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

(e) 日野町 北山

月	本年				寄生葉率 (%)
	寄生数 (頭/葉)				
	成虫	幼虫	卵	合計	
1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
2	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
3	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
4	0.02	0.00	0.08	0.10	2.0
5	0.00	0.10	0.02	0.12	4.0
6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
7	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
8	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
9	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0
12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.0

d 炭疽病 基準ほ場および予察ほにおける発生調査

		病葉数 (枚/m ²)															
月 旬	甲賀市水口町		甲賀市土山町						甲賀市信楽町						日野町		
			市場		頓宮		布引		奥山		向山		寺谷		北山		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	0.0	5.9	0.0	1.2	4.8	1.8	17.6	1.4	0.0	15.9	0.0	2.4	0.0	1.0	0.0	0.0	
2	0.0	2.8	0.0	1.2	0.0	0.0	17.6	0.0	0.0	0.8	0.0	0.2	0.0	1.0	0.0	0.2	
上	0.0	8.2	0.0	3.0	-	-	-	-	0.0	1.8	-	-	-	-	-	-	
3 中	0.0	5.8	0.0	0.0	0.0	0.2	9.6	0.8	0.0	1.4	0.0	0.2	0.0	5.0	0.0	0.4	
下	3.2	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上	0.0	0.6	0.0	0.2	-	-	-	-	0.0	1.6	-	-	-	-	-	-	
4 中	0.0	9.4	0.0	0.4	0.0	3.4	0.0	3.0	0.0	1.2	0.0	0.6	0.0	1.4	0.0	0.2	
下	0.0	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上	0.0	1.8	0.0	0.8	-	-	-	-	0.0	0.8	-	-	-	-	-	-	
5 中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
下	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上	0.0	3.2	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	
6 中	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.2	
下	0.0	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上	0.0	8.0	0.0	0.2	-	-	-	-	0.0	2.2	-	-	-	-	-	-	
7 中	3.2	12.6	0.0	0.6	0.0	0.4	1.6	1.6	0.0	0.4	0.0	1.0	0.0	0.4	0.0	0.0	
下	11.2	12.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上	1.6	5.4	0.0	0.8	-	-	-	-	0.0	1.4	-	-	-	-	-	-	
8 中	1.6	13.1	0.0	0.6	0.0	0.2	0.0	5.4	0.0	1.0	0.0	1.8	0.0	1.6	0.0	0.4	
下	12.8	10.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上	30.4	14.0	0.0	3.6	-	-	-	-	0.0	3.4	-	-	-	-	-	-	
9 中	46.4	30.0	0.0	2.8	4.8	1.6	73.6	6.2	0.0	10.6	6.4	6.6	0.0	8.2	0.0	0.6	
下	68.8	29.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
10	19.2	26.3	0.0	1.2	1.6	8.2	12.8	3.8	1.6	16.0	6.4	2.2	0.0	4.4	0.0	0.8	
11	25.6	20.8	0.0	1.8	0.0	2.6	17.6	6.6	0.0	10.6	4.8	2.0	12.8	3.2	0.0	0.6	
12	0.0	13.7	0.0	3.0	0.0	0.2	22.4	7.3	1.6	2.1	4.8	0.9	0.0	2.5	0.0	0.5	

※ 平年値は2012～2021年の10年間の平均値。

※ 「-」は未調査。

エ 発生および被害面積

作物名	栽培面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)		
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除	備考
チャ	545	炭疽病	5	25	75	270	375	68.8	19.3	375	750	*
		もち病	0	5	15	45	65	11.9	3.7	65	130	*
		輪斑病	0	5	15	70	90	16.5	3.7	90	90	*
		新梢枯死症	0	5	65	165	235	43.1	12.8	235	235	
		チャノコカクモンハマキ	15	25	170	225	435	79.8	38.5	435	870	*
		チャハマキ	0	0	15	100	115	21.1	2.8	115	230	*
		チャノホソガ	10	20	120	260	410	75.2	27.5	410	820	
		チャノミドリヒメヨコバイ	5	20	130	230	385	70.6	28.4	385	770	*
		カンザワハダニ	0	10	80	225	315	57.8	16.5	315	630	
		チャノキイロアザミウマ	0	10	105	255	370	67.9	21.1	370	740	*
		ツマグロアオカスミカメ	0	0	20	55	75	13.8	3.7	75	75	
		クワシロカイガラムシ	5	30	90	210	335	61.5	22.9	335	670	
チャトゲコナジラミ	0	5	30	120	155	28.4	6.4	155	310	*		

※防除面積の備考欄「*」は同時防除を含む

※被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和)/(栽培面積)

(3) 花き (キク)

ア 発生状況

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
キク	白さび病	-	並	ほ場での初発確認は6月7日で、一部地域で発生が認められた。	6月以降の高温によって発病が抑制された。	発生初期に防除が実施されている。
	アブラムシ類	遅	平年並	ほ場での初発確認は7月27日で、発生時期は遅く、発生量は平年並であった。	8月中旬の降雨により増殖が抑制されたと考えられる。	発生初期に薬剤散布が実施されている。
	アザミウマ類	平年並	平年並	ほ場での初発確認は6月29日で、発生時期と発生量は平年並であった。	発生初期に適切に防除がされたため、発生量は平年並であった。	発生初期に薬剤散布が実施されている。

イ 発生量調査

調査地点	病害虫名	白さび病	アブラムシ類	アザミウマ類
		発病葉率 (%)	1茎あたり寄生虫数 (頭)	被害葉率 (%)
		7/26	7/26	7/26
草津市	下笠町	0	0	0
野洲市	小南	0	0.2	0
湖南市	菩提寺	0	0	0
近江八幡市安土町	上豊浦	0	0.04	0
彦根市	松原町	0	0	0
甲良町	下之郷	0	0	0
米原市	世継	0	0.04	0
高島市今津町	深清水	0	0	0

ウ 発生状況一覧表

病害虫名	初発見月日	初発見場所
白さび病	6月7日	東近江市五箇荘平阪町
アブラムシ類	7月27日	野洲市小南
アザミウマ類	6月29日	甲良町下之郷

エ 発生および被害面積

対象作物名	栽培面積 (ha)	対象病害虫	程度別発生面積 (ha)					発生面積率 (%)	被害面積率 (%)	防除面積 (ha)	
			甚	多	中	少	計			実防除	延防除
キク	14	白さび病	0	0	0	2	2	14.3	0	5	10
		アブラムシ類	0	0	0	2	2	14.3	0	10	20
		アザミウマ類	0	0	0	1	1	7.1	0	10	10

被害面積率=(程度別発生面積甚～中の和) / (栽培面積) ×100

7 病虫害防除推進員

県内における病虫害発生予察精度の確保を図るため、平成31年4月に「病虫害防除推進員」を新たに設置した。

令和4年度は、9農業協同組合より55名が選出され、地域における病虫害発生状況の把握に努めるとともに、病虫害防除および農薬安全使用の指導等を行っている。

(1) 病虫害防除推進員研修会

ア 第1回

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から集合研修を取りやめ、5月中旬に病虫害防除推進員へ関連資料を送付し、研修会に代えた。

イ 第2回

日 時 令和5年2月14日(火) 13時30分～16時00分

場 所 滋賀県農業技術振興センター大会議室

研修内容 ①「改正植物防疫法と県の方針(総合防除計画)について」

講師 滋賀県農政水産部みらいの農業振興課
みどりの食糧戦略室 有元 倫子 主幹

②「侵入調査事業について」

講師 農林水産省 近畿農政局消費・安全部農産安全管理課
植物防疫係 池上 達哉 係長

③「侵入調査について～病虫害及び調査方法の概説～」

講師 農林水産省 神戸植物防疫所業務部国内検疫担当
石田 健太郎 次席植物検疫官

④「令和5年度からの病虫害防除推進員の活動について」

説明 滋賀県病虫害防除所 近藤 篤 副主幹

(2) 病虫害防除推進員による病虫害発生量調査結果

今年度は、イネの葉いもちと、斑点米カメムシ類の定期調査を実施した。

作物名	病虫害名	調査基準日	発生量(%) (注1)(注2)					
			多	やや多	平年並	やや少	少	無
イネ	葉いもち	6/25	0	0.0	14.4	5.2	8.2	72.2
		7/10	3.9	7.1	15.0	4.7	19.7	49.6
	斑点米カメムシ類	8/1	4.1	11.3	21.6	8.2	29.9	24.7

(注1) 発生量の数値は、報告数に占める発生程度の比率。

(注2) 構成割合は四捨五入をしているため、その合計が100にならない場合がある。

(3) 病虫害防除推進員に向けた情報の提供

今年度から、病虫害防除推進員の活動の支援のため、新たに病虫害防除推進員向けの情報を提供することとした。画像を組み合わせ、病虫害の発生動向、特に注意すべき病虫害や水稻の生育のポイントなどの情報を簡潔にとりまとめ、6～9月に4回、電子メールにて発信した。

令和4年度 防除推進員情報 No.1 令和4年6月28日

情報作成：滋賀県病害虫防除所
近江八幡市安土町犬中518 TEL0748-48-4926

○防除推進員情報について

- ・日頃の業務が忙しい中、病害虫防除推進員に就任いただき、ありがとうございます。日々の営農指導では病害虫防除にとどまらず、施肥や栽培管理など幅広く対応されておられると思います。
- ・少しでも病害虫防除指導の参考になればと不定期ではありますが、情報という形で病害虫に関する内容をまとめてみました。
- ・病害虫防除所では発生予報、防除情報、注意報など発信していますが、これらをまとめたような情報になればと思っています。

○水稲の管理のポイント

- ・近年、夏季の異常高温が原因と考えられる水稲の収量および品質低下が続いています。気象予報（3か月予報）では、今年も高温の予想になっていることから、適切な施肥と水管理を徹底してください。
 - ・穂肥の施用にあたっては、移植日などで生育が異なります。必ず幼穂を確認して、適期に適量を施用してください。
 - ・全量基肥（一発肥料）栽培でも、穂肥が必要な場合がありますので、生育状況に応じて追肥の要否を検討してください。
 - ・幼穂形成期以降はイネの要水量が多くなることや、カドミウム吸収抑制のため出穂前後各3週間は常時湛水管理としてください。常に深水にならないように、また、水を切らさないように、水深3～5cmの浅水で管理してください。
- ※詳しくは水稲生育診断情報（令和4年6月27日発行）を参照してください。

○水稲の病害虫

・発生予報第5号

6月21日に発表しています。水稲のいもち病、紋枯病、コバネイナゴは平年並を予想しています。

・いもち病

防除所の調査では、置き苗での発生は少なく感じます。週間天気予報を見ていると真夏のような天気となっており、発生しにくい気象のように感じます。

・紋枯病

夏が暑く、夕立が多い年には急激に発生が増加します。箱粒剤などで紋枯病対象の薬剤が入っていないほ場では注意が必要です。

・トビロウソウ

海外から飛来してきます。2019、2020年には滋賀県でも被害が確認されました。

今年はすでに、奈良県、大阪府で飛来が確認されています。今後の情報に注意が必要です。



ほ場での紋枯病



トビロウソウの倒伏



トビロウソウ

○今年の小麦赤かび病

- ・小麦は乾燥・調製が進んでいると思いますが、赤かび病が過去 10 年で最も多くなりました。懸念されるのは、かび毒である DON（デオキシニバレノール）の汚染です。

令和 4 年 4 月より、食品衛生法基準が設定され、この DON が 1.0mg/kg を超えると、流通や販売ができなくなります。このことから、共同乾燥調製施設での「赤かび病被害粒」チェックと必要に応じた分別乾燥などが重要です。



写真 「びわほなみ」での赤かび病発病



写真 赤かび病による被害粒

○診断した病害虫

各地域の農産普及課から診断依頼があり、同定した病害虫です。

- ・ 5 月 23 日 オクラ苗立枯病
- ・ 4 月 27 日 リンドウ灰色かび病
- ・ 5 月 10 日 トマト黒点根腐病
- ・ 6 月 17 日 キク虫害 (種不明)
- ・ 6 月 17 日 リンドウ褐斑病



リンドウ褐斑病

○県庁からの情報

～ツヤハダゴマダラカミキリに注意！～

- ・ 愛知県、兵庫県などでは外来種である“ツヤハダゴマダラカミキリ”が確認されました。
- ・ このカミキリムシにより、海外では広い樹種に大きな被害が出ています。
- ・ 在来のゴマダラカミキリによく似ています。(みかんの木などでよく見かけます)
- ・ 果樹園などで見かけたら病害虫防除所まで連絡をお願いします。

※詳細は病害虫防除所のホームページをご覧ください。

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/yosatsu/yosatsuzyouhou/315695/>

○病害虫防除所、農技センターからの情報

ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病害虫防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>



農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>



令和4年度 防除推進員情報 No.2

令和4年7月6日

情報作成：滋賀県病害虫防除所
近江八幡市安土町大中516
TEL: 0748-46-4926

○水稲の病害虫の防除情報

・水稲の生育も進み、病害虫の発生状況を調査しています。この結果、①いもち病と②斑点米カメムシ類の発生が増加してきましたので7月6日付で防除情報を発表しました。

①いもち病

置き苗での発生は、平年並でぼつぼつと見られる程度でした。しかし、6月中旬にはいもち病の発生に好適な気象条件があり、全県では本田へ広がっているようです。調査では、平年よりも多くいもち病の発生を確認しました。今後、天候に大きく影響されますが、注意が必要です！

過去のいもち病の画像



ずりこみ症状



ほ場での発病状況



病斑

②斑点米カメムシ類

6月下旬の畦畔のすくい取り調査では、過去10年で最も多くの斑点米カメムシ類が確認されました。過去9年の平均値の4~5倍程度となっています。発生に地域性はあまり見られませんでした。

さらに、現地ほ場では、畦畔部分のイネ科雑草が残っており、出穂に向けて適切な草刈が必要です。出穂の2~3週間前と出穂期に草刈することが望ましいです。

引き続き、カメムシの調査を行います。今年の夏は要注意です！

畦畔で見られる主な斑点米カメムシ類の画像



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



アカスジカスミカメ

○水稲の管理のポイント

- ・水稲の生育は順調で6月下旬の高温により分けつも確保され、株間が見えなくなっているほ場も見られるようになってきました。中に入ってみると「中干し」も十分すぎるぐらい行われ、普通の長靴で歩けるほどになっています。
- ・各地域の農産普及課からは幼穂形成期に入っているほ場も報告されています。これから穂肥の時期になっていきます。適切な量を適期に施用しましょう。
- ・次の生育診断情報は7月8日ごろに発表の予定です。

○水稲の病害虫の防除情報

- ・7月5日に病害虫発生予報第6号を発表しました。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	葉いもち	平年並	やや多	キュウリ	べと病	-	やや少
	穂いもち	平年並	平年並	ナス科野菜	疫病	-	少
	紋枯病	やや遅	平年並	キク	アブラムシ類	-	やや少
	白葉枯病	平年並	やや少	果樹全般	カメムシ類	-	多
	ニカメイガ(Ⅱ)	早	平年並	ナシ	黒星病	-	平年並
	セジロウンカ	遅	平年並		ナシヒメシンクイ	-	平年並
	ヒメトビウンカ	平年並	平年並	ブドウ	うどんこ病	-	やや少
	ツマグロヨコバイ	早	平年並		べと病	平年並	平年並
	斑点米カメムシ類	平年並	多	チャ	輪斑病	-	やや多
	イチモンジセセリ	やや遅	やや少		カンザワハダニ	-	やや多
フタオビコヤガ	遅	やや少	チャノミドリヒメヨコバイ		-	やや多	
野菜全般	うどんこ病	-	やや少	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	
	アブラムシ類	-	平年並				
	ハダニ類	-	やや多				
	アザミウマ類	-	やや少				
	タバコガ類	-	やや多				

- ・水稲では、葉いもちはやや多、斑点米カメムシ類は多の予想。・・・7月6日に防除情報を発表。
- ・野菜全般では、今後気温が高くなることからハダニ類がやや多の予想。
- ・果樹全般では、カメムシ類が多を予想。・・・フェロモントラップが急増したため、7月4日に注意報を発表。
- ・茶では輪斑病、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイがやや多の予想。

○病害虫防除所、農技センターからの情報

ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病害虫防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>



農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>



令和4年度 防除推進員情報 No.3

令和4年7月21日

情報作成：滋賀県病害虫防除所
近江八幡市安土町大中516
TEL: 0748-46-4926

○水稲の病害虫の防除情報

- ・いよいよ出穂期になり、いもち病と斑点米カメムシ類の防除時期となってきました。今年は早々と梅雨明けが発表されましたが、その後、降雨が続くなど不安定な気象となっています。
- ・防除推進員の皆さんから報告をいただいておりますが、地域によってはいもち病も斑点米カメムシ類もやや多い状況が報告されています。

①いもち病

葉いもちが増加しています。このため、7月19日に穂いもちの注意報を発表しました。

7月13～14日に行った調査では、発生ほ場率、発病度が過去10年で最も高く、病斑にも勢いがありました。さらに、穂いもちの伝染源となりやすい上位葉への進展も認められました。今後の1か月気象予報では、気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込みとなっていますので、いもち病の発生に好適な条件となる可能性が高いと考えています。

今回、葉いもちが多発したのは7月上旬からの曇雨天が影響したものと考えています。全体的に見ると大津・南部、甲賀、高島地域で多い傾向にありました。発生の多かった地域では穂いもち対策をよろしくお願いします。

②斑点米カメムシ類

7月21日に注意報を発表しました。すでに7月6日の防除情報で注意を呼びかけていましたが、7月6～8日の畦畔のすくい取り調査では、アカスジカスミカメなどの小型は全県で、クモヘリカメムシは山間地で発生が多いことを確認しました。防除推進員の皆様からも「カメムシが目立つ」との報告を多数いただいております。

これから出穂するとカメムシの多くは本田へ移り、畦畔部分ではあまり目立たなくなりますが、虫の数が多くは続くと思われる。各地域ではすでに共同防除などの一斉防除のスケジュールが調整されていると思いますが、確実な防除をよろしくお願いします。

防除所では調査地点から稲穂を分けていただき、斑点米の発生量も調査していますが、令和3年度では防除によって約半分程度に斑点米が抑えられていました。(0.34⇒0.17% 畦畔部分の斑点米が多い部分での調査ですのでやや高い数値になっています) 薬剤の効果についてのお問い合わせを防除推進員の方からもいただきましたが、現在のところ抵抗性は確認していません。防除を実施すれば一定の効果が期待できますのでよろしくお願いします。

○大豆、野菜の害虫

- ・大豆やキャベツなどの露地野菜に発生するタバコガ類の発生が増加しています。キャベツの結球部やトマト果実などに潜り込む習性があり、直売所などに出荷してからクレームになるなど困った性質を持ちます。基本的に薬剤に強く、防除しにくい性質があります。詳しくは防除情報を参考にしてください。



大豆で発生した幼虫



トマトに潜り込んだ幼虫

○水稲の管理のポイント

- ・6月下旬の高温によりグッと生育が進んだようで、7月13日には生育の進んでいるほ場で「走り穂」が見られました。7月21日現在、各地で走り穂が観察されます。
- ・近年の高温対策と品質向上に向けて、7月中旬の施肥についても情報が発表されています。葉色が薄いところなどでは検討をお願いします。
- ・また、玄米の品質向上とカドミウム対策を兼ねて、出穂前後の湛水管理もよろしくをお願いします。

○病害虫の発生予報

・7月20日に病害虫発生予報第7号を発表しました。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量	
イネ	穂いもち	やや早	多	カキ	うどんこ病	-	平年並	
	紋枯病	-	平年並		炭疽病	-	平年並	
	白菜枯病	平年並	やや少		円星落葉病	-	平年並	
	ニカメイガ(Ⅱ)	平年並	やや少		角斑落葉病	-	平年並	
	セジロウンカ	遅	やや少		カキノヘタムシガ	-	平年並	
	ヒメトビウンカ	-	多		チャ	炭疽病	-	やや多
	ツマグロヨコバイ	-	平年並			もち病	-	平年並
	斑点米カメムシ類	平年並	多			新梢枯死症	-	やや多
コブノメイガ	平年並	平年並	カンザワハダニ	-		平年並		
ダイズ	アブラムシ類	-	平年並	チャノホソガ(Ⅲ)	平年並	やや多		
	ハダニ類	-	平年並	チャノミドリヒメヨコバイ	-	やや多		
果樹全般	カメムシ類	-	多	チャノキイロアザミウマ	-	平年並		
	ハマキムシ類	-	平年並	クワシロカイガラムシ	やや早	平年並		
ナシ	ハダニ類	-	やや多	(年3回発生地域・Ⅱ)				
ブドウ	べと病	-	平年並	チャトグコナジラミ(Ⅱ)	平年並	やや少		
	晩腐病	平年並	平年並					

- ・水稲では、穂いもち、斑点米カメムシ類が多の予想。・・・7月19日に穂いもちの注意報、7月21日に斑点米カメムシ類の注意報を発表。
- ・果樹全般では、カメムシ類が多の予想。・・・すでに注意報を発表。
- ・茶では、炭疽病、新梢枯死症、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイがやや多の予想。
- ・参考：野菜、花き、大豆で、タバコガ類の発生が懸念される。・・・7月21日に防除情報を発表。

○病害虫防除所、農技センターからの情報

ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病害虫防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>



農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougicenter/>



令和4年度 防除推進員情報 No.4

令和4年9月27日

情報作成 滋賀県病虫害防除所
近江八幡市安土町大中 516
TEL. 0748-46-4926

○いもち病、カメムシ類の調査報告について

- ・今年も調査&報告をお願いしております。およそ半分の方からは報告をいただいておりますが、「調査はしたが、結果報告がまだ」という方は報告を急いでお願いします。

○今年の水稲は？

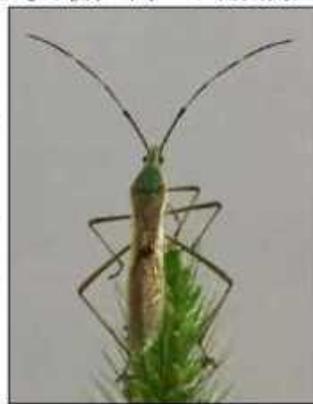
- ・今年は6月に異常なほど高温で早々と梅雨明けが発表されましたが、その後、ぐずついた天気になり、穂いもちの被害が気になりました。

①いもち病

穂いもちは甲賀、高島地域で多い傾向が見られました。穂いもちの発生が多かった次の年は、育苗時のいもち病が発生しやすいとされています。種子消毒の徹底と育苗管理に注意が必要です。

②斑点米カメムシ類

斑点米の発生は県全域で多い傾向のようです。今年はカメムシ類が多かったため、注意報も発表しました。なかでも、クモヘリカメムシやホソハリカメムシ、アオクサカメムシ、ミナミアオカメムシ、イネカメムシなどの大型のカメムシ類の発生が目立っていました。



クモヘリカメムシ成虫

○大豆の病虫害

- ・大豆播種時期に雨が続き、発芽が不揃いなほ場もありましたが、その後順調に生育しているように感じます。
- ・ハスモンヨトウはフェロモントラップへの飛来は平年並ですが、ほ場ではあまり目立たない状況です。
- ・一部ほ場では葉焼病の発生が見られます。遠目ではハダニの葉焼けのようにも見えますが、近づいてみると病斑が見られます。
- ・また、雑草の多いほ場も見られます。ヒユやハウズキ、アサガオなどなど。難防除雑草が増えているように感じます。
- ・県中南部を中心に「ミナミアオカメムシ」が多数観察されました。幼虫が集中的に加害するため、被害が出やすい特徴があります。また、水稲にも斑点米を発生させますので今後注意が必要です。



左：ミナミアオカメムシ 右：アオクサカメムシ
よく似ているが触角の色が異なる。ミナミアオカメムシは幼虫が集中して加害するため、被害が出やすい。



ミナミアオカメムシの幼虫。集中して加害する。

○植物防疫法の改正と防除推進員調査の見直し

- ・近年、①海外から新たな病害虫が侵入、②既存の病害虫でも突発的に多発するなど被害のリスクが高くなっているため、植物防疫法を改正する法律が成立しました。滋賀県でも監視体制の強化が必要です。
- ・病害虫防除推進員の皆さんには、地域の一斉防除「被害の未然防止」、早期発見「地域の目」として、営農指導がお忙しい中、毎年3回の調査と報告をお願いしています。
- ・監視体制の強化のため、調査と報告活動を見直す予定です。
 - ①調査対象病害虫に海外から侵入しそうな病害虫を含める。
 - ②調査は日頃の営農指導の中で任意のタイミングで行う。
 - ③報告は新たな病害虫を見つけた時や突発的な発生を認めた時にメールなどで行う。
- ・なお、これまでどおりの地域発生予察の調査を行っていただき、結果を報告していただけるのは大歓迎です。メールなどで調査結果を送ってください。

○病害虫の発生予報

・9月27日に病害虫発生予報第10号を発表しました。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
野菜全般	アブラムシ類	-	平年並	カキ	カメムシ類	-	多
	ハスモンヨトウ	-	平年並	チャ	カンザワハダニ	-	平年並
	タバコガ類	-	やや多		チャトゲコナジラミ(Ⅲ)	やや遅	やや少
アブラナ科野菜	軟腐病	-	やや多				
	黒腐病	-	やや多				
	菌核病	-	平年並				
	モンシロチョウ	-	平年並				
	コナガ	-	平年並				
	ヨトウガ	-	やや少				
	ハイマダラノメイガ	-	やや多				

- ・野菜全般ではタバコガ類がやや多、ハスモンヨトウは平年並。
- ・アブラナ科野菜では軟腐病、黒腐病、ハイマダラノメイガがやや多。
- ・果樹ではカキのカメムシ類が多くの予想。引き続き注意が必要。

○スクミリンゴガイに注意！

- ・県内でスクミリンゴガイが増えています。このため、防除情報第10号を発表し、①冬の耕うんで数を減らす、②農機具などの移動で拡散しないように注意する、ことを呼びかけました。



左：スクミリンゴガイ、右：タニシ
スクミはらせん径が小さいのが特徴



スクミリンゴガイの卵塊
約1か月で親になる

○病害虫防除所、農技センターからの情報ホームページにて予報や生育状況などの情報を公開しています。

滋賀県病害虫防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>



農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/nougiocenter/>



8 滋賀県病虫害防除所ホームページ

予察情報等を広く早く伝達し、画像によるわかりやすい情報を提供するため、平成15年度より開始したインターネットによる情報提供サービスである。

令和4年1月から12月までの利用実績の内訳は以下のとおりであった（表1）。月別では7月の閲覧回数が、ページ名別では病虫害判定シートの閲覧回数が最も多く、この傾向は昨年と同様であった。令和4年と比較すると総閲覧数は約3000回増加した（図1）。

表1 提供情報別閲覧数（回）

ページ名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
表紙	263	274	381	552	777	871	1603	1239	874	637	1676	442	9589
病虫害判定シート	225	273	155	657	1085	2123	3396	3420	2442	630	560	313	15279
警報・注意報・特殊報	57	73	46	160	189	83	611	303	167	209	262	33	2193
発生子報	27	11	108	141	208	464	413	486	381	157	535	91	3022
防除情報		33	178	202	465	102	460	185	221	142	152	7	2147
発生量データ	1			21	12	85	179	204	89	33	34	10	668
BLASTAM						157	232	24					413
IPM							23	13				9	45
診断結果					13	12					26		51
農薬扱い		10		14			22						46
注目の病虫害											10		10
総計	573	674	868	1769	2749	3897	6939	5874	4183	1810	3256	904	33496

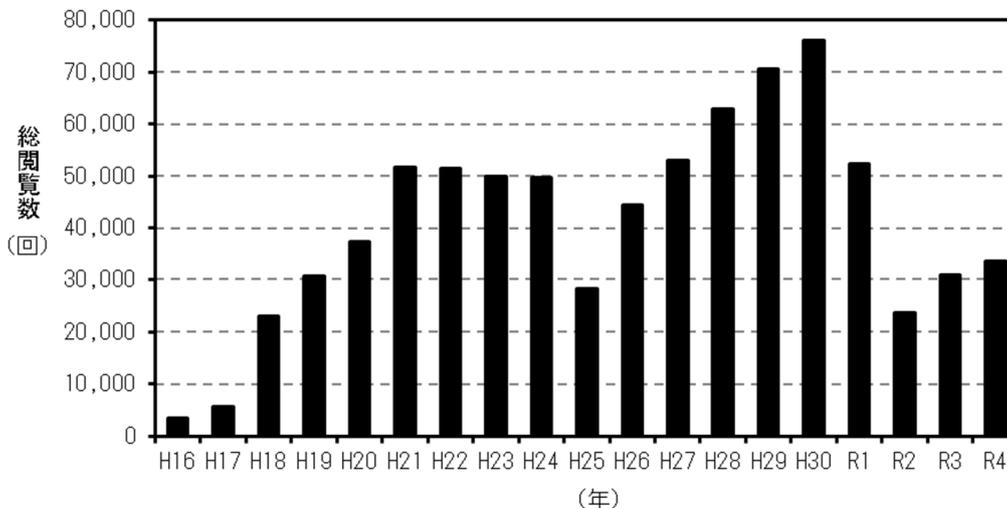


図1 滋賀県病虫害防除所のホームページ総閲覧数の年次推移

9 本年度新たに発生が確認された病害虫

病害虫名および発生経過は以下のとおりである。

クロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley

令和4年8月に近江八幡市内の露地栽培のトマトにおいて、コナカイガラムシ類の寄生が認められた。その後、同ほ場内のナス、ピーマンにおいても同様の寄生が認められた。当所において同定した結果、本県では未発生のクロテンコナカイガラムシであることが確認された。同ほ場以外で本種の発生は認められなかった。詳細については、令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号(p.112)を参照。



雌成虫（体長3～4.2 mm程度）



ナスの葉裏に寄生する成虫と幼虫

10 病害虫の診断および生態調査

(1) 薬剤耐性検定 (病害)

今年度は、病害に対する薬剤耐性検定を実施しなかった。

(2) 薬剤耐性検定 (虫害)

ヒメトビウンカの防除対策に用いる薬剤の防除効果を調査した。

①検定方法

薬剤検定は幼苗浸漬法を用いた。コシヒカリ2葉期の苗を3本キムワイプ半分で根部を包み、十分に水を含ませてから2×2cmのプラスチック薬包紙に乗せ、直径約9cmのタッパーに入れた。供試薬剤を所定の濃度にアプローチBI 10,000倍を含んだ水道水で希釈し、苗をキムワイプより上部を十分に浸漬し、約10分間室内で風乾した。これにヒメトビウンカ成虫を約10頭ずつ入れ、上部のゴース部分に乾燥防止用のふたをして28℃、16L-8D条件下で維持した。48もしくは72時間後に生虫、死虫数を計数し、死虫率を算出した。

供試虫は、令和4年10月に野外より採集したヒメトビウンカを室内にて増殖させ、飼育後3～5世代の成虫を用いた。増殖にはコシヒカリ幼苗を用い、28℃、16L-8D条件下で行った。

②結果の概要

守山市の個体群では、エトフェンプロックス以外の薬剤では実用濃度では効果は認められたものの、その1/10の濃度では効果が低かった(表1)。大津市の個体群では、フルピリミン水和剤とエトフェンプロックス乳剤では死虫率がほぼ100%と高かったが、アセフェート水和剤とクロチアニジン水溶剤では低かった(表2)。

以上のことから、フルピリミン水和剤は採集された地域により異なった結果を示したが、エトフェンプロックス乳剤では実用濃度およびその1/10濃度でも殺虫効果は高く、アセフェート水和剤、クロチアニジン水溶剤では実用濃度の1/10濃度で殺虫効果が低下している可能性が示された。

表1 守山市のヒメトビウンカの薬剤の効果

薬剤名	成分名	希釈倍率	死虫率(%)	供試数
エミリアフロアブル	フルピリミン水和剤	1,000倍	96.3	30
エミリアフロアブル	フルピリミン水和剤	10,000倍	57.9	30
トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	1,000倍	100.0	30
トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	10,000倍	93.3	31
オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1,000倍	100.0	30
オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	10,000倍	53.3	30
ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	4,000倍	93.3	30
ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	40,000倍	26.7	30
対照(水)	—	—	6.0	49

表2 大津市のヒメトビウンカの薬剤の効果

薬剤名	成分名	希釈倍率	死虫率(%)	供試数
エミリアフロアブル	フルピリミン水和剤	1,000倍	100.0	30
エミリアフロアブル	フルピリミン水和剤	10,000倍	96.7	30
トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	1,000倍	100.0	30
トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	10,000倍	100.0	30
オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1,000倍	96.7	30
オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	10,000倍	33.3	30
ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	4,000倍	86.7	30
ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	40,000倍	23.3	30
対照(水)	—	—	8.0	50

(3) 病害虫診断業務実績

令和4年1月から12月までに実施した病害虫の診断の合計件数は88件で、その内訳は普通作物が10件、野菜が64件、果樹が5件、花き（花木）が9件であった（今期、茶はなかった）。
診断結果の原因は、病害36件、虫害3件、原因不明7件および、その他42件であった。

作物別の診断件数および結果

作目		診断件数				
		病害	虫害	不明	その他	計
普通作物	イネ	1	1		2	4
	コムギ	1			1	2
	オオムギ	1			1	2
	ダイズ	1			1	2
	小計	4	1	0	5	10
野菜	アスパラガス				1	1
	イチゴ	7	1	1	6	15
	エンドウ	1				1
	オクラ	1				1
	カブ				1	1
	キャベツ	1			3	4
	サトイモ	1				1
	サンショ	1				1
	ジャガイモ				1	1
	ショウガ	1				1
	ダイコン				2	2
	タマネギ			1		1
	トマト	9		2	7	18
	ナバナ				1	1
	ニンニク		1			1
	ネギ	2			5	7
	パプリカ				1	1
	ピーマン				1	1
	ブロッコリー	1				1
	ミツバ	1				1
メロン	1		1		2	
レタス				1	1	
小計	27	2	5	30	64	
果樹	イチジク	2			2	4
	ナシ				1	1
	小計	2	0	0	3	5
花き	キク	2		2	2	6
	ユーカリ				1	1
	リンドウ	1			1	2
	小計	3	0	2	4	9
茶	チャ					0
	小計	0	0	0	0	0
合計		36 (41%)	3 (3%)	7 (8%)	42 (48%)	88 (100%)

※（ ）内は合計診断件数に対する割合を示す。

(4) ヒメトビウンカ越冬個体のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率調査

ア 目的

県内でのイネ縞葉枯病の発生は、昭和 60 年代以降、ほとんど見られなかったが、平成 21 年の発生予察調査において、立毛中に本病の発生が確認された。平成 23 年には再び立毛中に一部地域で、また県全域の刈株再生芽（ひこばえ）で本病が確認された。さらに、平成 28 年の刈株再生芽での発病調査において、本病の発病株率の急激な上昇を確認した。本病の発生は、イネ縞葉枯病ウイルス（RSV）を保毒したヒメトビウンカに大きく影響されることから、ヒメトビウンカの RSV 保毒虫率を把握するため、平成 23 年以降、継続して調査を実施している。

イ 方法

(ア) 供試虫の採集

4 月 6 日に、前年の刈株再生芽が残る水田ほ場 36 地点において、1 地点当たり 50 回のすくい取りによりヒメトビウンカ越冬個体を採集した。

(イ) RSV 保毒虫検定

RSV 保毒の有無は、簡易 ELISA 法（柴ら，2013）により検定した。判定にはマイクロプレートリーダー（株式会社バイオラッド・ラボラトリーズ）を用いた。

ウ 結果の概要

調査を実施した 36 地点のうち 20 地点で越冬個体を採集した。すくい取り虫数（供試虫数）は県全域で 183 頭と、過去 2 年と比較して多かった（表 1）。また、簡易 ELISA 法を実施した結果、RSV 保毒虫は 4 地域で計 8 頭検出され、県全域での保毒虫率は 4.4% となった。

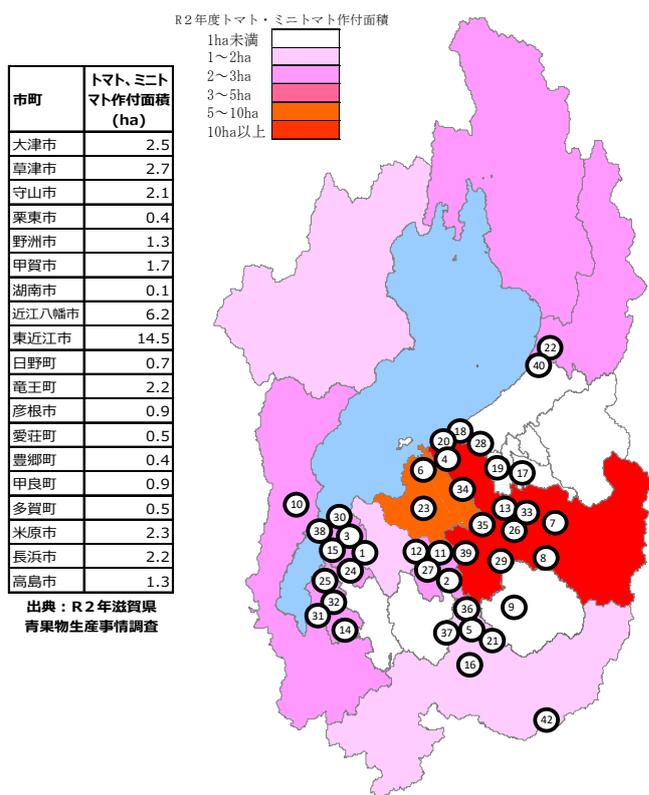
表 1. 各地域におけるヒメトビウンカ越冬個体群のすくい取り虫数と RSV 保毒虫率。

地域	令和2年(4/2~4)			令和3年(4/5~8)			令和4年(4/6)		
	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)	供試虫数 (頭)	保毒虫数 (頭)	保毒虫率 (%)
大津・南部	5	0	0	3	0	0	9	2	22.2
甲賀	4	0	0	0	0	0	1	0	0
東近江	7	0	0	15	0	0	122	4	3.3
湖東	16	1	6.3	3	0	0	19	1	5.3
湖北	2	1	50.0	0	0	0	29	1	3.4
高島	2	0	0	1	0	0	3	0	0
県全域	36	2	5.6	22	0	0	183	8	4.4

(3) 平成 21 年～令和 4 年のトマト黄化葉巻 (TYLCV) 診断状況

トマト黄化葉巻病 (TYLCV) は、平成 21 (2009) 年 10 月に守山市内の施設栽培のトマトにおいて県内で初めて発生が確認され、特殊報を発表した (平成 21 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号)。以降、これまでの持込み診断により、令和 3 年までに 79 件、同 4 年に 2 件の計 81 件を確認している (下図)。

H21～R4のトマト黄化葉巻(TYLCV)発生地点



2009年(H21年)～2022年(R4年)

発生地点	地点番号 (通し番号)	発生地点	地点番号 (通し番号)
大津市	伊香立南庄町 10 (11)	池田町	7 (7)
草津市	上寺町 25 (27)	池田町	7 (17)
	馬場町 14 (15)	池田町	7 (30)
	馬場町 14 (81)	池田町	7 (56)
	北山田町 32 (49)	池田町	7 (62)
南山田町 31 (45)	市原野	8 (9)	
栗東市	北中小路 41 (77)	小田刈町	13 (14)
守山市	今浜町 3 (3)	五箇荘北町 34 (54)	
	木浜町 15 (16)	五箇荘北町 34 (59)	
	洲本町 1 (1)	上岸本町 26 (28)	
	小浜町 30 (37)	上岸本町 26 (29)	
	小浜町 30 (38)	上岸本町 26 (34)	
	三町町 24 (26)	上岸本町 26 (41)	
	水俣町 68 (38)	上岸本町 26 (67)	
甲賀市	水口町牛飼 16 (18)	池田町	33 (53)
	水口町牛飼 16 (50)	栗見新田町	20 (22)
	水口町宇田 37 (63)	栗見新田町	20 (36)
	水口町宇田 37 (68)	大中町	4 (4)
	水口町名坂 5 (5)	大中町	4 (8)
	水口町名坂 5 (51)	大中町	4 (35)
	水口町名坂 5 (57)	大中町	4 (39)
	水口町名坂 5 (73)	大中町	4 (42)
	水口町水口 21 (23)	大中町	4 (46)
	水口町山 36 (58)	大中町	4 (47)
	甲賀町神 42 (80)	大中町	4 (52)
	近江八幡市	浅小井町 23 (25)	大中町
大中町 6 (6)		大中町	4 (64)
大中町 6 (43)		大中町	4 (65)
大中町 6 (48)		大中町	4 (70)
彦根市	大中町 6 (66)	大中町	4 (72)
	甲崎町 28 (32)	大中町	4 (75)
愛荘町	普光寺町 18 (20)	大中町	4 (76)
	普光寺町 18 (60)	大中町	4 (78)
日野町	石橋 19 (21)	大中町	4 (79)
	沖 17 (19)	池之尻町	35 (55)
米原市	三十坪 9 (10)	鯉江町	29 (33)
	米原 22 (24)	鯉江町	29 (40)
竜王町	梅ヶ原 40 (74)	上平木町	39 (71)
	西横関・弓削 12 (13)		
	橋本 27 (31)		
	林 11 (12)		
林 11 (44)			
山之上 2 (2)			

図 H21～R4のトマト黄化葉巻 (TYLCV) 発生地点

(4) 発生の目立った病害虫について

ア 令和4年度のいもち病発生状況

(ア) 葉いもち (発生時期：やや遅、発生量：多)

葉いもちの初発時期は6月28日と、やや遅かった。感染好適条件は、6月3半旬および7月4半旬に県内広域で確認された(図3)。6月および7月の気温が高く、準感染好適日と判定された場合が多かった(図2)。特に7月は降水量が多く(平年比160%)、感染が拡大し、7月20日基準調査の発生ほ場率は過去10年で最も高くなった(図1)。このことから、7/19付で注意報第3号(穂いもち)を発表した。

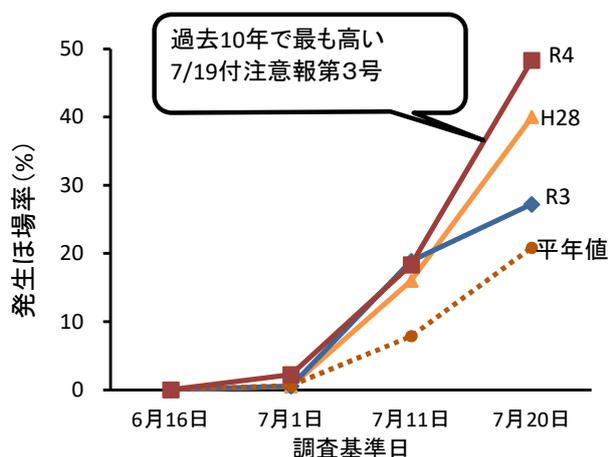


図1 葉いもちの発生ほ場率推移

(イ) 穂いもち (発生時期：平年並、発生量：やや多)

水稻の出穂期は5月10日移植の「みずかがみ」で平年より2日早く(7/21)、「コシヒカリ」で平年より1日早かった(7/26)。穂いもちの初発確認は7月27日で、発生時期は平年並であった。

穂いもちの発生ほ場率は過去10年で最も高く、発病穂率は過去10年で3番目に高かった。発生は全県的に認められたが、多発生ほ場は比較的少なかった。この要因として、伝染源である葉いもちの発生が多かったが、早生品種の出穂期前後である7月下旬～8月上旬の降水量が、やや少なかったため、多発生とまでは至らなかったと考えられる。

表1 穂いもちの発生データ (最終調査)

地域名	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03	平年	R04	
大津南部	発病穂率	0.4	0.2	0.3	0.3	0.1	0.1	0.0	0.3	0.3	1.8	0.4	0.6
	発生ほ場率	34.3	48.6	91.4	65.7	42.9	45.7	13.3	66.7	76.7	96.7	58.2	83.3
甲賀	発病穂率	0.0	0.1	3.3	3.3	0.2	0.1	0.0	0.3	0.5	0.8	0.9	1.4
	発生ほ場率	4.0	32.0	88.0	80.0	64.0	36.0	20.0	75.0	85.0	100.0	58.4	100.0
東近江	発病穂率	0.7	0.4	2.0	1.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.9	0.9	0.7	0.7
	発生ほ場率	50.0	44.0	94.0	60.0	42.0	58.0	28.0	76.0	66.0	82.0	60.0	84.0
湖東	発病穂率	0.7	0.2	0.5	0.3	0.5	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.3	0.1
	発生ほ場率	56.0	46.7	68.0	55.0	76.0	44.0	20.0	40.0	60.0	35.0	50.1	40.0
湖北	発病穂率	0.1	0.2	0.3	0.1	1.4	0.1	0.0	0.1	0.1	0.4	0.3	0.9
	発生ほ場率	26.7	46.7	55.6	51.1	75.6	31.1	12.5	22.5	57.5	70.0	44.9	82.5
高島	発病穂率	0.3	0.5	1.0	1.7	0.6	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.5	1.3
	発生ほ場率	85.0	65.0	80.0	85.0	80.0	45.0	35.0	35.0	80.0	75.0	66.5	95.0
全 県	発病穂率	0.4	0.3	1.2	1.0	0.5	0.1	0.0	0.2	0.4	0.8	0.5	0.8
	発生ほ場率	40.5	48.0	79.5	63.6	60.5	44.0	21.1	53.9	69.4	77.8	55.8	81.7

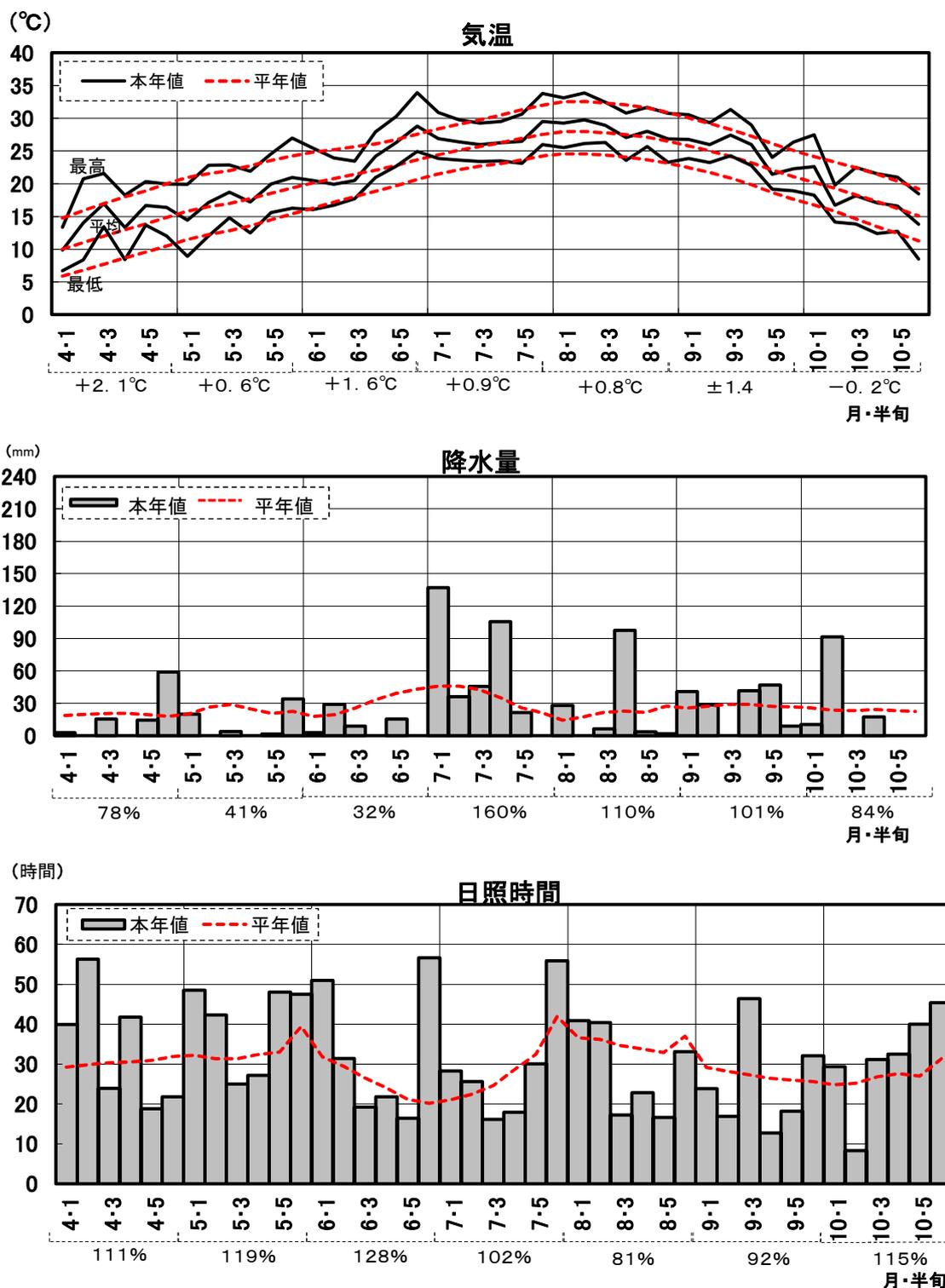
H24～H29は40地点 (H27は39地点)、H30～R4は36地点の調査データから算出した

平年値はH24～R3の値から算出した。

R4は36地点180ほ場のデータにより算出した。

(ウ) いもち病発生要因
a 気象条件

2022年気象表(彦根アメダス)



平年値は、1991～2020年の30年間の平均値である。

図2 令和4年度稲作期間の気象データ

b 葉いもち感染好適条件の出現状況

イネに対するいもち病の感染好適条件とは、①葉面湿潤時間が8時間以上、②葉面湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃、③前5日間の平均気温が20℃～25℃であり、この3つの条件が揃うといもち病菌が感染する(感染好適日)。感染好適日の出現状況については、アメダス地点ごとに、葉いもち発生予測システム(以下BLASTAMとする)でシミュレート可能である。

令和4年(2022年) BLASTAM 結果										
	今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山	
6月10日	金	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	土	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	日	-	-	○1	○1	●	●	●	○1	○1
6月13日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	水	●	-	-	●	●	●	-	-	-
6月16日	木	-	-	-	-	○4	●	-	-	-
6月17日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	水	-	●	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	木	-	-	-	-	-	-	●	-	-
6月24日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	日	-	-	●	-	-	-	●	●	-
6月27日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	土	?	?	-	?	-	?	-	?	?
7月3日	日	?	-	-	?	-	-	-	?	?
7月4日	月	?	○2	○2	○3	○3	○2	○2	●	○2
7月5日	火	-	○2	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	水	○2	-	-	-	-	-	●	○2	-
7月7日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月10日	日	-	-	-	-	-	-	-	○2	-
7月11日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	火	-	-	○2	-	-	-	-	-	-
7月13日	水	○2	○2	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	金	-	-	-	-	-	○2	●	-	-
7月16日	土	-	○2	●	-	-	-	●	●	-
7月17日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	月	-	-	-	○2	-	-	-	-	-
7月19日	火	●	-	-	-	-	-	●	-	-
7月20日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月21日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月22日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月23日	土	-	○2	●	-	○2	-	●	-	-
7月24日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月25日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月26日	火	-	?	-	-	-	-	-	-	-
7月27日	水	○3	-	-	-	○3	-	○2	-	-
7月28日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月29日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月30日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月31日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

- : 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある。)
- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃以外)
- 4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- ?: 判定不能

BLASTAMとは、気象庁のアメダスデータを用いてイネの葉面湿潤時間を算出し、葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するモデル。

図3 令和4年度BLASTAMによる感染好適日の出現状況

イ 令和4年度のムギ類赤かび病の発生状況

(ア) 発生状況について

コムギ赤かび病の発生ほ場率は、やや高く、発病度は高かった。オオムギ赤かび病の発生ほ場率は、やや高く、発病度は平年並であった。

発生要因として、コムギ開花期(農林61号: 4/22 ごろ(11/5 播種))にあたる4月下旬の降水量(73.5mm)が平年(37.6mm)の約2倍と多く、特に降雨が断続的にあったこと(10日間の内6日降雨)が挙げられる。

表1. コムギ赤かび病の発生状況

地域名		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	RO2	RO3	平年	RO4
大津南部	発病度	0.2	0.0	0.1	0	0.3	0.0	0.6	0.2	0.0	1.5	0.3	1.5
	発生ほ場率	32.0	6.7	10.0	0	37.1	6.7	71.4	25.7	5.7	73.3	26.9	80.0
甲賀	発病度	0.1	0.0	0	0	0.2	0.0	0.7	0	0.1	1.3	0.3	2.6
	発生ほ場率	13.3	6.7	0	0	26.7	6.7	86.7	0	20.0	100	26.0	80
東近江	発病度	0.1	0.0	0.0	0	0.1	0.1	0.6	0	0.1	1.4	0.2	2.3
	発生ほ場率	18.0	6.0	2.0	0	12.0	10.0	76.0	0	18	85.0	22.7	80.0
湖東	発病度	0.1	0.1	0.0	0	0.1	0.1	0.6	0.2	0.2	0.7	0.2	0.6
	発生ほ場率	16.7	20.0	4.0	0	16.0	12.0	88.0	36.0	36.0	72.0	30.1	48.0
湖北	発病度	0.2	0.0	0	0.0	0.2	0.1	0.5	0.1	0	0.6	0.2	0.5
	発生ほ場率	25.0	10.0	0	4.0	36.0	20.0	80.0	20.0	0	85.0	28.0	80.0
全 県	発病度	0.2	0.1	0.0	0.0	0.2	0.1	0.6	0.1	0.1	1.2	0.2	1.6
	発生ほ場率	20.7	8.7	3.3	0.7	24.0	9.0	76.1	16.1	16.7	82.0	25.7	74.7

高
やや多

大津南部6地点、甲賀3地点、東近江12地点、湖東5地点、湖北4地点で、1地点につき5筆を調査し、発病度および発生ほ場率を算出した。

調査品種

「びわほなみ」：栗東市上砥山、竜王町小口、日野町猫田、近江八幡市安土町上豊浦、御所内町、多賀町、島町、東近江市上羽田、高木町、福堂町

「農林61号」：草津市下笠町、守山市赤野井町、野洲市上屋、木部、湖南市菩提寺、甲賀市水口町酒人、甲南町杉谷、東近江市南菩提寺、

米原市世継、上多良、本市場、本庄町

「ふくさやか」：東近江市横山、愛荘町東円堂、甲良町法養寺、多賀町敏満寺、彦根市普光寺町、甘呂町

「シロガネコムギ」：守山市矢島町

「ミナミノカオリ」：近江八幡市野村町

表2. オオムギ赤かび病の発生状況

地域名		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	RO2	RO3	平年	RO4
大津南部	発病度	1.2	0	0.1	0	0	0	0.1	0	0.3	0.5	0.2	0.1
	発生ほ場率	100	0	20.0	0	0	0	20.0	0	40.0	80.0	26.0	20.0
甲賀	発病度	—	0.1	0	0	0.5	—	—	—	—	—	0.2	—
	発生ほ場率	—	20.0	0	0	80.0	—	—	—	—	—	25.0	—
東近江	発病度	1.8	0.1	0.1	0.1	0.1	0.4	0.4	0.1	0.2	0.4	0.4	0.0
	発生ほ場率	100	10.0	10.0	20.0	6.7	40.0	53.3	13.3	26.7	53.3	33.3	6.7
湖東	発病度	0.5	0	0.1	0.1	0.1	—	—	—	—	—	0.2	—
	発生ほ場率	50.0	0	10.0	20.0	20.0	—	—	—	—	—	20.0	—
湖北	発病度	0.9	0.1	0	0	0.8	0	0.2	0.5	0.1	0.4	0.3	0.8
	発生ほ場率	80.0	20.0	0	0	100.0	0	30.0	70.0	13.3	60.0	37.3	73.3
高島	発病度	2.6	0	0	0	0.7	0.3	0.5	0.4	0.3	2.5	0.7	0.8
	発生ほ場率	100	0	0	0	90.0	50.0	80.0	60.0	50.0	70.0	50.0	90.0
全 県	発病度	1.3	0.1	0.1	0.1	0.4	0.2	0.3	0.3	0.2	0.9	0.4	0.5
	発生ほ場率	82.9	7.5	7.5	7.5	44.4	27.5	50.0	37.5	28.9	62.2	35.6	48.9

平年並
やや多

大津南部1地点、東近江3地点、湖北3地点、高島2地点で1地点につき5筆を調査し、発病度および発生ほ場率を算出した。

近江八幡市長田町はニューサチホゴールデン、それ以外はファイバースノウ。

調査日：コムギ5/24～30、オオムギ5/6～24

(イ) 品種別のコムギ赤かび病の発病度について

びわほなみの平均発病度(2.7)は農林61号の平均発病度(1.3)の2倍以上であった(表3)。

びわほなみの発病度が高いため、全県のコムギの発病度も押し上げられている。

表3. コムギ品種別赤かび病の発生ほ場率および発病度

	発生ほ場率	平均発病度	調査地点数	(参考) R3発病度
農林61号	75.0	1.3	12	1.1
びわほなみ	88.0	2.7	10	1.5
ふくさやか	46.7	0.6	6	0.8
R4コムギ平均値	74.7	1.6	—	—
平年値(H24-R3)	25.7	0.2	—	—

1地点につき5ほ場調査。

ウ 斑点米カメムシ類について

(ア) はじめに

2022年は、水稻出穂期前から畦畔雑草における斑点米カメムシ類の発生量が多く、出穂期以降も本田内での発生量が多い傾向が続いた。また、近年発生が目立つイネカメムシやミナミアオカメムシなどの発生地域は拡大する傾向にある。そこで、2022年の斑点米カメムシ類の発生状況を本項にまとめた。

(イ) 発生概況

6月28日（7月1日基準）に実施したすくい取り調査において、畦畔での斑点米カメムシ類の発生量は過去10年と比べて最も多かった。特に、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメおよびアカヒゲホソミドリカスミカメが県内全域で、クモヘリカメムシが山間地を中心とした一部地域で多発した。本調査において、全ての調査ほ場の畦畔に出穂したイネ科雑草が残っており、平年（67%）よりもその頻度が高かった。畦畔草刈りの徹底を呼び掛けるため、7月6日に防除情報第5号を発表した。

7月6～8日（7月11日基準）に実施したすくい取り調査において、畦畔での斑点米カメムシ類主要5種の発生量は平均88.3頭であり、平年（46.2頭）のおよそ2倍と多く、過去10年と比べて最も多かった（図1）。特に、アカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメは県内全域で、クモヘリカメムシは山間地域を中心に局所的に多発した。水稻の出穂後、本田内への侵入と加害が懸念されたことから、水田内の雑草の除去と適期の薬剤防除を呼び掛けるため、7月21日に注意報第4号を発表した。

出穂期以降も、発生量が多い傾向のまま推移した。7月25日～8月4日（臨時調査）に実施したすくい取り調査において、出穂期の本田内での斑点米カメムシ類の発生量は平均8.1頭であり、平年（5.3頭）の1.6倍と多かった。8月8～19日（8月16日基準）に実施したすくい取り調査においても、本田内での発生量は平均5.2頭であり、平年（4.1頭）よりも、やや多かった。

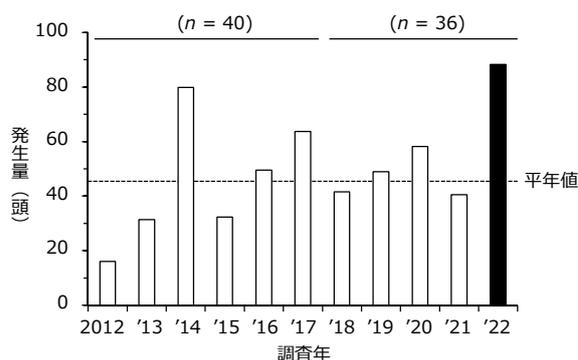


図1 7月11日基準のすくい取り調査（50回）における畦畔での斑点米カメムシ類主要5種の発生量（平均値）。

(ウ) 発生要因

気温は平年よりも高く推移し、特に、6月の気温は平年+1.6℃と高かった。活動や繁殖に好適であったことが、発生量の増加に寄与した要因と考えられる。また、調査地点では畦畔のイネ科雑草の草刈りが十分に行われず、繁殖に好適な環境がほ場周辺に残り続けたことも一因に挙げられる。

エ 近年発生が目立つ斑点米カメムシ類について

(ア) イネカメムシ



写真1 イネカメムシ成虫

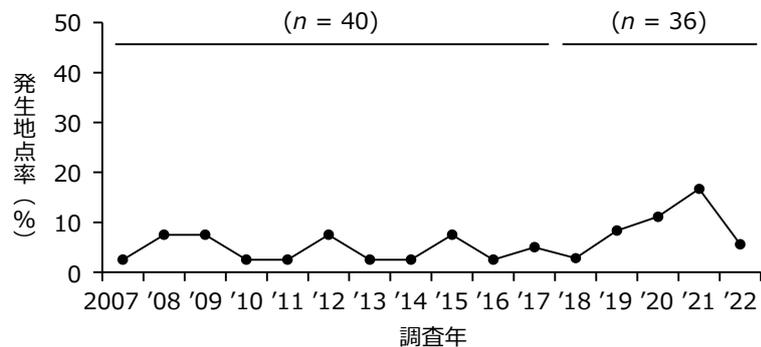


図2 2007年以降のイネカメムシの発生地点率。

1960年代に多発していたイネカメムシは（写真1）、1980年代に入り発生がほとんどみられなくなった。しかし、2000年以降、本種の発生は増加傾向にある。特に、山間地や山地に近いほ場での発生が増加し、2020～2021年以降の発生地点率は10%を超えた（図2）。2022年の発生地点率は5.6%と前年よりも低下したが、調査地点以外での発生報告が増加しており、県内全域での発生は増加傾向にあると考えられる。本種は畦畔雑草への依存度が低く、出穂の早い水田に越冬地から直接飛来すると考えられており、畦畔雑草の管理による防除が困難である。2021年以降、本種が多発した地域では、本種が要因と考えられる不稔籾の発生が散見されている。

(イ) ミナミアオカメムシ

2011年に大津市の予察灯で初めて誘殺されたミナミアオカメムシ（写真2）は、2019年以降、大津市および守山市の予察灯での誘殺数が増加しており、発生地域も北上する傾向がみられている。2022年のすくい取り調査において、本種は畦畔雑草では採集されず本田のみで採集された。この発生傾向は、本種が広食性であり、水稻以外にも野菜類やダイズなどを加害することが要因と考えられ、イネカメムシと同様に、畦畔雑草の管理による防除が困難であることを示唆している。県南部では複数の大豆ほ場で本種が多発生していた。九州地方では一部薬剤に対する感受性の低下が報告されており、防除薬剤の選択に注意が必要である。



写真2 ミナミアオカメムシ成虫

第3 重要病害虫の特別防除等推進事業

1 チチュウカイミバエの侵入警戒調査

1981～1982年は輸入果実を取り扱う地方卸売市場で実施し、1983～2001年は農業試験場本・分場および果菜類主産地で、2002年以降は農業試験場本場（2005年からは農業技術振興センター本場）において、スタイナー型誘殺トラップを設置し調査を行っている。誘引剤はトリメドルア剤を用い、毎月1回交換している。

本年は4月1日～11月30日まで毎月6回程度調査を行ったが、チチュウカイミバエの誘殺は認めなかった（日最高気温の月別平年値が14℃以上の月に調査）。

参考

表 彦根地方気象台の観測における日最高気温（℃）の平年値

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平年値（℃）	7.1	7.7	11.6	17.4	22.6	26.0	30.2	32.1	27.6	21.8	15.6	9.9

・平年値は1991年～2020年の30年間の観測値の平均値である。

2 その他病害虫の侵入警戒調査

2019年度の侵入警戒調査対象病害虫の追加に伴い、下記病害虫について調査を行った。調査方法は、「ミバエ類等侵入警戒調査実務参考資料」に基づき実施した。なお、対象病害虫の発生は認められなかった。

表 その他病害虫の侵入警戒調査

対象病害虫	対象品目	調査圃場数	調査日	調査方法	発生
チチュウカイミバエ	カキ、ナシ、ブドウ	6地点	5/12, 6/15, 7/13, 8/17, 9/20	目視	無し
ミカンコミバエ種群	カキ、ナシ、ブドウ	6地点	5/12, 6/15, 7/13, 8/17, 9/20	目視	無し
コドリンガ	ナシ	2地点	5/12, 6/15, 7/13, 8/17, 9/20	目視	無し
火傷病	ナシ	2地点	4/13, 5/12, 6/15, 7/13	目視	無し
スイカ果実汚斑細菌病	スイカ	6地点	7/1, 8/1	目視	無し

第4 農薬安全使用等総合推進事業

農薬取締法に基づく農薬販売者の届出受理事務を行った。また、農薬取扱者（農薬販売者および農薬使用者）への巡回点検・指導を実施した。さらに、農薬取扱者、農業者および農業団体等に対し、研修会等を通じて農薬の安全使用について周知徹底を図った。これらのことで農薬の販売および使用の適正化と農薬による危被害防止の啓発に努めた。

1 農薬安全使用対策

農薬の安全使用は、農薬取扱者が農薬の特性を十分理解し、適正に使用することが重要である。このため、病虫害防除推進員、県、市町、農業協同組合などの関係職員や農薬取扱者を対象とした植物防疫研修会や農薬アドバイザー講習会等において、農薬の適正使用等について指導した。また、発生予察情報発信時に啓発資料を添付した。

2 農薬販売者の届出状況

(1) 令和4年度の届出件数は下表のとおりであった。

表 届出件数（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

区分	新規届出数	変更届出数	廃止届出数	計
農薬販売者（営業所）	37	70	16	123

(2) 届出者(営業所)数

令和5年3月31日現在の届出者数は732件で、前年度より16件増であった。

3 農薬取扱者への巡回点検・指導の結果

農薬取扱者への巡回点検・指導を実施し、結果は下表のとおりであった。

農薬取扱者のうち、農薬販売者の違反内容は、届出や帳簿に関する事項であった。

巡回点検・指導の結果（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

対象	違反の内容								
	農薬販売者					農薬使用者			
	届出 の不備	無登録農薬の 販売	虚偽 の 宣伝	帳簿 の 不備	点検 拒否	無登録農薬の 使用	農薬 使用 基準 違反	点検 拒否	ゴルフ 場変更 届の不 備
99	1	0	0	4	0	0	0	0	0

農薬取扱者数 = 農薬販売者93件 + ゴルフ場6件 = 99件

農薬使用基準違反 = 0件

第5 病虫害発生予察情報発表内容

1 予報

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠
イネ	いもち病 (葉いもち)	5月17日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) 余剰苗での発生を認めていない。 (2) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月7日 (葉いもち)	平年並	平年並	(1) 余剰苗での発生時期は平年並。 (2) 本田での発生を認めていない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月21日 (葉いもち)	やや遅	平年並	(1) 余剰苗での発病時期は平年並。 (2) 本田での発生を認めていない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月5日 (葉いもち)	平年並	やや多	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや多い。 (3) BLASTAMによる6月の感染好適条件の出現日数は、やや少ない。6月3半旬に県内各地で感染好適条件が出現している。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
		7月5日 (穂いもち、 極早生・早生 品種)	平年並	平年並	(1) 葉いもちの発生時期は平年並。 (2) 現在の葉いもちの発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
		7月20日 (穂いもち)	やや早	多	(1) 葉いもちの発生量は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。
		8月2日 (穂いもち、 中生・晩生品 種)	やや早	やや多	(1) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
紋枯病		6月21日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 水稻の茎数は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日	やや遅	平年並	(1) ほ場での発生時期は遅い。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 水稻の茎数は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生時期は、やや遅い。 (2) 水稻の茎数は、やや少ない。 (3) ほ場での発生量は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。
		8月2日 (中生・晩 生品種)	平年並	平年並	(1) 中生品種の茎数は、やや少ない。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
白葉枯病		7月5日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
		7月20日	平年並	やや少	(1) 前年の発生量は少ない。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。
		8月2日	—	やや少	(1) 前年の発生量は少なかった。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
黄萎病 (ツマグロ ヨコバイ)		4月19日	—	やや少	(1) 前年の刈株再生芽の発病は認められなかった。 (2) ツマグロヨコバイの越冬量は平年並。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠
イネ	イネドロ オイムシ (イネクビ ホソハム シ)	4月19日	やや早	やや多	(1) 前年の発生量は、やや多かった。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。
		5月17日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は平年並または低く降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月7日	やや遅	平年並	(1) 余剰苗での発生時期は平年並。 (2) 本田での発生を認めていない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (4) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
イネミズ ゾウムシ		4月19日	やや早	平年並	(1) 予察灯への飛来を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		5月17日	平年並	やや少	(1) 本田への飛び込み時期は平年並。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。 (3) 育苗箱施薬による防除が普及している。
ニカメイ ガ		5月17日 (第1世代)	やや早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 越冬世代成虫の発ガ最盛期は彦根アメダス付近で5月21日ごろと予想され、やや早い。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		6月7日 (第1世代)	平年並	平年並	(1) 予察灯での誘殺時期は平年並。 (2) 予察灯での誘殺数は平年並。 (3) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (4) 育苗箱施薬による防除が普及している。 (5) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日 (第2世代)	早	平年並	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は、やや遅い。 (2) 第1世代成虫発ガ最盛期は早いと推定される。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日 (第2世代)	平年並	やや少	(1) 第1世代幼虫による被害の発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
トビイロ ウンカ		7月5日	—	—	(1) 本県では、現在までに予察灯での誘殺およびほ場での発生を認めていない。 (2) 現在までに、奈良県、静岡県、三重県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県の予察灯での誘殺が報告されている。
		7月20日	—	—	(1) 本県では、7月10日頃までに飛来が認められた場合は多発する危険性が高いが、7月12日現在、予察灯への飛来および本田での発生を認めていない。 (2) これまでに、九州地方、四国地方、近畿地方、中部地方の各県で予察灯への飛来、または本田での発生が確認されている。
		8月2日	やや早	やや多	(1) 予察灯への飛来時期は、やや早い。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日	—	やや多	(1) 予察灯への飛来を認めたが、本田での発生は認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
セジロウ ンカ		7月5日	遅	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は遅い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日	遅	やや少	(1) 予察灯への飛来時期は遅い。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
ヒメトビ ウンカ		7月5日	平年並	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は平年並。 (2) 前年の発生量はやや少なく、越冬量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日	—	多	(1) ほ場での発生量は多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠
イネ	ツマグロヨコバイ	7月5日	早	平年並	(1) 予察灯への飛来時期は早い。 (2) 前年の発生量は、やや少なく、越冬量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	多	(1) 予察灯への飛来量は多い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
斑点米カメムシ類		7月5日	平年並	多	(1) 水稻の生育時期は平年並。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 畦畔での発生量は多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日	平年並	多	(1) 畦畔での発生時期は平年並。 (2) 畦畔では、全体的にカスミカメムシ類が多い。また、一部地域においてクモヘリカメムシとトゲシラホシカメムシが多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 一部の地域で、本田内で大型カメムシ（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシなど）や小型カメムシ（アカスジカスミカメ、ホソミドリカスミカメなど）の発生量が多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
コブノメイガ		7月20日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
イチモンジセセリ(イネツトムシ)		7月5日	やや遅	やや少	(1) 第1世代幼虫の発生時期は、やや遅い。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
コバネイナゴ		6月7日	平年並	やや少	(1) 幼虫の発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量は、やや少ない。
		6月21日	平年並	平年並	(1) 幼虫の発生時期は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) ほ場での発生量は平年並。
フタオビコヤガ(イネアオムシ)		7月5日	遅	やや少	(1) 予察灯への飛来時期は遅い。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
ムギ	赤かび病	3月23日	やや遅	平年並	(1) ムギの出穂時期は早いと予想される。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。 (3) 3か月予報（2月24日発表）では、3月～5月の気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		4月19日	平年並	やや多	(1) オオムギとコムギの出穂期は平年並と予想される。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。
ダイズ	べと病	8月2日	—	平年並	(1) ほ場での初発生は早い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 過去2週間の気温は、やや高く、降水量は多く、日照時間は少なかった。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	葉焼病	8月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 過去2週間の降水量は多かった。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
アブラムシ類		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	平年並	(1) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠	
ダイズ	吸実性カメムシ類	8月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	ハスモンヨトウ	8月2日	やや早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) ほ場での発生を認めた。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	フタスジヒメハムシ	8月2日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	ハダニ類	7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		8月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	野菜全般	うどんこ病	5月17日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
			6月7日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
			6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
7月5日			—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。	
灰色かび病		6月7日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
		6月21日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
アブラムシ類		4月19日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		5月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		6月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。	
		6月21日	—	少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		7月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
		8月2日	—	平年並	(1) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	8月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。		
	9月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。		

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠
野菜全般	ハダニ類	5月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		6月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		6月21日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		8月2日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	アザミウマ類	5月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		6月7日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		6月21日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
	ヨトウガ(ヨトウムシ)	5月17日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
	ハスモンヨトウ	8月2日	平年並	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) ほ場での発生は、やや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		9月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	タバコガ類	7月5日	—	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、タバコガが多く、オオタバコガで平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		8月2日	—	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (2) ほ場での発生量は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガでは、やや多く、タバコガでは多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
9月27日		—	やや多	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガで平年並、タバコガが多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
ネキリムシ類(カブラヤガ)	8月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
キュウリ	べと病	5月17日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月7日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。
		7月5日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。
タマネギ	べと病	3月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠	
ナス科野菜	疫病	5月17日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年に発生は認められなかった。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
		6月7日	やや遅	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
		6月21日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並の見込み。	
		7月5日	—	少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並または多い見込み。	
	ニジュウヤホシテントウ類	5月17日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		6月7日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。	
	アブラナ科野菜	軟腐病	9月27日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 9月4半旬に台風14号が接近した。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		黒腐病	9月27日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 9月4半旬に台風14号が接近した。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
菌核病		9月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
アブラナ科野菜	モンシロチョウ(アオムシ)	5月17日	平年並	やや少	(1) ほ場での発生時期は平年並。 (2) ほ場での発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		8月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		9月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	コナガ	5月17日	やや早	やや多	(1) ほ場での発生時期は、やや早い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		8月2日	—	平年並	(1) 予察灯への誘殺数は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 予察灯への飛来量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		9月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 予察灯での誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	ヨトウガ(ヨトウムシ)	8月2日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		9月27日	—	やや少	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	ハイマダラノメイガ	8月2日	平年並	平年並	(1) 指標植物であるクレオメでの発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		8月23日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めた。 (2) 指標植物であるクレオメでの発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
9月27日		—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 指標植物であるクレオメへの寄生数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。		
カブラヤガ(ネキリムシ)	5月17日	やや早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は、やや早い。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (3) 前年秋期の発生量は少ない。		

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠
果樹全般	カメムシ類	4月19日	やや早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺数は多く、誘殺時期は早い。 (2) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		5月17日	早	やや多	(1) フェロモントラップでの誘殺時期は早い。 (2) チャバネアオカメムシ越冬虫数は平年並。 (3) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多く、予察灯での誘殺数は平年並。 (4) 気象予報では 気温は平年並 または 低く、降水量は平年並の見込み。
		6月7日	—	平年並	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は平年並。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は平年並。 (3) ほ場での発生を確認した。 (4) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		6月21日	—	平年並	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は平年並。 (2) フェロモントラップ、予察灯での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日	—	多	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多く、予察灯での誘殺数は平年並。 (3) 既に果樹園でカメムシ類による被害果の発生が確認されている。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日	—	多	(1) チャバネアオカメムシ成虫の越冬虫数は平年並。 (2) フェロモントラップでの誘殺数は多く、予察灯での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	多	(1) フェロモントラップでの累積誘殺数は多く、予察灯での累積誘殺数は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日	—	多	(1) フェロモントラップでの累積誘殺数は多く、予察灯での累積誘殺数は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	ハダニ類	6月21日	早	やや多	(1) ほ場での発生時期は早い。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	ハマキムシ類	5月17日	平年並	平年並	(1) フェロモントラップでのチャハマキの誘殺時期は平年並、誘殺数はやや少ない。 (2) フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキの誘殺時期と誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並 または 低く、降水量は平年並の見込み。
6月21日		—	平年並	(1) フェロモントラップでのチャハマキの誘殺数は、やや少ない。 (2) フェロモントラップでのチャノコカクモンハマキの誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
7月20日		—	平年並	(1) フェロモントラップでの7月の累積誘殺数はチャハマキは平年並、チャノコカクモンハマキは、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	アブラムシ類	4月19日	平年並	平年並	(1) 果樹全般の生育は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
5月17日		—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
ナシ	黒星病	3月23日	平年並	平年並	(1) ナシの生育は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		4月19日	平年並	平年並	(1) ナシの生育は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		5月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		6月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠	
ナシ	ナシヒメシンクイ	5月17日	平年並	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺時期と誘殺数は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		6月7日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。	
		7月5日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの誘殺数は、やや多い。 (2) ほ場での被害果を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
		8月2日	—	平年並	(1) フェロモントラップでの7月の誘殺数は、やや多い。 (2) ほ場での被害果数は、平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	ニセナシサビダニ	6月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。	
	ナシハダニ類	7月20日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		8月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
ブドウ	うどんこ病	5月17日	平年並	平年並	(1) ブドウの生育は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	べと病	6月21日	やや早	やや多	(1) ほ場での発生時期は、やや早い。 (2) ほ場での発生量は、やや多い。 (3) 前年の発生量は、やや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		7月5日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。	
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
		8月23日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	晩腐病	7月20日	平年並	平年並	(1) 前年の発生量は、やや多い。 (2) ほ場での発生を認めていない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	灰色かび病	5月17日	平年並	平年並	(1) ブドウの生育は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
		6月21日	—	平年並	(1) 開花時期の5月の降水量は少なく、ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	クワコナカイガラムシ	5月17日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) ブドウの生育は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
	チャノキイロアザミウマ	6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	カキ	炭疽病	6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
			7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
8月2日			—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
8月23日			—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
円星落葉病		6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
角斑落葉病		6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠
カキ	うどんこ病	6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	カキノヘタムシガ	5月17日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) 第一世代成虫のほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	カキクダアザミウラ	5月17日	やや早	やや多	(1) ほ場での発生時期は、やや早く発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
	チャノキイロアザミウマ	5月17日	平年並	平年並	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) カキの生育は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		8月2日	—	平年並	(1) ほ場での被害果数は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	カイガラムシ類	8月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
	カメムシ類	9月27日	—	多	(1) フェロモントラップでの累積誘殺数は多く、予察灯での累積誘殺数はやや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	チャ	炭疽病	6月7日	—	平年並
7月20日			—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
8月2日			—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
8月23日			—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
もち病		6月7日	—	やや多	(1) ほ場での発生を認めていない。 (2) 前年の発生量は多い。 (3) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
新梢枯死症		7月20日	—	やや多	(1) 感染源となる輪斑病葉の発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 感染源となる輪斑病葉の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
輪斑病		7月5日	—	やや多	(1) 前年の三番茶芽における新梢枯死症の発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
チャノコカクモンハマキ		4月19日 (第1世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は平年並。 (2) 前年の最終世代の発生量は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月21日 (第2世代幼虫)	平年並	やや多	(1) 第1世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は、予察灯・フェロモントラップで、やや少ない。 (3) ほ場での発生量は、やや多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月2日 (第3世代幼虫)	やや早	やや多	(1) 第2世代成虫の初飛来日は平年並。 (2) 第2世代成虫の予察灯での誘殺数は、やや少ない。 (3) ほ場での発生量は多い。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
チャハマキ		4月19日 (第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は平年並。 (2) 前年の最終世代の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	6月21日 (第2世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の誘殺数は予察灯・フェロモントラップで、やや少ない。 (3) ほ場での発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠
チャ	チャノホソガ	4月19日 (第1世代幼虫)	やや早	やや多	(1) 越冬世代成虫のフェロモントラップへの初飛来日は、やや早い。 (2) 越冬世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数は多い。 (3) 前年の最終世代の発生量は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		6月7日 (第2世代幼虫)	平年並	やや多	(1) 第1世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の予察灯での誘殺数は、やや多い。 (3) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		7月20日 (第3世代幼虫)	平年並	やや多	(1) 第2世代成虫の予察灯での誘殺時期は、平年並。 (2) ほ場での発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月23日 (第4世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 第3世代成虫のフェロモントラップでの誘殺時期は平年並。 (2) 第3世代成虫の累積誘殺数は予察灯・フェロモントラップで平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
チャノミドリヒメヨコバイ		6月7日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は、やや多い。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
チャノキイロアザミウマ		6月7日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
カンザワハダニ		3月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は平年並、降水量は平年並の見込み。
		4月19日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		5月17日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		6月7日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		6月21日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		7月5日	—	やや多	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		7月20日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		9月27日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。

作物名	病害虫名	発表月日	発生時期	発生量	予報の根拠
チャ	ツマグロ アオカス ミカメ	4月19日	平年並	平年並	(1) 一番茶の生育は平年並。 (2) 前年の発生量は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
	クワシロ カイガラ ムシ	5月17日 (第1世代幼虫)	早	平年並	(1) 幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(287日度、起算日1月1日、発育零点10.5℃)による予測日は早い。 (2) 越冬世代成虫の寄生株率は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。
		6月7日 (年2回発生地域・第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 調査茶園における寄生株率は平年並。 (2) 甲賀市水口町水口(茶業指導所)におけるふ化最盛期(50%ふ化卵塊が過半数に達した時期)は早い。 (3) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。
		7月20日 (年3回発生地域・第2世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 第1世代成虫の発生時期は早い。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃)による予測日は平年並。 (3) 第1世代成虫(雄繭)の寄生株率は平年並。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
		8月2日 (年2回発生地域・第2世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第1世代成虫の発生時期は、やや早い。 (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度(688日度、起算日第1世代ふ化最盛期、発育零点10.8℃、高温補正30℃)による予測日は平年並。 (3) 第1世代成虫の寄生株率(雄繭)は、やや少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。
		8月23日 (年3回発生地域・第3世代幼虫)	やや早	やや少	(1) 第2世代幼虫の発生時期は、やや早い。 (2) 第2世代成虫(雄繭)の寄生株率は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。
チャトゲ コナジラ ミ	5月17日 (第1世代幼虫)	やや早	平年並	(1) 越冬世代成虫の発生時期は、やや早い。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は平年並または低く、降水量は平年並の見込み。	
	6月7日 (第1世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 越冬世代成虫の発生時期は平年並。 (2) 越冬世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は、やや少ない。 (3) 気象予報では気温は低く、降水量は平年並の見込み。	
	7月20日 (第2世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺時期は平年並。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
	8月2日 (第2世代幼虫)	平年並	やや少	(1) 第1世代成虫の発生ピークは、やや遅い。 (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。	
	9月27日 (第3世代幼虫)	やや遅	やや少	(1) 第2世代成虫の発生時期は遅い。 (2) 第2世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は平年並。 (3) 調査茶園における幼虫の発生量は少ない。 (4) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または多い見込み。	
キク	アブラム シ類	7月5日	—	やや少	(1) ほ場での発生量は、やや少ない。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並または少ない見込み。
		8月2日	—	平年並	(1) ほ場での発生量は平年並。 (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。 (3) 気象予報では気温は高く、降水量は平年並の見込み。

2 注意報および警報

本年度、注意報を4回発表した。なお、警報は発表しなかった。

令和4年度病害虫発生予察注意報第1号

麦類赤かび病多発のおそれ

令和4年(2022年)4月26日
滋賀県

対象作物：麦類
病害虫名：赤かび病

1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：5月上旬以降
3. 発生量：やや多
4. 注意報発表の根拠
 - (1) 向こう1か月の気象予報(大阪管区气象台4月21日発表)では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ない見込みで、赤かび病菌の孢子飛散および感染に好適な条件となる可能性が高い。
 - (2) 小麦と六条大麦では、開花期から10日間程度の間にも最も赤かび病に感染しやすく、この時期に降雨が続き、気温が高いと多発しやすい。
 - (3) は種時期や地域により差異はあるが、4月下旬以降、県内全域で小麦と六条大麦の開花が始まっている。
5. 防除対策
 - (1) 小麦(「びわほなみ」を除く)は、開花始め～開花期に農薬を散布する。
 - (2) 小麦(「びわほなみ」)および六条大麦は、赤かび病に弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を合計2回散布する。
 - (3) 薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は、防除効果を高めるため、直前の散布の7～10日後頃に追加防除を行う。特に、「びわほなみ」は3回目の防除を検討する。
 - (4) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。

令和4年度病害虫発生予察注意報第2号

果樹カメムシ類による被害多発のおそれ

令和4年(2022年)7月4日

滋賀県

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：果樹（カキ、ナシ、ブドウ等）
3. 発生地域：県内全域
4. 発生程度：多
5. 注意報発表の根拠
 - (1) 果樹カメムシ類のフェロモントラップにおける累積誘殺数は6月第5半旬に急増し、6月末時点の累積誘殺数は平年の約1.9倍となった。また、6月第6半旬の誘殺数も平年の約3.9倍となっており、過去10年間で最も多い（図）。
 - (2) 既に果樹園でカメムシ類による被害果の発生が確認されている。
 - (3) 大阪管区気象台の発表では、向こう1か月の気温は高いと予想されており、果樹カメムシ類の活動がさらに活発になり、果樹園への飛来が増加するため、被害の発生が懸念される。
6. 防除対策
 - (1) 気温が高く、風の弱い夜に飛来する習性がある。園内で発生を確認したら早朝か夕方に防除を行うが、必要以上の薬剤散布は、天敵を減少させ、ハダニ類やカイガラムシ類の増加につながるので注意する。
 - (2) 防虫ネット（6mm以下）を備える果樹園では、ネットの裾をペグや土のう等で固定するとともに、ネットの破損がないか点検する。
 - (3) 局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、各園地で見回りを行う。
 - (4) 山林隣接園や過去に被害を受けた園では特に注意する。



写真 チャバネアオカメムシ（左）とフェロモントラップでの誘殺状況（右）

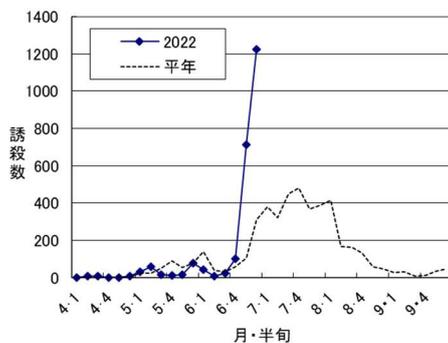


図 果樹カメムシ類のフェロモントラップでの誘殺数の推移（栗東市荒張）

令和4年度病害虫発生予察注意報第3号

穂いもちの防除は確実に！

令和4年（2022年）7月19日
滋賀県

病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：穂いもち 7月下旬以降
3. 発生量：多
4. 注意報発表の根拠
 - (1) 7月13～14日に行った調査において、県内36地点180ほ場での葉いもちの発生ほ場率は48.3%（平年20.8%）、発病度は2.4（平年1.0）と、ともに過去10年で最も高かった。また、穂いもちの伝染源となりやすい上位葉への進展も認められる。
 - (2) 葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するイネいもち病発生予測システム（BLASTAM）によると、6月中旬以降、いもち病の感染好適日または準感染好適日が県内各地で断続的に出現していた（表）。
 - (3) 向こう1か月の気象予報（大阪管区气象台7月14日発表）では、気温は高く、降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込みで、いもち病の発生に好適な条件となる可能性が高い。
5. 防除対策
 - (1) ほ場の状況（水稻の生育や葉いもちの発生状況）をよく確認し、適期に防除する。
 - ・粉剤、液剤（水和剤・乳剤等）は穂ばらみ期～出穂期に散布する。
 - ・穂いもちの発生が多い時は、さらに穂揃期～乳熟期にも防除する。
 - ・粒剤は種類により施用時期が異なるため、ラベルをよく読んで適期に散布する。
 - (2) 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一グループ薬剤を連用しない。
 - (3) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。なお、薬剤の散布にあたっては、ラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。
6. その他
 - (1) 薬剤を散布する時は、周囲に飛散しないよう注意する。
 - (2) 粒剤を施用する場合、湛水状態にし、散布後1週間は、落水やかけ流しをしない。

令和4年(2022年) BLASTAM 結果

		今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月10日	金	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	土	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	日	-	-	○1	○1	●	●	●	○1	○1
6月13日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	水	●	-	-	●	●	●	-	-	-
6月16日	木	-	-	-	-	-	○4	●	-	-
6月17日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日	水	-	●	-	-	-	-	-	-	-
6月23日	木	-	-	-	-	-	-	-	●	-
6月24日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日	日	-	-	●	-	-	-	-	●	●
6月27日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日	火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日	水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	土	?	?	-	?	-	?	-	?	?
7月3日	日	?	-	-	?	-	-	-	?	?
7月4日	月	?	○2	○2	○3	○3	○2	○2	●	○2
7月5日	火	-	○2	-	-	-	-	-	-	-
7月6日	水	○2	-	-	-	-	-	-	●	○2
7月7日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月10日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	○2
7月11日	月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	火	-	-	○2	-	-	-	-	-	-
7月13日	水	○2	○2	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	金	-	-	-	-	-	-	○2	●	-
7月16日	土	-	○2	●	-	-	-	-	●	●
7月17日	日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	月	-	-	-	○2	-	-	-	-	-

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]

- : 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)
- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
- 2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
- 3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)
- 4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- ?: 判定不能

BLASTAMとは、気象庁のアメダスデータを用いてイネの葉面湿潤時間を算出し、葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するモデル。

令和4年度 病害虫発生予察注意報第4号

斑点米カメムシ類による被害多発のおそれ

令和4年（2022年）7月21日
滋 賀 県

対象作物：水稲

病害虫名：斑点米カメムシ類

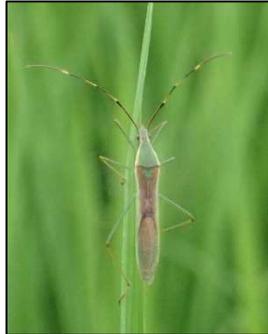
1. 発生地域：県内全域
2. 発生時期：7月下旬以降（加害時期）
3. 発生量：多
4. 注意報発表の根拠
 - (1) 7月6～8日に県内36地点での畦畔で実施した斑点米カメムシ類のすくい取り調査において、県内主要5種（写真）の平均生息数は88.3頭であり、平年（46.2頭）の約2倍と多く（図）、過去10年間で最も多い。特に、小型種のアカスジカスミカメの平均生息数は56.3頭（平年：34.0頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメは19.4頭（平年：5.2頭）、大型種のクモヘリカメムシは6.4頭（平年：2.4頭）と多い。
 - (2) アカスジカスミカメとアカヒゲホソミドリカスミカメの発生は県内全域で多く、クモヘリカメムシの発生は山間地域を中心に局所的に多い。今後、水稲が出穂すると畦畔や雑草地の斑点米カメムシ類が水田内に侵入し、加害することが懸念される。
 - (3) 大阪管区气象台発表の1か月予報（7月14日付）では気温が高いと予想されており、斑点米カメムシ類の発生や活動に好適である。
5. 防除対策
 - (1) 水田内にヒエなどのイネ科雑草が繁茂していると、斑点米カメムシ類が集まるので、早急に除草する。
 - (2) 雑草管理が不十分でイネ科雑草の出穂が多く認められる畦畔・雑草地の除草は、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むこととなり、被害が拡大する恐れがある。やむなく除草を行う場合は、本田への薬剤防除前日に実施する。
 - (3) ほ場周辺の畦畔や雑草地に小型種（アカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメ）が多く発生しているほ場では、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。大型種（ホソハリカメムシやクモヘリカメムシ等）が多く発生しているほ場では、糊熟期頃（出穂16日後を中心に10～20日後）に防除する。
 - (4) 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。
 - (5) 農薬散布後も水田内に斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、追加防除を行う。
 - (6) 薬剤は県農作物病害虫雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたっては、ラベルを確認し、農薬使用基準（使用時期・使用回数等）を遵守する。

写真 斑点米カメムシ類主要5種と斑点米

大型種



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



トゲシラホシカメムシ

小型種



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ



斑点米（着色しているもの）

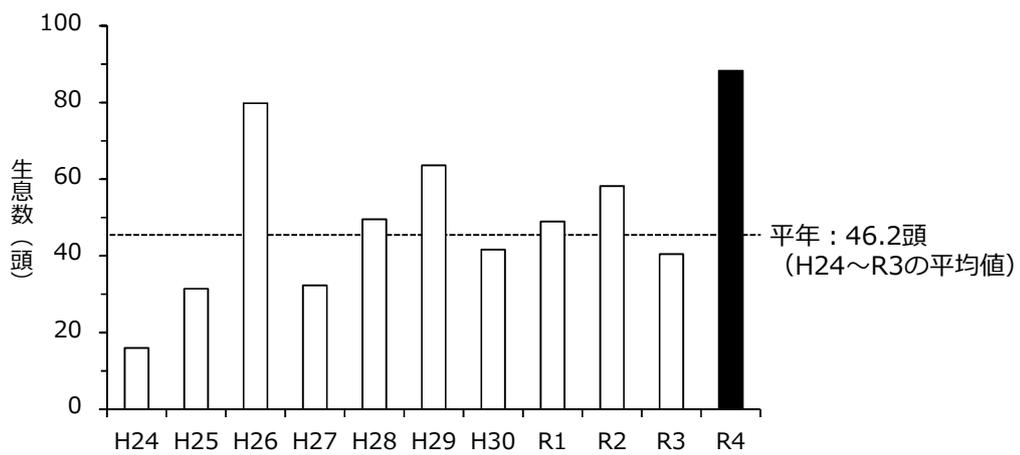


図 畦畔における斑点米カメムシ類主要5種の平均生息数
(50回すくい取り虫数の年次推移)

3 特殊報

本年度は、1回発表した。

令和4年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和4年(2022年)10月11日
滋賀県

1. 病害虫名 クロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley
2. 対象作物 トマト、ナス、ピーマン
3. 発生地域 近江八幡市
4. 発生経過
 - (1) 令和4年8月に近江八幡市内の露地栽培のトマトにおいて、コナカイガラムシ類の寄生が認められた。その後、同ほ場内のナス、ピーマンにおいても同様の寄生が認められた。滋賀県病害虫防除所において同定した結果、本県では未発生のクロテンコナカイガラムシであることが確認された。なお、県内では現在、同ほ場以外で本種の発生は認められていない。
 - (2) 本種は、平成21年に沖縄県において国内で初めて発生が確認された後、佐賀県、福岡県、愛知県、山口県、高知県、鹿児島県、大阪府、奈良県、長崎県、京都府、愛媛県、岡山県および兵庫県で発生が確認されており、本県での発生は15府県目となる。
5. 形態および生態
 - (1) 雌成虫には翅が無く、体は楕円形である。体長は通常3～4.2 mm程度で、大きい個体は5 mmを超える。雌成虫は白色でワタ状のロウ質物を背面に分泌するため、全体が白く見えるが、背面の一部にロウ質物が薄い部分があり、2対の黒斑があるように見える(写真1)。雄成虫は1対の翅をもつ。
本種の繁殖様式は、交尾後の雌が産卵する有性生殖と、雌成虫が交尾せずに産卵する単為生殖の2パターンが存在する。雌成虫は、ロウ質物の卵のう内に平均350個程度産卵する。単為生殖の場合、1世代の発育期間は平均70日程度である。
 - (2) 本種は中南米原産であるが、北米、アジア、ヨーロッパ、オーストラリアおよび西アフリカなどの世界各地で発生が確認されている。
 - (3) 広食性であり、53科154種の植物に寄生することが知られており、国内では、トマト、ナス、オクラ、ピーマン、ホウレンソウ、花きなどで発生が確認されている。植物の葉(写真2)、葉柄、茎、花芽および果実(写真3)に寄生し、吸汁により寄主植物を衰弱させる。加えて、分泌した甘露(糖分を多く含んだ排泄物)が果実の汚れや「すす症状」発生の要因となる。
6. 防除対策
 - (1) 発生を確認したほ場では、被害の拡大を防ぐため、寄生部位を早期に除去する。除去した部位は、ほ場外に持ち出し土中に埋めるか、袋に密閉した上で処分するなど、適切に処理する。
 - (2) 本種はキク科やスベリヒユ科雑草などにも生息するため、ほ場内および周辺の雑草の除草を徹底する。
 - (3) 薬剤による防除を行う場合、発生を確認後、早期に散布を実施する。なお、令和4年10月11日現在、ナスおよびピーマンではコナカイガラムシ類に対する登録農薬があるが、トマトでは登録のある農薬はないため、トマトで発生を確認した場合は寄生部位を除去し、適切に処理する。



写真1 雌成虫（体長3～4.2 mm程度）



写真2 ナスの葉裏に寄生する成虫と幼虫



写真3 ナスの果実に寄生する成虫

4 防除情報

本年度は、12回発表した。

令和4年度防除情報第1号

令和4年(2022年)4月19日
滋賀県病虫害防除所

ムギ赤かび病の防除を徹底しましょう

対象作物：小麦、大麦

病虫害名：赤かび病

大阪管区気象台4月14日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込みで、赤かび病菌の胞子飛散および感染に好適な条件になると予想されます。

ほ場でムギの出穂と開花状況を確認し、以下の注意事項を参考に適期防除を実施しましょう。

防除上注意すべき注意事項

- (1) 小麦(「びわほなみ」を除く)は、開花始め～開花期に農薬を散布する。
 - (2) 小麦(「びわほなみ」)および六条大麦は、赤かび病に弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を散布する。
 - (3) 薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は、直前の散布の7～10日後頃に追加防除を行う。
-

令和4年度防除情報第2号

令和4年(2022年)5月11日
滋賀県病虫害防除所

麦類赤かび病の発生状況と追加防除について

対象作物：麦類

病虫害名：赤かび病

5月9～10日に実施した調査において、県内30地点での小麦赤かび病の発生地点率は46.7%となり、県南部(大津・南部地域、甲賀地域、東近江地域)で66.7%と高い傾向にあります。特に、「びわほなみ」では、2回防除実施後のほ場においても発病を確認しました。大麦赤かび病についても県南部を中心に発生を認めており県内9地点での発生地点率は22.2%でした。

また、大阪管区気象台5月5日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並、降水量は平年並または多い見込みで、赤かび病の発病が助長される条件になると予想されます。

防除上注意すべき注意事項

- (1) [注意報第1号\(令和4年4月26日付\)](#)を参考に、追加防除の実施を検討する。
- (2) 薬剤は県農作物病虫害雑草防除基準を参照のこと。薬剤の散布にあたってはラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。

令和4年度防除情報第3号

令和4年(2022年)5月17日
滋賀県病害虫防除所

タマネギベと病の防除を徹底しましょう

4月中旬の調査では、県内8地点の発生地点率が12.5%、発病株率0.3%でしたが、5月9～10日の調査では、県内7地点の発生地点率が71.4%、発病株率6.7%と感染が急激に拡大しました(平年値なし)。4月下旬の降水量は73.5mmで、平年(37.6mm)の約2倍と本病の感染に好適な条件が続いたことが原因と考えられます。



写真 タマネギベと病の二次感染

ほ場をよく確認し、以下を参考に防除対策を徹底して、被害の拡大を防止しましょう。

防除上の注意すべき事項

- (1) 症状が激しい二次感染株の発生を認めた場合、速やかに発病株を抜き取り、ほ場からの持ち出しを徹底する。
- (2) 発病株の抜き取り後は、治療効果のある薬剤で早急に防除を実施する。
- (3) 本病の発生が認められない場合でも、孢子飛散による感染を防ぐため、感染前の予防散布を徹底する。
- (4) 収穫時期が近いため、薬剤の散布にあたってはラベルを確認し、農薬使用基準(使用時期・使用回数等)を遵守する。

令和4年度防除情報第4号

令和4年(2022年)6月7日
滋賀県病害虫防除所

茶園におけるチャノホソガの多発に注意!

対象作物 チャ

病害虫名 チャノホソガ(第2世代)

滋賀県農業技術振興センター茶業指導所(甲賀市水口町)内に設置しているフェロモントラップにおける、チャノホソガ第1世代成虫の累積誘殺数が平年の約2.8倍になりました。

今後、幼虫による巻葉や虫フンによる被害の増加が予想されることから、二番茶新芽への産卵状況を確認し、防除を実施しましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 新葉の裏側をよく観察し、水滴状の卵等を確認してから、三角巻葉前の卵～潜葉初期に防除を行う。
- (2) 昆虫成長制御剤は卵の時期に、他の薬剤は幼虫潜葉初期に散布する。二番茶の摘採前のため、薬剤の散布にあたってはラベルを確認し、使用時期(収穫前日数)に注意する。

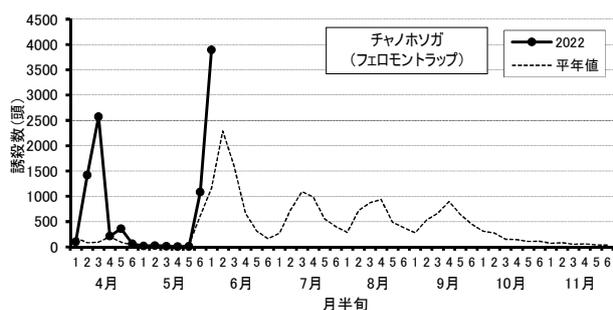


図 フェロモントラップによるチャノホソガ成虫誘殺数の推移(甲賀市水口町)



写真 フェロモントラップによるチャノホソガ成虫誘殺の状況(2022/6/3撮影)

令和4年度防除情報第5号

令和4年(2022年)7月6日
滋賀県病虫害防除所

斑点米カメムシ類の発生源となる畦畔の草刈りを徹底しましょう

対象作物：イネ

病虫害名：斑点米カメムシ類

6月28日に県内36地点の畦畔で実施した斑点米カメムシ類のすくい取り調査において、発生量は過去10年で最も多くなりました。大型のホソハリカメムシ、小型のアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメが県内全域で、大型のクモヘリカメムシが一部地域で発生しています。

本年は、畦畔にイネ科雑草が残っているほ場が平年よりも多く、全ての調査地点の畦畔で出穂したイネ科雑草が確認されています(平年：67%)。適期に除草をしない場合、本田に侵入する斑点米カメムシ類の発生源になります。

水稻の出穂2～3週間前と出穂期に畦畔の草刈りを実施し、水田への斑点米カメムシ類の侵入を防ぎましょう。なお、5月10日移植の場合、「みずかがみ」では7月23日頃、「コシヒカリ」では7月27日頃が過去9年の平均の出穂期となります。



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカスジカスミカメ



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ

令和4年度防除情報第6号

令和4年(2022年)7月6日
滋賀県病虫害防除所

葉いもちの早期発見に努めましょう！

対象作物：イネ

病虫害名：葉いもち

6月28日に実施した巡回調査(180ほ場)では、葉いもちの発生ほ場率は2.2%(平年値：0.6%)と、やや多く、6月中旬以降、いもち病の感染好適日が県内各地で出現しています(表)。

葉いもちは穂いもちの伝染源となるため、いもち病が発生しやすいほ場(育苗箱薬剤を施用していないほ場、日当たりや風通しの悪いほ場等)を中心に見て回り、必要に応じて防除しましょう。

なお、薬剤の使用にあたっては、県農作物病虫害雑草防除基準を参照してください。

表 BLASTAMによる葉いもち感染好適日の判定結果

	今津	長浜	米原	南小松	彦根	東近江	大津	信楽	土山
6月11日 土	○1	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日 日	-	-	○1	○1	●	●	●	○1	○1
6月13日 月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月14日 火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日 水	●	-	-	●	●	●	-	-	-
6月16日 木	-	-	-	-	-	○4	●	-	-
6月17日 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月18日 土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月19日 日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月20日 月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月21日 火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月22日 水	-	●	-	-	-	-	-	-	-
6月23日 木	-	-	-	-	-	-	-	●	-
6月24日 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月25日 土	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月26日 日	-	-	●	-	-	-	-	●	●
6月27日 月	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月28日 火	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月29日 水	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月30日 木	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月1日 金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日 土	?	?	-	?	-	?	-	?	?
7月3日 日	?	-	-	?	-	-	-	?	?
7月4日 月	?	○2	○2	○3	○3	○2	○2	●	○2

[JPP-NET版BLASTAMの判定結果の指標]
 ●: 好適条件(湿潤時間中の平均気温が15~25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20~25℃の範囲にある。)
 ○1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
 ○2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
 ○3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15℃~25℃以外)
 ○4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
 ?: 判定不能
 BLASTAMとは、気象庁のアメダスデータを用いてイネの葉面湿潤時間を算出し、葉いもちに感染しやすい気象条件が生じたかを推定するモデル。

令和4年度防除情報第7号

令和4年(2022年)7月21日
 滋賀県病害虫防除所

タバコガ類による被害に注意しましょう!

対象作物：野菜類、ダイズ、花き類

病害虫名：タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）の発生量が多くなっています。近江八幡市安土町大中に設置したフェロモントラップでは、タバコガの累積誘殺数は平年の2倍以上であり、過去10年で最も多くなっています（図）。フェロモントラップでのオオタバコガの累積誘殺数は平年並ですが、露地トマトでの被害が平年よりも多く認められています（写真）。

今後は露地アブラナ科野菜、施設果菜類やダイズなどに被害が拡大する恐れがあるので、注意してください。

中齢以降の幼虫は茎、結球部、花蕾や果実などに潜って食害するため薬剤がかかりにくくなります。また、中齢以降は薬剤が効きにくくなります。ほ場をよく見まわって、早めに防除を実施しましょう。

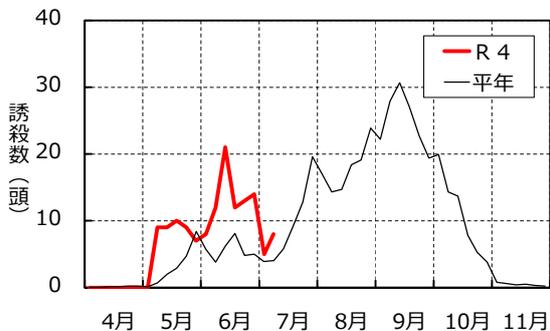


図 フェロモントラップによるタバコガの誘殺状況（近江八幡市安土町大中）



写真 トマトの果実に食入し加害するオオタバコガ幼虫

トビイロウンカの飛来を確認

対象作物：イネ

病虫害名：トビイロウンカ（坪枯れ症状）

高島市に設置した予察灯において、7月18日にトビイロウンカ1頭の飛来を確認しました。予察灯への誘殺時期は、坪枯れ症状の発生が確認された一昨年（初飛来：7月26日）と比較して早く、また、今年は近隣県でも飛来が確認されています。

大阪管区气象台発表の1か月予報（7月21日付）では、向こう1か月の気温は高く推移すると予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられます。特に、9月以降に収穫期を迎えるほ場では十分な注意が必要です。

今後は、本県が発表する発生予察情報や、近隣府県を含む広域的な発生状況に留意してください。また、ほ場に入って株元をよく観察し、発生に注意してください。

防除上注意すべき事項

- (1) トビイロウンカは通常1か月弱で世代を繰り返し、急激に増殖して坪枯れを生じさせることがあります。9月以降に収穫期を迎えるほ場では、発生状況に注意します。防除の目安は「8月中旬以降の払い落とし調査において、本虫の寄生数が1株あたり1頭以上」です。
- (2) ほ場全体をよく観察し、坪枯れ症状の前兆となる黄化症状（少数の株全体が枯れ始めて黄色くなる）の有無を確認します。トビイロウンカは株元に特に多いので、黄化症状が認められた場合、株元を注意して観察します。
- (3) 薬剤で防除をする場合は、株元に薬剤を十分散布します。特に、収穫期が近い場合の薬剤散布にあたっては、ラベルを確認し、収穫前日数を遵守して実施します。



写真 トビイロウンカ成虫



写真 株元に寄生するトビイロウンカ



写真 2020年に発生したトビイロウンカによる被害
(坪枯れ症状)

ハイマダラノメイガによる被害に注意しましょう！

対象作物：アブラナ科野菜（キャベツ、ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー等）
花き（ストック、葉ボタン等）

病虫害名：ハイマダラノメイガ

アブラナ科の野菜・花きを加害するハイマダラノメイガの発生量が多くなっています。近江八幡市安土町大中の指標植物のクレオメでは、ハイマダラノメイガの累積の寄生幼虫数が、8月5半旬時点で平年の8.2倍であり、平成25年から令和4年までの10年間で2番目に多くなっています（図）。

向こう1か月の近畿地方の気象予報（8月25日発表）では、気温は平年より高く推移する見込みであり、本種の増殖に好適な条件であるため、発生はさらに増加すると予想されます。

今後、露地のアブラナ科の野菜・花きで被害が拡大する恐れがあるため、注意しましょう。なお、本種は被害を確認してからの防除では手遅れになるので、可能な限り防除対策に努めましょう。

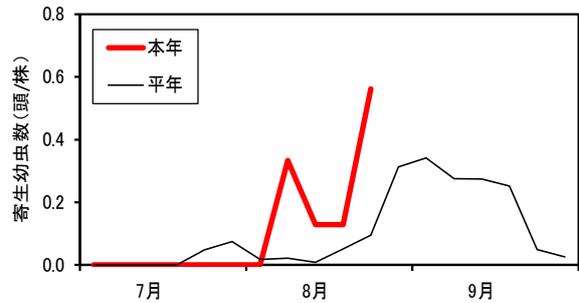


図 指標植物のクレオメでのハイマダラノメイガの寄生状況（近江八幡市安土町大中）



写真 クレオメ花上のハイマダラノメイガ成虫（約10mm）



写真 ダイコン葉上の幼虫



写真 食害を受け生長点が消失したキャベツ



写真 食害を受け正常に結球しなかったキャベツ

令和4年(2022年)9月28日
滋賀県病虫害防除所

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生地域拡大を防ぎ、冬期耕うんに努めましょう!

対象作物: イネ

病虫害名: スクミリンゴガイ

近年、暖冬の影響により県内の一部地域において、スクミリンゴガイによるイネの食害が目立っています。また、県内の発生地域は拡大傾向にあります。特に、これからの季節の秋耕等により作業後の農業機械に付着した泥に本種が混ざって移動することで、未発生地域へ持ち込んでしまう可能性があります。作業を行うほ場の順番を考慮するとともに、作業後は農業機械に付いた泥をよく洗浄し、未発生地域への持ち込みを防止しましょう。

本種は収穫後の水田や用排水路の土中に潜って越冬します。貝殻をこわす(割る)とともに、土壌表面に本種を掘り起こし寒風にさらすことで翌春の発生を抑制できます。厳冬期前(12月頃)に高回転のロータリーで丁寧に耕うんを行いましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 滋賀県版スクミリンゴガイ防除対策マニュアル(別添)を参考に、防除を検討する。
マニュアルは当所HPでも確認できます。

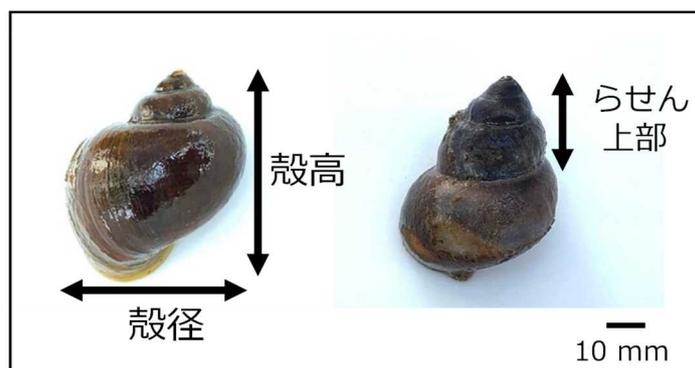


写真 スクミリンゴガイ(左)と在来種のヒメタニシ(右)。
スクミリンゴガイは在来種と比べて、殻高と殻径がほぼ同じ長さで、らせん上部が短いのが特徴です。



写真 スクミリンゴガイの卵塊

刈り株再生芽（ひこばえ）でのイネ縞葉枯病が多発！
水稻収穫後の秋耕を行きましょう！

対象作物：水稻

病害虫名：イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

刈り株再生芽でのイネ縞葉枯病（写真）の発生量が多くなっています。10月4日に行った県内36地点の調査では、発病株率が8.2%となり、平成24年から令和3年までの過去10年間で最も高くなっています（図）。

また、発生ほ場率も87.8%と過去10年で2番目に高くなっています（図）。イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。刈り株再生芽は、イネ縞葉枯病ウイルスを保有したヒメトビウンカの越冬場所となり、次作での病原ウイルスの伝染源となります。

本病の蔓延を防止するため、刈り株再生芽でイネ縞葉枯病の発生が目立つほ場では、速やかに刈り株をすき込みましょう。また、このような地域では、次作のヒメトビウンカの防除を検討願います。



写真 イネ縞葉枯病が発病した
刈り株再生芽

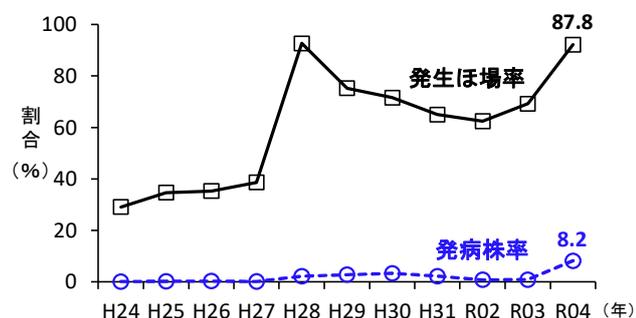


図 刈り株再生芽でのイネ縞葉枯病の発生状況

令和4年度防除情報第12号

令和5年(2023年)3月27日
滋賀県病害虫防除所

麦類赤かび病の適期防除に努めましょう！

対象作物：小麦、大麦

病害虫名：赤かび病

農業技術振興センター（近江八幡市）における11月4日播種の小麦の生育は3月中旬時点で平年より1週間程度早く進んでいます。また、大阪管区気象台3月23日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い見込みで、出穂期も早まると予想されます。

このため、開花期は平年より早くなると予想されますが、必ずしも出穂に連動して開花が早まるとは限らないため、早くから防除の準備を行い、出穂後の気温と開花状況をよく確認し、適期防除に努めましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 小麦（「びわほなみ」を除く）は、開花始め～開花期に農薬を散布する。
- (2) 二条大麦は、穂揃い10日後頃に農薬を散布する。
- (3) 小麦（「びわほなみ」）および六条大麦は、赤かび病に弱いことから、開花始め～開花期とその7～10日後頃に農薬を計2回散布する。
- (4) 薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は、直前の散布の7～10日後頃に追加防除を行う。

5 その他情報・発表・広報・研修会等

本年度、学会や広報、研修会などで発表した事例は4件あった。

- (1) 滋賀県における水稻害虫イネカメムシ（カメムシ目カメムシ科）の局地的な発生
環動昆 第33巻第3号：109-116(2022) 北野大輔、増田倫士郎
- (2) 滋賀県農薬安全指導者協議会「農薬の安全使用」研修会
令和4年7月13日（水） 滋賀県男女共同参画センター
滋賀県における斑点米カメムシ類の最近の動向 増田倫士郎
- (3) 令和4年度普及指導員専門養成研修における集合研修
令和4年10月30日（金） 農業技術振興センター
農薬の適正使用と危被害防止、主要農作物病虫害について
. 金子誠、近藤篤
- (4) 令和4年度近畿中国四国試験研究推進部会問題別研究会（病虫害）
令和4年3月6日（月）～8日（水） 広島県福山市
コムギ「びわほなみ」での赤かび病のDON濃度軽減対策の検証
. 金子誠

第6 試験成績

1 IPMの環境保全効果の評価

(1) イネ紋枯病の要防除水準の設定

ア 目的

イネ紋枯病の防除の目安として、極早生～早生品種は発病確認後即時、中生～晩生品種は出穂 20 日前の発病株率が 15～20%以上と示されている。この基準は減収率 5%を被害許容水準として設定しているが、品質面は考慮されておらず、平成 6 年に設定されて以降、見直しが行われていない。近年、気候変動や紋枯病の防除圧低下により紋枯病の発生程度が高止まりしている。この中でも特に問題となっている「みずかがみ」において、イネ紋枯病が収量と品質に与える影響及び要防除水準を検討する

イ 方法

- ア) 供試ほ場：センター内 140 号田（新農薬委託試験および資材試験ほ場） 土性：壤土
イ) 試験区：1 区を連続した 50 株とし、任意に 18 区設置した。多段階の発病株率を得るため、紋枯病菌（滋賀農技セ保存菌株）を株元施用した区（18 区のうち 12 区、7 月 11 日に 2.5 倍量の乾燥もみ殻と混和し、約 20 L/10a を株元散布により接種）を設置。
ウ) 供試品種：「みずかがみ」。栽培管理は慣行、出穂期は 7 月 27 日、成熟期は 8 月 30 日
エ) 調査方法・項目
(1) 紋枯病の発病調査：発病株率（7 月 21 日、28 日、8 月 4 日、25 日）発病高率、および被害度（8 月 29 日、羽柴法）を調査した。
(2) 収量調査：8 月 31 日に 1 区当たり 50 株を刈り取り、自然乾燥後、脱穀、籾摺を行い、精玄米重および千粒重を調査した。

ウ 結果の概要

- ア) 接種を行った無処理区の平均発病株率は 82.0%、全体の被害度は 37.4 となり、中発生条件下での試験となった（データ省略）。
イ) 7 月 21 日（出穂期 6 日前）の発病株率と全体の被害度には強い正の相関が認められたことから、出穂 6 日前の発病株率で、ほ場全体の被害度の推定が可能であると考えられた（図 1）。
ウ) 発病株率と収量について、今年度の結果からは関連性は認められなかった。これは、調査ほ場内の水稻の生育のばらつきが大きく、収量および整粒歩合が総じて低い結果となり、発病による差が出にくい状況になったためと考えられた（表 1）。

以上のことから、「みずかがみ」では、出穂期 6 日前の発病程度から最終的な被害度を推定することが可能であると示唆されたが、要防除水準の設定には他の減収要因を除外した上での検討が必要であると考えられた。

表1 紋枯病の発病株率の推移と全体の被害度および収量調査結果

発病程度別 区分	調査 区数	発病株率 (%)				病斑 高率	発病株の 被害度	全体の 被害度	精玄米重 (kg/a)	減収率 (%)	屑米重 (kg/a)	千粒重 (g)	整粒歩合
		7/21	7/28	8/4	8/25								
0%	2	0.0	1.0	5.0	6.0	51.1	50.3	2.9	412.7	0	10.5	19.6	29.1
2%前後	3	2.0	2.0	6.7	12.7	46.9	43.5	5.6	431.4	-4.5	9.5	19.5	28.7
6%前後	1	6.0	4.0	12.0	10.0	44.3	39.4	3.9	469.9	-13.8	9.5	19.9	28.1
20%前後	3	21.3	42.0	49.3	57.3	45.6	41.5	23.8	477.7	-15.7	8.3	20.0	33.3
30%前後	4	31.5	54.5	67.0	74.0	46.8	43.4	32.2	465.4	-12.8	10.4	19.8	36.8
40%前後	2	43.0	69.0	77.0	80.0	46.3	42.5	34.2	473.2	-14.7	12.7	19.8	38.7
60%前後	3	60.7	82.7	86.0	92.0	49.5	47.8	44.5	469.8	-13.8	11.0	19.9	36.1

注1) 7月21日の各区の発病株率をもとに程度別に分類した

注2) 病斑高率および被害度は8月25日に調査した。被害度は、以下に示す羽柴式被害度の調査法により算出した。

発病株の被害度 = 1.62 × 病斑高率 - 32.4、全体の被害度 = 発病株の被害度 × 発病株率 / 100

注3) 精玄米重および千粒重は、粒厚1.8mm以上、水分14.5%相当とした。減収率は発病株率1%前後区の精玄米重に対する減収割合

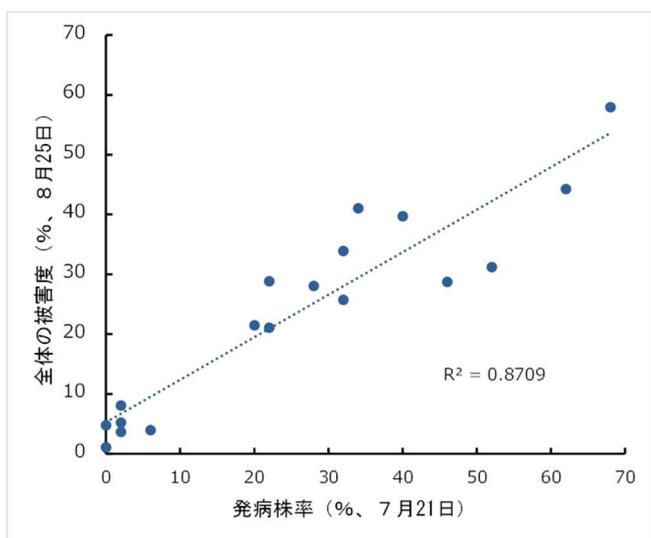


図1、7月21日（出穂期6日前）の発病株率と全体の被害度の関係

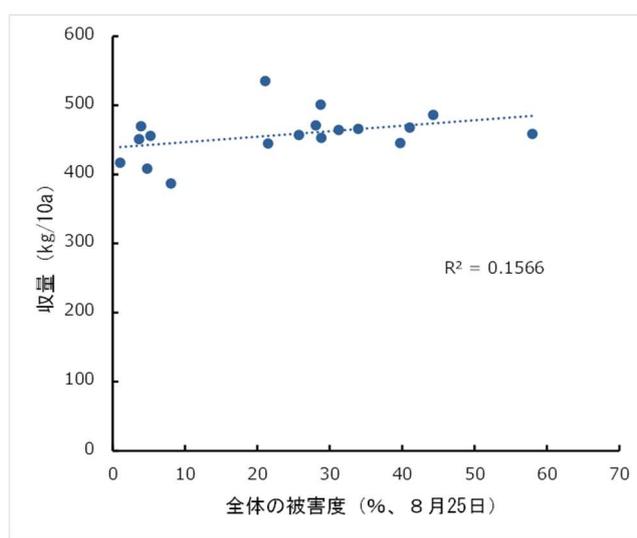


図2、全体の被害度と収量の関係

(2) トマト黄化葉巻病の管理手法の検証

ア 目的

トマト黄化葉巻病による被害の低減を目指し、トマト黄化葉巻ウイルスを媒介するタバココナジラミの化学合成農薬に依存しない I P M防除体系について検証する。

イ 方法

ア) 供試ほ場

耐候性ハウス (8×13m) 2棟

畝間：180cm、ベッド長：7m、ベッド数：4

イ) 試験区

各区：1ベッド 34株、1ベッドを1区とした

処理の組み合わせについては表1のとおり。

ウ) 耕種概要

(1) 播種：7/5、定植：8/9 肥培管理、栽培管理は慣行に準じた。

(2) 供試品種：CF 桃太郎ファイト (黄化葉巻病罹病性品種)

(3) 薬剤散布：

育苗期：8/5 ピリフルキナゾン水和剤(コナジラミ類に農薬登録有) を全供試苗に散布

本圃期：8/9 定植時にハウス1の全区にクロチアジニン粒剤1g/株を植穴処理した。

8/12、22、9/1、12、22、10/4、13、24、11/4、15、28

忌避剤(グリセリン酢酸脂肪酸エステル：ベミデタッチ乳剤)および気門封鎖剤

(調合油：サフオイル乳剤) を対象の処理区に散布。

※9/6 サビダニ類多発生によりピフェナゼート乳剤(コナジラミ類に農薬登録無) 散布。

エ) 調査項目

- ・各ベッド上2か所に設置した黄色粘着板上のコナジラミ類虫数
- ・黄化葉巻病の発生病調査 (各区1ベッド 34株、肉眼で発病の有無を調査)

表1. 区の設定

ハウス	定植時粒剤	忌避剤	気門封鎖剤
		-	-
ハウス1	+	+	-
		-	+
		+	+
		-	-
ハウス2	-	+	-
		-	+
		+	+

ウ 結果の概要

ア) 試験期間を通じたコナジラミ類虫数は、ハウス2の結果から、忌避剤+気門封鎖剤区が他の区よりも抑制される傾向にあった。ハウス1は、粒剤+忌避剤+気門封鎖剤区が他の区よりも低く推移する傾向にあった (図1)。

イ) 定植から48日後の9/22にハウス1の無処理区、ハウス2の粒剤区でトマト黄化葉巻病の初発生が確認されたが、感染拡大はあまりみられず、最終的には上記の区に加え、ハウス1の粒剤+忌避剤区のみで発病がみられた (図2、3)。

ウ) ハウス1では、9月下旬以降、粒剤のみ区を中心にサビダニ類が多発生し、コナジラミ類の発生が抑制された。粒剤の残効面を考慮したが、化学合成農薬の定植時の植穴混和の組み合わせによる更なる発病抑制効果は判然としなかった (図1、2)。

以上のことから、忌避剤と気門封鎖剤の組み合わせは、それぞれを単独で用いた場合よりコナジラミ虫数を抑制でき、黄化葉巻病の発病数を抑制することが可能であると考えられたが、化学合成農薬の定植時の植穴混和の組み合わせによる更なる発病抑制効果については検討が必要であると考えられた。

【具体的データ】

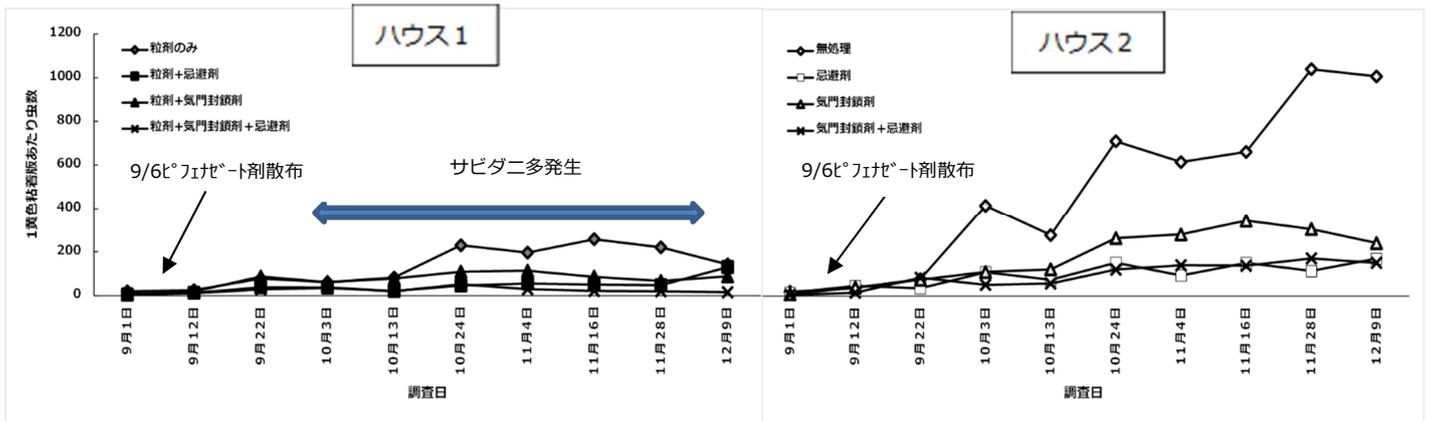


図1. 黄色粘着板に付着したコナジラミ類虫数の推移
 注) 各区に設置した黄色粘着板2枚に付着した虫数の平均値の推移

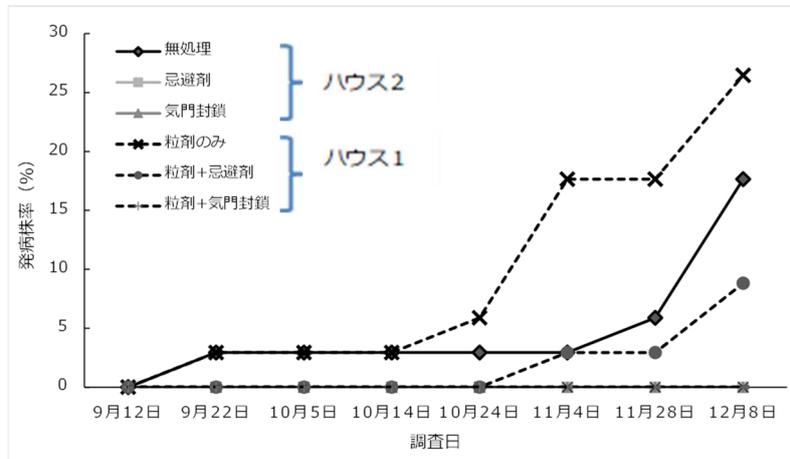


図2. 黄化葉巻病発生株率の推移

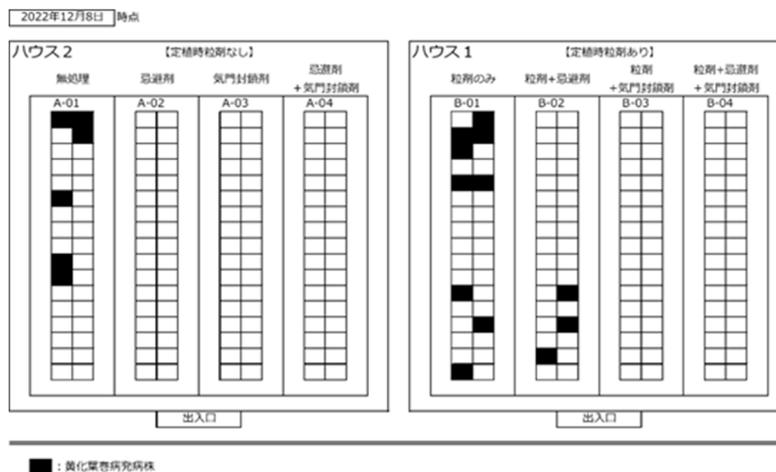


図3. 黄化葉巻病の発病状況 (12月8日調査)

(3) 粘着板トラップを用いたイネカメムシの発生予察手法の検証

ア 目的

1970年代には本県の斑点米カメムシの主要種であったイネカメムシ（小島・内田 1974）は、1980年代から発生が減少し、水田での発生は2000年頃まで確認されていなかった（田中 2000）。2007年以降、局所的ではあるが県内で毎年発生が確認されており、発生地点率は低いながらも増加傾向にある。令和3年度の本種の発生地点率は17%であり、再び発生が確認されるようになった2007年以降で最も高くなった（北野・増田, 2022）。本種の発生は局所的ではあるが、特に山間地に近いほ場での発生が目立っている（北野・増田, 2022）。本種は籾の基部を吸汁加害し、斑点米を生じさせるだけでなく、不稔を引き起こし減収させる（平江 2022）ため、その発生の予測と防除方法の検討が必要となる。そこで、本種の予測方法として報告されている粘着板トラップ（石島ら 2020）の、本県での有用性を検証した。

イ 方法

(ア) 粘着板トラップを用いた調査

大津市関津、栗東市上砥山および甲賀市信楽町黄瀬のそれぞれ2筆の水田にトラップ（図1）を1基ずつ設置した。トラップには、石島ら（2020）の白色粘着板トラップを一部改良し、上下方向に防鳥糸を10 cm 間隔で張ったものを用いた。粘着板の高さは石島ら（2020）に従い、イネの草丈が低い期間は地上40 cmとし、草丈が40 cmを超えてからはイネ群落の直上とした。トラップは6月28日～各地点のイネの成熟期まで設置し、捕獲個体数の記録と粘着板の交換を1～2週間に1度行った。

(イ) すくい取り調査

トラップの実用性を比較するため、トラップ調査期間中にすくい取り調査を実施した。すくい取り調査は口径36 cmの捕虫網を用いて、水田1筆あたり10回振りで行い、トラップを設置した水田を含む各地点5筆の水田で実施した。品種や移植日によって生育ステージが異なるため、調査日は表1のとおりであった。

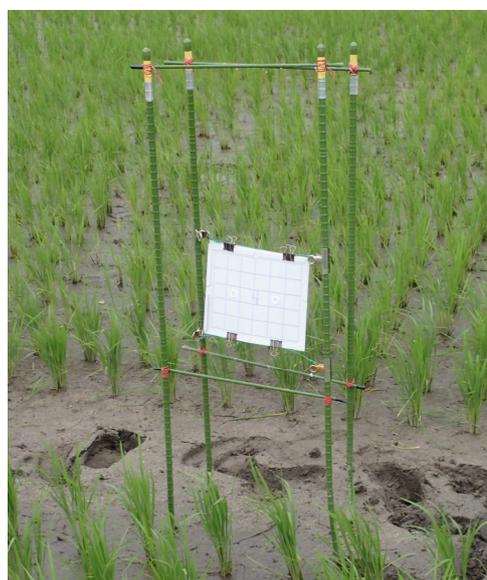


図1. 水田内に設置した白色粘着板トラップ。

表1. 各調査地点の栽培条件およびすくい取り調査日。

地点	品種	移植日	出穂期	すくい取り調査日
大津市関津	日本晴	5月7日	8月10日	7月8日、8月3日、19日
栗東市上砥山	コシヒカリ	5月16日	8月8日	7月8日、29日、8月8日
甲賀市信楽町黄瀬	みずかがみ	5月4日	7月27日	7月8日、26日、29日、8月8日

ウ 結果の概要

(ア) イネカメムシの捕獲個体数

大津市関津と栗東市上砥山では、調査期間を通して粘着板トラップおよびすくい取り調査のいずれでもイネカメムシが捕獲されなかった。甲賀市信楽町黄瀬に設置したトラップでは、7

月 26 日にイネカメムシが 10 頭捕獲され、その後も 1～2 個体が捕獲された (図 2 a)。すくい取り調査では、トラップでの捕獲を確認した 7 月 26 日に 6 頭が、3 日後の 29 日に 13 個体が捕獲された。したがって、調査日の間隔が広いため正確性に欠けるものの、粘着板トラップ調査では、出穂期より前にイネカメムシを捕獲でき、出穂期前後の本種の発生の有無を予測することができると考えられた。

(イ) 2021 年の調査結果との比較

2021 年に甲賀市信楽町黄瀬で同様の調査を行った際には、7 月 9 日にトラップで 1 頭が捕獲され、7 月 26 日にすくい取り調査で 33 頭が捕獲された (図 2 b)。2021 年の調査ほ場は、周辺ほ場の中で最も早く出穂期を迎えた。2022 年に調査を行ったほ場は、およそ 100 m 離れた場所に出穂期が 5 日程度早いほ場があった。

本種は出穂期の早い水田に集まる傾向がある (石島, 2021) ことから、周辺ほ場の中で出穂が最も早かったほ場で調査を行った 2021 年は、2022 年よりも早い時期に本種をトラップで捕獲できたことが示唆される。したがって、その地域で最も早く出穂期を迎えるほ場に粘着板トラップを設置することで、より早い時期にイネカメムシの発生を予測できる防除要否判断技術として使用できると考えられる。

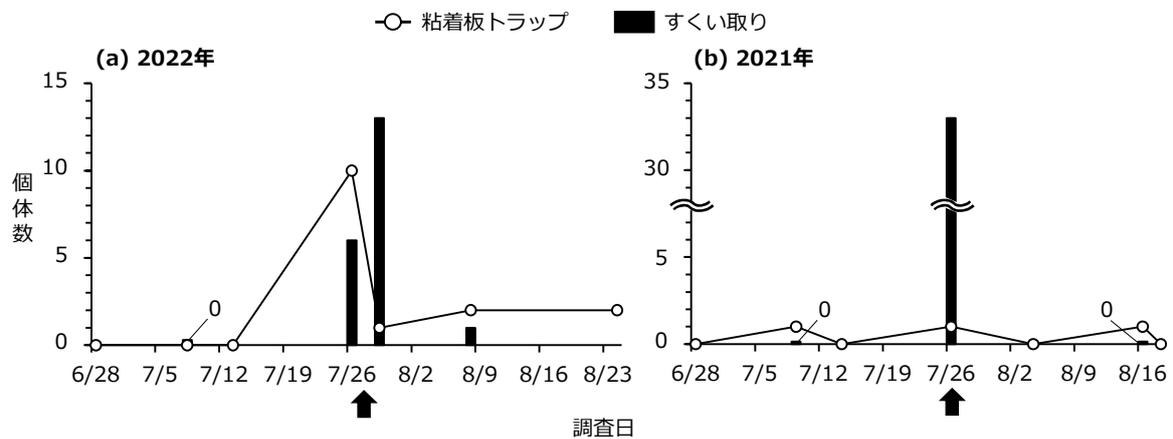


図 2. 甲賀市信楽町黄瀬において (a) 2022 年もしくは (b) 2021 年に捕獲したイネカメムシの個体数。白丸シンボルは粘着板トラップ (2 基) の、黒色バーはすくい取り調査 (計 50 回振り) の捕獲個体数を示す。矢印は出穂期を表す。

(4) カラシナを活用した紋枯病の耕種的防除手法の検討

ア 目的

イネ紋枯病は地球温暖化に伴い発生増加が懸念されている病害である。現状、紋枯病の有効な防除手段は化学合成農薬しかなく、環境負荷軽減を図れる耕種的防除手法の開発が喫緊の課題である。

辛み成分による殺菌効果を有するカラシナの土壌混和は、複数の土壌病害に対して発病抑制効果が確認されている。イネ紋枯病は、前年に形成された菌核が土壌中に残存し翌年の伝染源となる。

そこで、ほ場において水稻栽培前にカラシナをすき込み、紋枯病の発病を抑制可能か検証する。

イ 方法

1) 供試品種

みずかがみ

2) 試験ほ場

農業技術振興センター140号田

3) 試験区の設定

試験区（以下、カラシナ区）と無処理区の区間は波板で仕切り、極力入水による影響を排除した。各区の面積は80 m²（各8m×10m）。

4) 耕種概要

2021年10月28日にカラシナ（雪印種苗：辛神）を1kg/10aを播種。2022年4月28日（開花期）にハンマーナイフモアで細断後、速やかにすき込んだ。水稻の移植日は5月12日（17箱/10a）。施肥は基肥にみずかがみ専用基肥一発肥料（13-5-5）を60kg/10a施用、追肥と穂肥は施用なし。

5) すき込み時のカラシナ生育量の把握

4月28日（開花期）にカラシナの草丈（10個体）および生体重量（1 m²×3か所）を測定した。

6) 調査時期・方法

発病株率：7/22、7/29、8/5、8/12、8/19、成熟期（8/26）に各区100株×3か所調査し、第3葉以上に病斑がある株を発病株とし、発病株率を求めた。

成熟期調査：8/26に羽柴式被害度の調査法（下式）により全体の被害度を算出した。

<羽柴式被害度の調査法>

病斑高率＝最上位病斑高（cm）/発病株の草丈（cm）×100

発病株の被害度＝1.62×病斑高率-32.4

全体の被害度＝発病株の被害度×発病株率/100

ウ 結果の概要

1) カラシナの開花期（4/28）の草丈は124.8cm、生体重は3350kg/10aとなり、メーカーが推奨する3000～4000kg/10a内の生育量になった。

2) カラシナ区の発病株率は、7/22～8/26までの調査期間中、無処理区よりも低く推移し、成熟期の発病株率は、カラシナ区が13.7%、無処理区は34.3%となった（図1）。カラシナ区の発病株率は無処理区と比較して有意に低くなった（ χ^2 検定、 χ^2 値＝34、 $p<0.001$ ）（表1）。

3) 成熟期におけるカラシナ区の病斑高率と被害度は、無処理区よりも低い傾向にあった（表1）

前年度と今年度の結果より、カラシナを一定の生育量（3000～4000kg/10a）確保し、水稻移植1ヶ月前から2週間前にカラシナをすき込むことにより、紋枯病の発生を抑制できることが判明した。

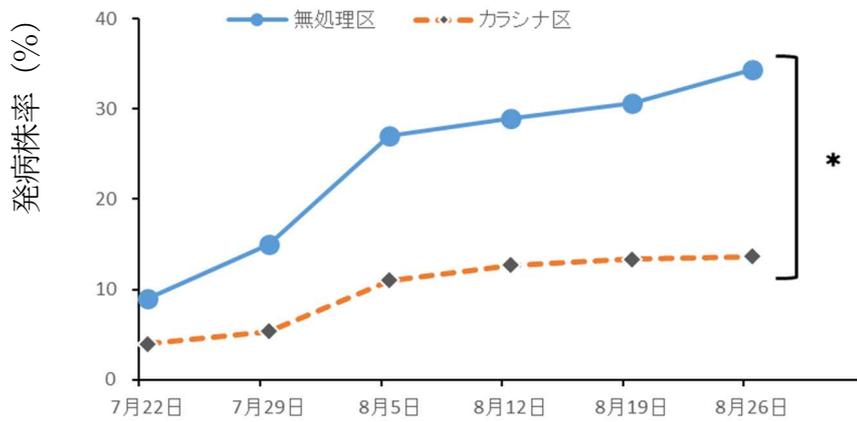


図1. 紋枯病発病株率の推移 (n=300)

*発病株数に有意な差があることを示す (χ^2 検定, $p < 0.001$)。

表1. 成熟期の紋枯病の発病抑制効果

区名	調査地点	調査株数	発病株率 (%)	病斑高率 (%)	発病株の被害度	全体の被害度
カラシナ区	I	100	13.0	32.3	19.9	2.6
	II	100	13.0	31.6	18.7	2.4
	III	100	15.0	34.3	23.1	3.5
	平均		13.7	32.7	20.6	2.8
無処理区	I	100	41.0	38.6	30.1	12.3
	II	100	40.0	39.6	31.7	12.7
	III	100	22.0	40.5	33.3	7.3
	平均		34.3	39.6	31.7	10.8

2 気象変動に伴う病害虫への発生予察・防除技術の開発

(1) 「びわほなみ」赤かび病の DON 濃度軽減対策の検証

1) 防除薬剤および回数、防除体系の検証

令和3年産コムギ「びわほなみ」で赤かび病が多発生し、本病に起因するかび毒、デオキシニバレノール（以下 DON とする）が高い濃度で検出された。気象変動により赤かび病の発生に適した気候になると、「びわほなみ」は他品種よりもかび毒によるリスクが著しく増大するため、「びわほなみ」のかび毒濃度低減に向けた防除体系と収穫調整含む総合的な防除対策の検証を行う。

ア かび毒濃度低減に有効な防除体系の検討

(ア) 方法

a 耕種概要および散布体系

供試ほ場：農業技術振興センター内ほ場（431 および 432 西側ほ場）

供試品種：「びわほなみ」、栽培管理は県栽培指針に準じるが実肥は無施用。

散布薬剤：メトコナゾール水和剤 2000 倍、150 L/10 a 散布

散布回数：表の通り

表 1、試験区の概要

試験区名	散布回数	散布時期(開花後日数)			
		4/25(開花期)	5/4(+9日後)	5/16(+21日後)	5/23(+28日後)
開花期	1	○			
開花期+10日後	2	○	○		
開花期+20日後	2	○		○	
開花期+30日後	2	○			○
3回防除	3	○	○	○	
無処理	0				

注)散布薬剤はメコナゾール水和剤2000倍 150L/10a散布

注)表中の「○」は散布を意味する

b 調査方法

発病調査：5月25日（成熟期）に1区当たり200穂以上を任意に抽出し、発病程度別穂数を調査し、発病穂率および発病度を算出した。発病度の算出方法および調査基準は以下の通り。

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2B + D) / 4N \times 100$$

A：1穂当たりの発病小穂が 3/4 以上の穂数、B：1/2～3/4 未満の穂数

C：1/4～1/2 未満の穂数、D：1/4 未満の穂数 N：調査穂数

かび毒濃度調査：各試験区 1 m²を収穫、乾燥、脱穀後、2.0 mm の篩で調製し、整粒とした。

その中から任意に 100 g 抽出し、全粒数および赤かび粒数を調査した。その際、

“脱色して白くなるか、表面にしわがある粒”（中島ら、2004 に準拠）を赤かび粒とした。調査後に全粒を粉碎し、ELISA 法（NEOGEN 社製 Veratox5/5）によりかび毒濃度（DON）を分析した。なお、このキットの DON 検出感度は 0.5 ppm から 5.0 ppm であり、5.0 ppm 以上は希釈し、検出可能な範囲で分析後、値を算出した。

接種：コムギ赤かび病菌（滋賀農技セ保存菌株）をマングビーン培地で振とう培養し、孢子懸濁液（1×10⁵個/mL）を2022年4月30日（1回目薬剤散布5日後）と5月9日（2回目薬剤散布5日後）に100L/10aとなるよう噴霧接種した。

(イ) 結果の概要

- a) 無処理区の平均発病株率は 81.6%、発病度は 48.1 となり、甚発生条件下での試験となった(表 2)。
- b) 発病抑制効果について、防除価がもっとも高いのは 3 回防除区で、次いで開花期+10 日後区となった。2 回防除を実施した区で、1 回目から 2 回目の間隔が 20 日、30 日空くと、発病抑制効果が劣る結果となった(表 2)。
- c) 赤かび粒率および DON 産生は、3 回防除区および開花期+10 日後区で高い抑制効果が認められた。一方、開花期+20 日後区、開花期+30 日後区は開花期+10 日後区と比較して、赤かび粒率と DON 濃度ともに抑制効果が低い結果となった。

以上のことから、「びわほなみ」の赤かび病防除は、開花期を始めとした複数回の防除が必要であり、開花期での防除間隔が 20 日以上空くと発病および DON 抑制効果が劣ることが示唆された。

表 2. 防除時期と散布回数の違いによる発病および DON 濃度に与える影響

試験区名	散布回数	調査穂数	発病率 (%)	発病度	防除価	赤かび粒率 (%)	DON 濃度 (ppm)
開花期	1	214	46.2	17.2	64.2	4.9	1.6
開花期+10 日後	2	220	25.8	8.8	81.7	1.1	<0.5
開花期+20 日後	2	220	37.6	13.6	71.7	3.1	1.1
開花期+30 日後	2	218	43.2	17.0	64.7	3.0	1.0
3 回防除	3	228	11.9	3.4	92.9	0.9	<0.5
無処理	0	223	81.6	48.1	-	24.3	6.1

注) DON 濃度の“<0.5”は 0.5ppm 以下を示し、キットの検出限界以下であったことを示す

イ かび毒濃度低減に有効な防除薬剤の検証

(ア) 方法

a 耕種概要および散布体系

供試ほ場：農業技術振興センターほ場 (431 および 432 西側ほ場)

供試品種：「びわほなみ」。栽培管理は県栽培指針に準じるが実肥は無施用。

散布薬剤：下記表 1 の通り。

表 1、試験区の概要

試験区名	散布回数	散布時期(開花後日数)		各区とも 150L/10 a 散布
		4/25(開花期)	5/4(+9 日後)	
トコゾール水和剤 2000 倍	2	○	○	
石灰硫黄合剤 50 倍	2	○	○	
無処理	0			

注) 表中の「○」は散布を意味する

b 調査方法

「かび毒濃度低減に有効な防除体系の検討」と同様の調査方法とした。

(イ) 結果の概要

- a) 無処理区の平均発病株率は 81.6%、発病度は 48.1 となり、甚発生条件下での試験となった (表 2)。
- b) 薬剤間で比較すると、メトコナゾール水和剤が最も防除価が高く、赤かび粒率および DON 産生も抑制された。石灰硫黄合剤は防除価が低く、赤かび粒率および DON 濃度は高い結果となった (表 2)。
- c) 有機 JAS で使用が認められている石灰硫黄合剤は、無処理区並みの結果となり、甚発生条件下では、散布回数 2 回では十分な効果が期待できないと考えられた (表 2)。

以上のことから、多発生条件下において、「びわほなみ」の散布回数を 2 回とした場合、メトコナゾール水和剤の効果が高いと考えられたが、DON 濃度 1.0ppm 以下に抑制させるためには、さらなる防除が必要であると考えられた。

表2 各種薬剤処理による赤かび病被害の違い(びわほなみ)

供試薬剤	希釈倍率	反復	調査 穂数	発病穂率 (%)	発病度	防除価	赤かび粒率 (%)	DON濃度 (ppm)
メコナゾール水和剤	2000倍	I	215	39.5%	15.2	65.7	2.0	0.6
		II	223	40.4%	14.1		8.1	2.8
		III	208	59.1%	20.2		7.9	2.4
		平均	215.3	46.3%	16.5		6.0	
石灰硫黄合剤	50倍	I	228	59.6%	30.2	9.4	17.2	>5.0
		II	211	94.3%	52.6		31.7	>5.0
		III	201	85.6%	47.9		14.7	4.2
		平均	213.3	85.6%	43.6		21.5	
無処理		I	210	61.4%	31.9		19.1	3.8
		II	244	92.2%	59.0		33.1	>5.0
		III	214	91.1%	53.5		20.0	4.4
		平均	222.7	81.6%	48.1		24.3	

注)DON濃度は、検出キット(NEOGEN社製Veratox5/5)の検出感度(0.5~5.0ppm)を超えた場合、">5.0"(5.0ppm以上)と記した

ウ 感染時期の違いによるかび毒 (DON) 産生量の変動

(ア) 方法

a 耕種概要

ほ場で栽培している「びわほなみ」をプランター(長 75cm×幅 25cm×高 14cm)に鉢上げし、各プランターごとに穂数を調整し、生育に大きな差が無いように管理した。穂ばらみ期以降は雨水が穂にかからないようビニルハウス内で栽培した。

b 試験区

感染時期の違いによる赤かび病菌の影響を確認するため、表 1 のとおりとした。1 区あたり 3 プランターとした。各区への接種は 1 回のみとし、コムギ赤かび病菌胞子懸濁液(1 × 10⁵個/ml)を 1 プランターあたり適宜、止葉から穂に噴霧接種した。発病促進のため、接種直後から 24 時間ビニル袋で穂を被覆し、ビニル除去後 1 週間、1 日 2 回の間隔で立毛上から灌水した。

表 1、試験区の概要

試験区名	接種日時	灌水期間	備考
出穂期	4月18日	4月19日 ~ 4月25日	開花始め 4/22~
出穂7日後	4月25日	4月26日 ~ 5月2日	開花期
出穂14日後	5月2日	5月3日 ~ 5月9日	
出穂21日後	5月9日	5月10日 ~ 5月16日	
出穂28日後	5月16日	5月17日 ~ 5月23日	
出穂35日後	5月23日	5月24日 ~ 5月30日	成熟期直前
無処理			

注)出穂前までにハウスで管理し、降雨が当たらないよう管理した。

注)生育状況を合わせるために適宜遅れ穂等を切除した。

注)無処理区は出穂後一度も穂に灌水していない。

c 調査方法

発病調査：発病程度別穂数を調査し、発病穂率および発病度を算出した。発病度の算出方法および調査基準は以下の通り。

$$\text{発病度} = (4A + 3B + 2C + D) / 4N \times 100$$

A：1穂当たりの発病小穂が 3/4 以上の穂数、B：1/2 ~ 3/4 未満の穂数

C：1/4 ~ 1/2 未満の穂数、D：1/4 未満の穂数、N：調査穂数

かび毒濃度調査：全穂を収穫、乾燥、脱穀後、2.0 mm の篩で調製し、粒数および赤かび粒数を調査した。調査後、全粒を粉碎し、ELISA 法 (NEOGEN 社製 Veratox5/5) により DON 濃度を分析した。なお、このキットの DON 検出感度は 0.5 ppm から 5.0 ppm であり、5.0 ppm 以上は希釈し、検出可能な範囲で分析後、値を算出した。

(イ) 結果の概要

- ア) 赤かび病の発病は、出穂期区から出穂 21 日後区まで認められ、出穂 7 日後区の発病株率が最も高く、発病度は出穂期が最も高かった (表 2)。
- イ) 赤かび粒は出穂期区から出穂 28 日後区まで確認され、出穂 7 日後区が最も高かった。DON 産生は出穂期区から出穂 28 日後区まで検出限界以上が確認され、出穂 7 日後が最も高くなった (表 2)。
- ウ) 出穂期区の灌水期間中に開花始めとなったことから、出穂期区と開花盛期である出穂 7 日後区がもっとも赤かび病による影響を受けたと考えられた。また、肉眼で発病が認められなかった出穂 28 日後区でも DON 産生が確認できたことから、「びわほなみ」においては登熟中期の感染でも、DON が蓄積する可能性があることが示唆された。

以上のことから、開花期の赤かび病菌の感染は赤かび粒率と DON 産生量が高まり、登熟中期の感染でも DON による汚染リスクのあることが示唆された。

表2、接種時期別の発病程度と赤かび粒率およびDON濃度

試験区名	調査穂数	発病穂率 (%)	発病度	赤かび粒率 (%)	DON濃度 (ppm)
出穂期	43.7	72.9	38.3	14.5	11.8
出穂7日後	44.7	80.0	32.4	16.1	22.1
出穂14日後	37.7	13.5	3.4	5.6	5.9
出穂21日後	48.0	4.5	1.1	0.7	3.9
出穂28日後	35.0	0.0	0.0	0.2	4.0
出穂35日後	27.3	0.0	0.0	0.0	<0.5
無処理	46.7	0.0	0.0	0.0	<0.5

注) 出穂期は4/17、開花始めは4/22、開花期は4/25、成熟期は6/3

注) DON濃度の”<0.5”は0.5ppm以下を示す



写真：接種後の状況



写真：出穂期区 (14 ppm)



写真：出穂7日後区 (21 ppm)



写真：出穂28日後区 (4 ppm)

2) 粒厚別のかび毒 (DON) 濃度の状況把握

ア 目的

令和3年産コムギ「びわほなみ」で赤かび病が多発生し、本病に起因するかび毒、デオキシニバレノール（以下 DON とする）が高い濃度で検出された。気候変動により赤かび病の発生に適した気候になると、「びわほなみ」は他品種よりもかび毒によるリスクが著しく増大するため、「びわほなみ」のかび毒濃度低減に向けた収穫調整の有効性について検証を行う。

イ 方法

供試品種：「びわほなみ」

供試サンプル：表1の2区の小麦を用い、任意に400g抽出し、1.8mmから2.8mmまで0.2mm単位に6段階、7区分に篩い分けし、各段階ごとに総粒数、赤かび粒率、かび毒 (DON) 濃度を調査した。なお、整粒 (2.0mm以上) での DON 濃度は、ワークアップ2回散布区が2.4ppm、無処理区が3.8ppmであった。

調査方法：赤かび粒率調査：全粒数および赤かび粒数を調査した。その際、“脱色して白くなるか、表面にしわがある粒” (中島ら, 2004 に準拠) を赤かび粒とした。

かび毒 (DON) 濃度調査：全粒を粉碎後、ELISA法 (NEOGEN社製 Veratox 5/5) により分析した。なお、このキットのDON検出感度は0.5ppmから5.0ppmであり、5.0ppm以上は希釈し、検出可能な範囲で分析後、値を算出した。

ウ 結果の概要

- (ア) 粒厚別の赤かび粒率は、粒厚が薄くなるほど高くなる傾向となった。トコゾール水和剤2回散布区は無処理区と比べ、厚い粒厚でも赤かび粒率が低くなる傾向が見られた (表1)。
- (イ) 粒厚別の重量比は、トコゾール水和剤2回散布区は2.8mm以上の粒厚が56.6%であったが、無処理区では2.6-2.8mmの粒厚が32.8%ともっとも高いことから、防除により粒厚向上に効果があることが示唆された (図1)。
- (ウ) 粒厚別のDON濃度は、粒厚が薄くなるほど高くなる傾向となった。また、ワークアップ2回散布区は、2.4mm以上の粒厚で無処理区よりもDON濃度が低くなる傾向が見られた。しかし、両区とも、2.8mm以上でも1.0ppmを上回る結果となったことから、多発生条件下では、立毛中でのさらなる発病抑制が必要であると考えられた。

以上のことから、発病程度が高いほ場では、DON濃度を軽減するためには、ほ場での発病抑制に加えて、収穫後の調製が重要であることが示唆された。

表1. 粒厚別の赤かび粒率

区名	発病穂率 (%)	調査項目	粒厚(mm)						
			<1.8	1.8-2.0	2.0-2.2	2.2-2.4	2.4-2.6	2.6-2.8	2.8<
トコナゾール水和剤2回散布	59.1	調査粒数	27	48	159	500	1074	2800	4465
		赤かび粒率	59.3	47.9	47.2	27.0	17.1	5.8	1.0
無処理	61.4	調査粒数	70	203	868	1950	2826	3054	1860
		赤かび粒率	55.7	47.3	44.5	31.4	20.6	10.3	2.5

注)発病穂率は立毛段階(5月25日)での調査結果、トコナゾール水和剤区は4月25日と5月4日に散布した
注)粒厚の”<1.8”は1.8mm以下、”2.8<”は2.8mm以上を示す

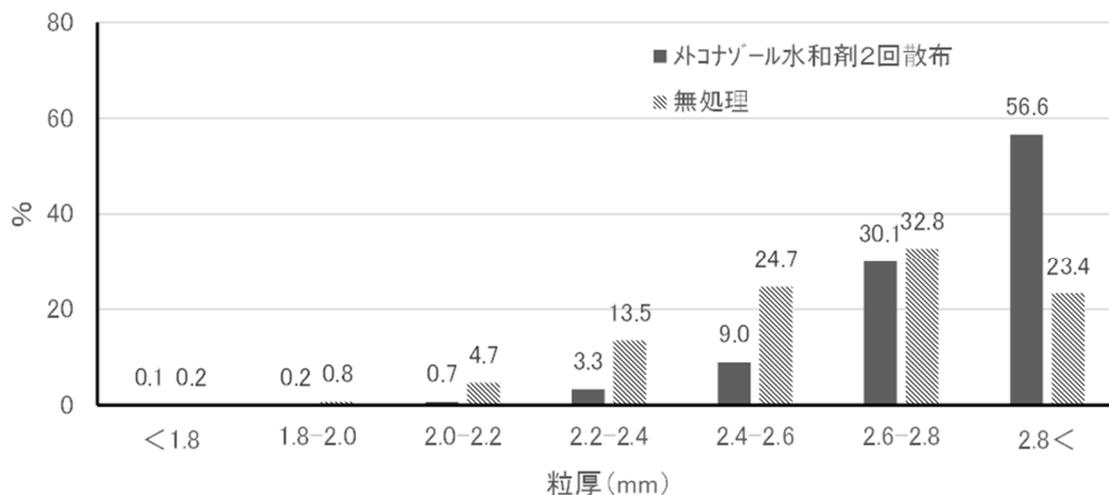


図1. 粒厚別での重量比

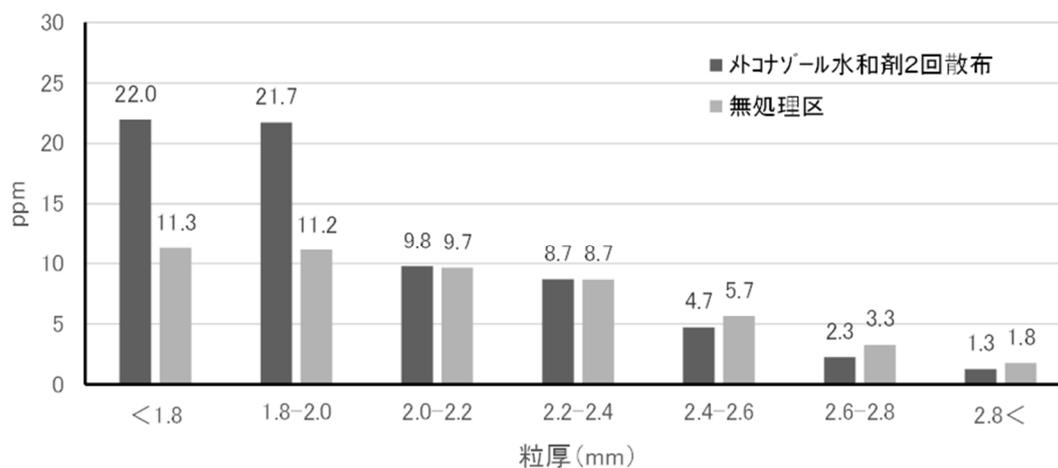


図2. 粒厚別でのDON濃度

(2) トビイロウンカの予察調査基準日の再検討とドローンによる被害初期症状の検出

ア 目的

近年の気象変動により、海外飛来性害虫による被害の発生が目立っている。2019年と2020年には、トビイロウンカによる坪枯れ症状が本県で発生した。特に、2020年は、9月下旬から10月にかけて収穫を迎えるほ場で広域的に被害が発生した。

本県におけるトビイロウンカの発生予察調査では、早生品種を対象とした基準日のみが設定されている。しかし、2020年には中・晩生品種もしくはそれらと同じ時期に収穫を迎える作型のほ場で被害が発生したため、早生品種以外に対応した予察基準日を設定することが必要である。そこで本試験では、中・晩生品種を対象としたトビイロウンカ予察調査基準日を設計する。また、被害を発生初期に発見し防除を実施するため、空撮写真による発生初期の坪枯れ症状の検出について評価する。

イ 方法

(ア) 予察調査基準日の再検討

JPP-Net 有効積算温度計算シミュレーションに基づき、トビイロウンカの予察調査基準日を推定した。稲作技術指導指針に掲載されている成熟期の3日後、すなわち、早生品種では9月1日、中生品種では9月17日、晩生品種では9月23日を収穫日と設定した。各品種の収穫日に坪枯れが発生するとした場合の飛来日、すなわち予察調査基準日を、2013～2022年の気温データを用いて推定した。

(イ) ドローン空撮による発生初期の枯死症状の検出

調査は農技センター230号田で行った。品種は「日本晴」で、稚苗を2022年6月9日に移植した。9月26日に、イネ計10株に除草剤を散布し、枯死させた。散布から7日後、ドローンで高さ25mから写真を撮影し、枯死した株が肉眼で観察できるか確認した。

さらに、枯死した株（以下、枯死株）と健全な株（以下、健全株）の差を数値として表すため、枯死株10株とランダムに選んだ健全株10株のRGB値を、画像解析ソフト「ImageJ」を用いて抽出した。抽出したRGB値およびそれらを組み合わせた値について、枯死株—健全株を判別するための指標としての妥当性を検討した。

ウ 結果の概要

(ア) 予察調査基準日の再検討

2013～2022年の気温データを用いたシミュレーションの結果、成熟期から3日後に坪枯れが発生すると想定した場合の成虫飛来日は、早生品種で7月8日、中生品種で7月23日、晩生品種で7月28日と推定された（表1）。

(イ) ドローン空撮による発生初期の枯死症状の検出

表1. 成熟期3日後に坪枯れ症状（第3世代幼虫）が発生すると想定した場合の各作型における成虫飛来日（予察調査基準日）。

品種	推定日					
	飛来日	第1世代	第2世代	第3世代		
早生	7/8 (7/6～14)	7/15 (7/10～20)	8/7 (8/5～9)	8/30 (8/30～9/1)		
中生	7/23 (7/21～27)	7/30 (7/27～8/3)	8/21 (8/18～23)	9/15 (9/15～16)		
晩生	7/28 (7/23～8/2)	8/3 (7/30～8/8)	8/25 (8/21～28)	9/23 (9/22～24)		

推定日は2013～2022年の予測の中央値を、括弧内の日付は最も早い～最も遅い日を示す。

健全株と除草剤による枯死株を撮影した結果、肉眼でも枯死株を観察できた（図1）。各株の色彩値を比較すると、枯死株のG値は健全株よりも有意に低かった（図2b）。しかし、G値とR値には正の関係があり（図3）、枯死株でもR値が高い、すなわち明るい色の株はG値が健全株と重複する場合があった。そのため、G値は枯死と健全を判別する値として不適であると考えられた。

枯死株の色（明るい黄色）はR値とG値の差で決定されることから、R-G値を比較した結果、枯死株では健全株よりも有意に高く、その値が重複することは無かった（図2d；健全株：平均-1.44（-15.0~5.0）、枯死株：平均20.3（9.0~28.8））。そのため、枯死株の検出にはR-G値を用いることが妥当であると考えられた。

以上のことから、ドローンで撮影した写真を用いて、肉眼での観察に加え、フリーソフトを用いて算出した色彩から枯死株を検出可能であることが示唆された。トビイロウンカによって枯死した株に対しても同じ手法が適用できるか検証する必要がある。



図1. ドローンで高さ25 mから撮影した稲株。矢印は除草剤で枯死した株を示す。

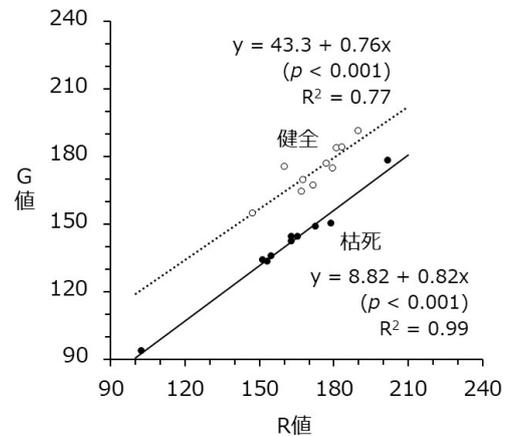


図3. ドローンで撮影した稲株のR値とG値の関係。数値は線形回帰分析による推定値を示す。白シンボルは健全株、黒シンボルは枯死株を表す。

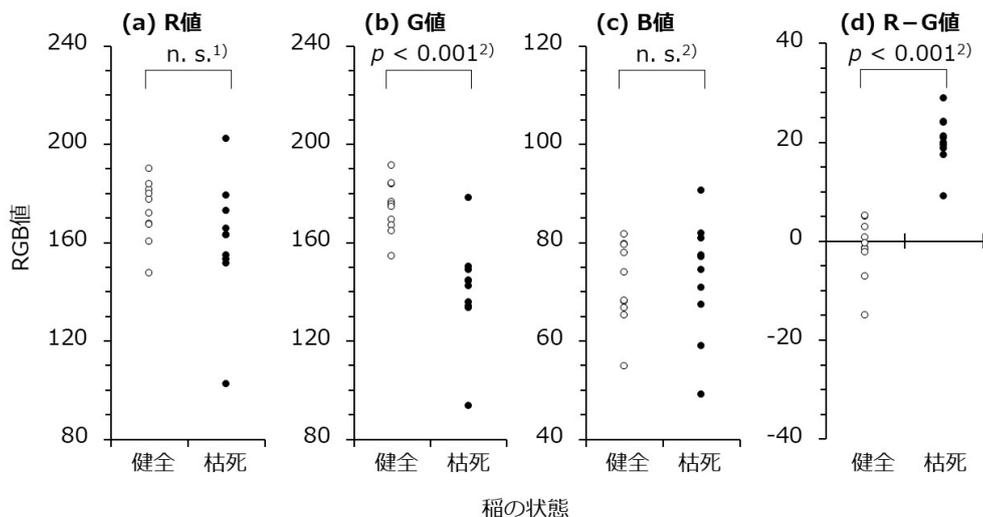


図2. ドローンで撮影した稲株の色彩値。(a) R値～(c) B値はフリーソフト「ImageJ」を用いて抽出した。白シンボルは健全株、黒シンボルは枯死株を示す。

¹⁾ ウィルコクソンの順位和符号検定、²⁾ t検定

3 発生予察データの分析

(1) 精密調査ほにおける斑点米カメムシ類虫数と斑点米の関係の検証

ア 目的

例年、発生予察事業において、県内の本田および畦畔の斑点米カメムシ類の虫数と登熟期の斑点米の発生状況を精密調査ほにおいて調査している。そこで、本調査で得られたデータから、斑点米カメムシ類の発生量と斑点米の発生量を解析し、これらの相互の関係性を検討することで、今後の発生予察の資料とする。

イ 方法

(ア) 斑点米カメムシ類のすくい取り調査

2017～2021年（平成29～令和3年）の5年間のデータを用いた。発生予察事業で設置している精密調査ほ県内36～40地点で実施している7月11日基準と8月21日基準のすくい取りデータを用いた。

畦畔部分の調査はイネ科雑草の出穂している畦畔で1地点50回すくい取り、本田の調査は1地点5筆において10回ずつ、合計50回のすくい取りを行った。

(イ) 斑点米率の算出

収穫期に各地点1筆から畦畔沿いの50穂を抜き取り、玄米に調整し、1.9mmのふるいにかけて、調査総粒数および種類別に斑点米を計数し、斑点米率（斑点米の数/調査総粒数）を算出した。

ウ 結果の概要

(ア) 斑点米カメムシ類の種間関係

7月11日基準の畦畔と8月21日基準の本田のすくい取りで捕獲された斑点米カメムシ類について見てみると、ホソハリカメムシとクモヘリカメムシでは相関係数がそれぞれ0.20と0.26、トゲシラホシでは0.19と0.36、アカスジカスミカメでは0.28と0.18、クモヘリカメムシとトゲシラホシカメムシでは0.11と0.22、トゲシラホシカメムシとアカスジカスミカメでは0.10と0.25となり、これら以外の組み合わせよりはやや相関が見られた。これは、それぞれの発生条件が共通する部分があるためではないかと推察された。

さらに、8月21日基準のカメムシ合計とアカスジカスミカメの相関係数が0.98と非常に高く、次いでホソハリカメムシが0.43と高かった。これはアカスジカスミカメの捕獲数（679頭、約69%）が全体（990頭）に占める割合が高いことによると考えられ、次いでホソハリカメムシの捕獲数（130頭、約13%）が高いことによるものと考えられた。

また、8月21日基準の調査ではアカスジカスミカメと形態がよく似ているアカヒゲカスミカメとの相関は低く（-0.03）、生態が大きく異なることや競合を起こしていることなどがあるのではないかと推察された。

表1 8月21日基準の本田ですくい取った斑点米カメムシ種間の相関係数

	ホソハリ	クモヘリ	トゲシラホシ	アカスジ	アカヒゲ	その他	カメムシ合計
ホソハリ	1						
クモヘリ	0.20	1					
トゲシラホシ	0.19	0.11	1				
アカスジ	0.28	0.05	0.10	1			
アカヒゲ	-0.02	0.00	-0.05	-0.03	1		
その他	0.24	0.20	0.08	0.11	-0.05	1	
カメムシ合計	0.43	0.17	0.17	0.98	-0.02	0.25	1

表2 7月11日基準の畦畔ですくい取った斑点米カメムシ種間の相関係数

	ホソハリ	クモヘリ	トゲシラホシ	アカスジ	アカヒゲ	その他	カメムシ合計
ホソハリ	1						
クモヘリ	0.26	1					
トゲシラホシ	0.36	0.22	1				
アカスジ	0.18	0.05	0.25	1			
アカヒゲ	-0.03	-0.03	0.03	0.19	1		
その他	0.14	0.26	0.44	0.25	0.25	1	
カメムシ合計	0.33	0.24	0.36	0.96	0.32	0.39	1

(イ) 斑点米カメムシ類の発生と斑点米率の関係

斑点米の種類別の発生率と8月21日基準の本田ですくい取った虫数の関係を見てみると、アカスジカスミカメでは相対的に高く、特に尻黒米では0.81、黒舐米では0.75と高かった。一方で標準の斑点米との相関係数は0.40であった。このことから、県内の主要な原因がアカスジカスミカメであることが推察された。一方で標準の斑点米の発生には別の斑点米カメムシ類の影響があることが推察された。

これらのことから、斑点米対策を検討するうえで改めてアカスジカスミカメの重要性が高いことが確認できた。今後、各カメムシの斑点米算出能力についても解析を行う必要があると考えられた。

表3 8月21日基準の本田ですくい取った斑点米カメムシ類の虫数と種類別斑点米率の相関係数

	ホソハリ	クモヘリ	トゲシラ	アカスジ	アカヒゲ	その他	カメムシ合計
斑点米(%)	0.09	-0.06	-0.03	0.67	-0.03	-0.01	0.62
標準(%)	0.13	-0.03	-0.02	0.40	-0.03	-0.02	0.37
黒舐米(%)	-0.01	-0.06	-0.03	0.75	-0.01	-0.01	0.69
尻黒米(%)	0.03	-0.08	-0.04	0.81	-0.04	0.02	0.75
基部加害型(%)	-0.03	0.00	-0.05	0.02	-0.02	0.02	0.02

令和4年度植物防疫事業年報
発行 令和5年(2023年)3月
滋賀県病害虫防除所

〒521-1301 近江八幡市安土町大中516
TEL : 0748-46-4926、6160
FAX : 0748-46-5559
Email : gc70@pref.shiga.lg.jp
<http://www.pref.shiga.lg.jp/boujyo/>